

事項一二 福州ニ於テ日中両国人衝突一件

九五七 十一月十三日

在福州森総領事代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

福州ニ於テ台灣籍民商店ノ燐寸学生ニ依リ燒
棄サレタルニ付嚴重處罰方省政府ニ交渉ノ件

第七八号

本月十一日当地台灣籍民瑞順洋行ニ於テ燐寸ニ担価額九拾九弗ノモノヲ取引先へ運搬ノ途中学生ノ一群ニ取押ヘラレ遂ニ燒棄セラレタル事件發生シタルニ付小官ハ直チニ福建政府ニ向ヒ暴行学生全部ノ嚴重處罰損害ノ賠償右暴行ヲ目擊シナガラ何等ノ措置ニ出デザリシ巡警ノ免職今後ノ保障等ニ付嚴重交渉中ナリ猶暴行学生ノ重ナルモノノ氏名判明シ居レリ

台灣廈門ヘ郵報シ在支公使ヘ電報セリ

九五八 十一月十七日

在福州森総領事代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

福州学生及邦人間ニ衝突アリタルニ付軍艦急
派方裏請ノ件

第七九号

昨十六日当地学生ト台灣人及内地人間ニ一大衝突ヲ惹起シ双方共発砲シ何レモ負傷者數名ヲ出シタルガ原因ハ本邦商店所屬ノ商品ヲ運搬ノ途中取リ押ヘラレタルニ基因スルモノニシテ其曲素ヨリ学生側ニアルベキモ目下真相取調べ中尚本件ノ為メ当地学生間ノ在留邦人ニ対スル反感非常ニ高マリ交通サヘ危險ノ状態ニアリ就テハ在留民保護ノ為メ軍艦ノ急派方至急御取計ヲ請フ

公使済ミ

九五九 十一月十七日

在福州森総領事代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

邦商天田洋行レイス糸運搬中学生及籍民間ニ
衝突アリタル件

第八〇号

(十一月十八日接受)
当地排日氣勢再ヒ勢ヲ盛返シツツアル次第ハ既ニ電報セル

通ニシテ本邦人所屬貨物ニシテ彼等ニ強奪燒棄セラレ尚本邦商ニハ昼夜立番ヲ附シ若シ貨物ヲ搬出スル場合ニハ之ニ

尾行シ適當ノ場所ニテ取押フル等直接ノ危害ヲ加フルニ至リ本官ハ再三嚴重ナル抗議ヲ提起セルモ是ニテハ一片ノ告

示ヲ發スルカ又ハ形式的的回答ヲ送附シ來ルニ過ギズシテ学生ノ暴行ハ益々增長スル傾アリ若シ此儘ニ過セバ折角增加ニ向ハントスル本邦品ノ取引モ亦復杜絶ヲ来シ而モ何時頃排日運動ノ終熄スベキヤモ更ニ見込立タズ結局中流以下ハ自滅ヲ待ツニ外ナラザルヲ以テ近頃日本人間及台灣人間ニ於テ一ノ組合ヲ設ケ本邦商所屬ノ貨物ノ搬出ニ監視人ヲ附シ学生等ガ貨物ヲ取押ヘタル場合ニ該学生ヲ支那官憲ニ引渡スコトトセバ官憲モ其儘ニハ附スルヲ得ザルベク又学生等モ自制スルニ至ルベシトノ見地ヨリ内地人台灣人共同シテ組合ヲ組織セル次第ナルガ李督軍ハ本官ヨリノ迭次ノ交渉ニ基キ学生等ヲ誠ムル旨ノ布告ヲ發シタルモ彼等ノ暴行ハ依然改マル模様ナク超エテ十六日ニ至リ組合員等学生等ノ様子ヲ探ラン為邦商天洋行ヨリ「レイス」糸代価百二三十元ノ物ヲ籍民五名ヲシテ見エ隠レニ監視隨行セシメ搬出シタルニ午後五時半頃基督教青年会館附近ニ於テ青年会学生三名ノ為ニ取押ヘラレ奪去ラレントスルヲ運搬苦力之ヲ拒絶シタル為学生ノ一名ハ苦力ヲ殴打セリ仍テ監視ノ籍

内田外務大臣宛(電報)

一二 福州ニ於テ日中両国人衝突一件 九五九

砲シ始ムルニ至リタルヲ以テ附近ノ料理店ニ逃込ミ三階ノ

物干台下ニ隠レ漸ク危難ヲ免レタルガ其間学生ハ該料理店

ガ日本人ヲ匿ヒタリトテ手当リ次第器具ヲ破壊シ多大ノ損

害ヲ与ヘタリ尚署長等ハ学生ノ見張嚴重ニテ逃出ス能ハズ

他料理店使用人ノ當館ヘノ密報ニ依リ交渉員ニ交渉シ兵隊

ヲ出シ護衛セシメ帰館セシメタリ又台灣總督府留学生福田

源造ハ署長ニ隨行シ現場ニ出掛けタルニ忽チ兵士ヨリ銃後

ニテ殴打セラレ數個所ノ打撲傷ヲ負ヒ捕縛セラレタルガ生

憎ボケットニピストルヲ所持シ居リタル為支那警察署ニ引

致セラレタルガ交渉ノ末直ニ當館ニ引取りタリ支那人ハ支

那重傷巡警ヲ狙擊セルハ同人ナリト主張スルモ同人ガビス

トルヲ発砲セザリシコトハ江口署長ニ於テ保証シ居レリ又

外山部長ハ署長ト同行シ居リシガ学生等ノ投シタル瓦石ニ

テ後頭部ニ軽微ノ負傷ヲナセリ尚江口ノ談ニ依レハ此ノ騒

動ハ青年会所属職員一米国人ハ学生ニ附隨シテ常ニ彼等ノ

活動ヲ指揮シ居リタリト云フ

右本件大要不取敢電報ス

在支公使ヘ電報セリ

第一四六三号 (十一月十八日接受)

本使發在福州總領事代理宛第六五号

外交部ヨリ十一月十七日接受セル福建督軍ヨリノ電報ニ拠
レハ十一月十六日福州南台ニ於テ多數日本居留民ト支那學
生等トノ間ニ争闘起リ日本人等ハ乱暴ニモ刀銃等ニテ学生
十数名ニ重傷ヲ負ハシメタル由ナルニ付居留民ニ取締ヲ加
ヘ此上事件ヲ拡大セシメサル様本使ヨリ貴官ニ電命アリタ
キ旨申出アリ就テハ本件ノ真相至急外務大臣並本使ヘ詳細
電報アリタシ

九六一 十一月十八日 (田台灣總督ヨリ
古賀内閣拓殖局長官宛 (電報))

福州在留籍民保護ノ為軍艦急派方稟請ノ件

福州ニ於テ十六日午後同地学生ト台灣人並ニ内地人間ニ一

大衝突ヲ惹起シ死傷者ヲ生シ在留本邦人ノ通行サヘ危險ナ

ル情態ヲ呈シ形勢重大ナルヲ以テ在留台灣籍民保護ノ為軍

艦急派方稟請ノ件

(十一月二十日外務省接受)

内田外務大臣宛 (電報)

福州在留籍民保護ノ為軍艦急派方稟請ノ件

福州ニ於テ十六日午後同地学生ト台灣人並ニ内地人間ニ一

大衝突ヲ惹起シ死傷者ヲ生シ在留本邦人ノ通行サヘ危險ナ

ル情態ヲ呈シ形勢重大ナルヲ以テ在留台灣籍民保護ノ為軍

艦急派方稟請ノ件

狀況不明ナルニヨリ今尚未引続キ派遣ヲ要スル危険ノ情態
ニ在リヤ折返ヘシ至急電報アリタシ

北京へ転電アリタシ

福州日中人衝突事件上海新聞ニ掲載ノ件

九六四 十一月十九日 (在上海山崎總領事ヨリ
内田外務大臣宛 (電報))

福州日中人衝突事件上海新聞ニ掲載ノ件

第四二八号

本月十八日当地ニ有力ナル漢字新聞紙上ニ福州電報トシ

テ福州ニ於ケル日支人衝突ノ模様ヲ掲載シ本邦人ハ青年会

ニ闖入シ支那学生及米国人十數名ヲ殺傷シ領事館警察署長

ハ暴行中ニ加ハリ日本人ヲ指揮シ居リタリトテ日本攻撃ノ

毒舌ヲ振ヒ居リ英字新聞中上海「ガゼット」ノ如キハ右報

道ヲ記載シ今十九日「チャイナ、プレス」ハ(福州ニ於ケ

ル日本人ハY・M・C・A襲撃ノ際支那人二名殺サル)ト

ノ大見出ノ下ニ略前掲同様ノ報道ヲ長々シク掲載シ居リ排

日的氣勢ヲ煽ラントセル模様有ルガ或ハ右ノ如キ誇張的煽

動的記事ノ為メニ當地ニ於ケル排日氣分ノ多少逆転セザル

無キヤ憂慮セラル

貴電第七九号ニ閩シ軍艦派遣方詮議中ナルモ十六日以後ノ

九六三 十一月十九日 (内田外務大臣ヨリ
在福州森總領事代理宛 (電報))

福州ハ今尚軍艦派遺ヲ要スル情態ナリヤ問合

ノ件

第三九号 (至急)

一一一 福州ニ於テ日中両国人衝突一件 九六二 九六三 九六四

一一一 福州ニ於テ日中両国人衝突一件 九六五 九六六 九六七

一〇五四

合会等ノ團体ニ電報セラレ排日的新聞ニ発表セラレタルモ

ノノ如ク「デーリー、ニュース」ノ如キハ未ダ右記事ヲ掲

ゲズ唯北京「ルーター」電報トシテ（福州ニ於ケル日本人

ノ一團丈那学生ト衝突シ内数名ヲ傷ケリ学生ヲ援助セント

セシ支那巡警モ又重傷ヲ負ヘリ）ト簡単ナル報道ヲ掲ゲ居

レルニ止マル

右御参考迄二

在福州領事ヘ電報セリ

在福州領事ヘ電報セリ

九六五 十一月二十日

在福州森總領事代理ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

九六五 十一月二十日

在福州森總領事代理ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

貴電第三九号ニ関シ

人心漸次鎮静ニ歸シ一般狀況緩和ニ向ヒツツアルモ本邦商

店ヲ襲撃スヘシトカ或ハ本邦人ヲ暗殺スヘシトカ等ノ謠言

流説熾シシテ在留民一般著シク不安ノ念ニ駆ラレ居ルヲ

以テ此際是非軍艦派遣方御詮議ヲ請フ（二十日）

在支公使ヘ転電セリ

九六六 十一月二十日

加藤海軍大臣ヨリ
内田外務大臣宛

九六六 十一月二十日

加藤海軍大臣ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

九六七 十一月二十日

在福州森總領事代理宛（電報）

九六七 十一月二十日

在福州森總領事代理宛（電報）

九六八 十一月二十日

在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

九六八 十一月二十日

在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

九六九 十一月二十一日

在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

九六九 十一月二十一日

在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

九七〇 十一月二十一日

福州事件ニ關シ新事實其成行及自衛團ニ付詳

報方森副領事ニ指示ノ件

第一四七三号

本官發福州宛十一月二十一日第六八号

九七一 十一月二十一日

（十一月二十一日接受）

福州方面軍艦派遣取止方外交部ヨリ申出アリ

タルニ付事情詳報方福州ニ電報シタル件

第一四七一号

十一月二十日本官發福州宛第六七号

貴地衝突事件ニ関シ十一月二十日外交部ヨリ福州方面ヨリ

ノ電報ニ依レハ同地領事ハ軍艦ノ派遣方ラ本国政府ニ請訓

セリトノコトナルガスケテハ益々地方人心ヲ激セシムルノ

虞アリト思ハルルニ付事件ヲ更ニ大ナラシメサル為メ右軍

艦派遣取止メラル様取計ヲ希望スル旨本使ヘ申出アリ就

テハ貴官發大臣宛第七九号電報末段ノ通リ貴官ニ於テ其當時軍艦派遣ヲ絶対必要ト認メラレ又其後ニ於テモ尚右同様

福州方面ニ於テ日中両国人衝突一件 九六八 九六九

福州不穩ノ情勢ニ鑑ミ軍艦派遣ノ件

官房機密第一五二六号

大正八年十一月二十日

外務大臣子爵 内田康哉殿 海軍大臣 加藤友三郎（印）

福州方面ニ軍艦派遣ノ件

今回福州不穩ノ情勢ニ鑑ミ第一遣外艦隊所屬軍艦嵯峨及馬公要港部所屬駆逐艦二隻ヲ至急馬尾ニ回航方取計置候

右通牒ス

追テ右派遣艦ハ居留邦民保護任務ノ遂行ニ關シテハ在福州帝國領事ト特ニ密接ナル連絡ヲ保チ尚陸戦隊ノ揚陸及武力ノ使用ニ關シテハ緊急特ニ已ムヲ得ザル場合ノ外本大臣ニ請訓ノ上処理スヘキ旨訓令致置候

第四二号

九六七 十一月二十日 在福州森總領事代理宛（電報）

福州二軍艦派遣決定ニ付措置方指令ノ件

九六八 十一月二十日

往電第三九号ニ關シ上海ヨリ軍艦嵯峨ヲ佐世保ヨリ駆逐艦二隻ヲ貴地ニ廻航セシムルコトトナレリ尚其筋ヨリハ派遣

道論議シ外交部ヨリモ頻リニ申越ノ次第モアリ當方ニ於テハ必要ニ応シ隨時説明シ居リ且ツ外交部宛ニハ前記貴電二通報告ノ趣旨ニ依リ不取敢照会ヲ發シ置キタル次第ナルモ

貴電所報ノ事実以外報告洩レノ事柄又ハ訂正ヲ要スルコト等アラハ至急電報相成度將又本件今後ノ成行ニ關シ何等変化アリ新事實等發生ノ節ハ細大遲滯ナク大臣及當方ヘ電報

アリタシ尚十一月二十日外交部員本邦新聞特派員等ト會見ノ節談本件ニ及ヒ貴地ニ於テ自衛團的組合ヲ組織シタルコトハ穩ナラスト認ムル旨語リ外交部側ニテハ之ヲ重視シ居

一一二 福州ニ於テ日中両国人衝突一件 九七〇 九七一

一〇五六

ル模様ナル処右組合組織ノ件ハ貴電第五四号中ニモ見ユレ
ト其成立ノ模様組織等猶詳細ニ承知致度シ
大臣、上海、広東ニ電報セリ

九七〇 十一月二十一日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

福州事件ニ閲シ外交部ヨリ覚書ヲ以テ在留邦
人ノ取締方軍艦派遣取止方等申越シタルニ付

意見稟申ノ件

第一四七四号(至急)

福州事件ニ閲シ外交部ハ十一月二十日附覚書ヲ以テ十一月
十三日午後基督教青年会ノ学生ハ南台ニテ故ナク日本人及
籍民數十名ニ包围攻撃セラレ鐵砲傷一人刀傷殴傷五人巡警
ノ鐵砲傷一人ヲ出シ銃ヲ持テ日本人福田源蔵等三名ヲ捕
ヘタルコト又順記料理店ヨリ石ヲ投ゲ打チ発砲シタルモノ
アリ取調ベタルニ日本領事館ノ警察官七名ナリ將ニ善後策
ヲ講ゼントシツアル際日本領事ハ軍艦ノ派遣ヲ電請シ既
ニ出發中ニテ人心憤激ストノ福建督軍ノ電報ヲ指摘シ今ヤ

山東問題ノ風潮漸ク治マラントシ支那政府ハ両国国民感情
ノ融和シ親善ノ実行ヲ期セル此ノ際福州ニテ日本人民等ガ

事実アリヤ回電方森副領事ニ指示ノ件

第一四七五号 (十一月二十二日接受)

貴地衝突事件ニ閲シ十一月二十日「北京天津タイムス」ハ
日本人等ハ一学生ヲ殺シタル後基督教青年会内ニ闖入シ二
名ノ米国人ヲ傷ケ又巡警一名ヲ殺シ尚十一名ノモノニ負傷
セシメタリトノ「上海ガゼット」記事ヲ転載シ居ル處貴電
第五九号ニハ青年会闖入ノ事実ナク且ツ米国人ニ閲スル事
項トシテハ末段江口署長ノ談トシテ青年会所屬職員一名力
学生等ノ活動ヲ指揮シ居リタルコトアルノミナルガ實際右
ノ如ク青年会立入米人負傷ノ如キ事実アリヤ外務大臣竝本
使ヘ電報アリ度シ
外務大臣、上海、広東へ電報セリ

九七一 十一月二十一日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

暴行学生ノ逮捕及学生聯合会解散等誠意アル
取締ヲ励行セシムル様福建督軍ニ嚴命方北京
政府ニ交渉セラレ度旨小幡公使ニ電請セル件

(十一月二十二日接受)

謂ハレナク学生ヲ殴打シタルハ深ク殘念トスル処ナリ本件
ハ両国政府ニテ極力人心ヲ緩和シテ誤解ヲ避ク可キニ日本
領事ハ地方官ト何等ノ弁法ヲサヘ商議スルコトナク突如軍
艦ノ派遣ヲ電請シタルハ恐ラク邦交ヲ鄭重ニスル途ニアラ
ズ且暴行者中日本警察官アルコトハ意外トスル所ナリ顧ク
ハ貴國領事ニ電命シ在留民ヲ嚴重ニ取締リ再ヒ前述ノ暴挙
ナカルヘク一面貴國政府軍艦派遣ヲ中止セラレタシ支那方
面ニテモ亦當サニ地方官ヲシテ嚴重ニ取締再度ノ衝突ナカ
ラシムヘシ是実ニ両国人民ノ誤解ヲ去リ邦交ヲ敦ウスル見
地ニ出ヅルハ貴國政府モ当サニ同感ナルヘク尚何分ノ回答
ヲ請フ旨申來レリ就テハ支那側ニ於テ既ニ地方官憲ヲシテ
嚴重取締ラシムヘシト云フ以上且事後ノ軍艦派遣ハ何等ノ
効果モナカルヘク既ニ派遣済ノ上ハ時機ヲ見計ヒ可成速ニ
帰朝セシムル方然ルヘク外交部ニ對シテハ事実ノ詳報ヲ得
次第夫々回答シ置クヘシ

上海、広東、福州へ転電セリ

九七一 十一月二十一日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

福州在留邦人ニ依ル青年会立入米人負傷等ノ

福州市場ニテハ旧年末三ヶ月間ハ最繁忙ナル季節ナルカ久
シキ排日運動ノ為日用品ノ欠乏甚シク從ツテ学生等ノ暴行
サヘナクハ本邦品ハ相當売行アル見込ニテ在留民ノ組織セ
ル組合(日貨保護団ト称ス)ニテハ今後モ引続キ本邦商品
ノ運搬ニ監視人ヲ附スル決心ナル處官憲ノ存在ヲ殆ド無視
セル学生等ニ於テモ俄ニ日貨調査隊ヲ解散スルカ如キ模様
モ見エズ從テ再ビ今回ノ如キ事件ヲ發生スル虞ナキヲ保シ
難ク若シ斯ル憂ヲ除カントセバ本邦人側ニ対シ貨物ノ運搬
ヲ禁止スル大或ハ福建政府ヲシテ学生ノ暴行ヲ取締ラシム
ルカ其ノ一ヲ押ハザルヘカラズ然ルニ本邦人側ノ取レル方
法ハ別ニ不穏当トモ認メラレズサスレハ結局福建政府ノ誠
意ヲ喚起スル外途ナク就テハ此ノ際福建政府ヲシテ本邦商
所屬貨物ヲ強奪焼却シタル学生等(姓名ハ大略判明シ居レ
リ)全部ヲ速ニ捕縛シテ嚴重處罰ヲ加ヘ且ツ排日運動ヲ目
的トシテ組織セラレタル学生聯合会及日貨調査隊ナルモノ
ヲモ直ニ解散セシメ事實上誠意アル取締ヲ励行セシムル様
李督軍ニ対シ嚴重電命方北京政府へ御交渉相成度シ
大臣へ転電済ミ

九七三 十一月二十二日 在中国小幡公使（ヨリ）内田外務大臣宛（電報）

中央政府ヨリ福建督軍省長ニ対シ暴行学生ノ

嚴重取締方電訓セラレ度旨外交部ニ要請シタ

ル件 (十一月二十三日接受)

第一四八〇号

(十一月二十三日接受)

往電第一四七四号ニ関シ支那側及外字新聞共ニ事件ノ曲全然日本人ニ有ル由伝ヘ居リ此ノ際先ツ其ノ真相ヲ明カナラシメ置クノ必要有ルヲ認メ不取敢十一月二十日附ヲ以テ外交総長代理ニ対シ大体福州領事ヨリノ電報ニ基キ事實ヲ叙述シタル後要スルニ福州地方ニ於テ數月間ニ亘レル排日排貨ノ風潮ガ遂ニ今回ノ大衝突惹成ノ因ヲ成スニ至リタルハ

両国ノ為メ甚ダ遺憾トスベク何レ本件ハ帝国領事ヨリ地方官ニ交渉ニ及ビ又本使ヨリモ申進ズル次第有之ベキモ此ノ際外交総長ヨリ福建督軍省長ニ対シ此ノ上更ニ学生団ヲシテ帝国商民適法ノ商業取引ニ無法ノ干涉ヲ敢テシ其ノ横行無節制ニ委スル事ナク嚴重取締ヲ実行シ切実ニ地方ノ秩序

ヲ維持スルト同時ニ居留外人ヲシテ安全且自由ニ其ノ営業行為ヲ継続セシメ得ル様殊ニ電訓有リタク尚ホ本使ヨリモ行會ノ喧嘩始マリタルガ籍民側ハ学生等ヲ青年会迄追ヒ捲リ同会ノ門前ニ於テ万歳ヲ唱ヘニ三丁引き返シタルガ此ノ時迄ハ双方発砲セズ然ルニ更ニ三百ノ学生等押シ寄セ来タリ短銃ヲ發砲シ始メタルガ其ノ時附近ニ在住セル籍民ニシテ短銃、鉄砲等ヲ持チ応援ニ來タリタルモノ五、六名アリ混乱ノ最中数百ノ武装巡警及ヒ軍隊來着直チニ軍銃ヲ發砲シ學生等ヲ援助シテ籍民ヲ取り押ヘムトシタル為メ籍民等モ之ニ向ヒテ發砲シ混雜ニ紛レテ逃ケ去リタリ支那側ハ籍民ガ青年会ニ侵入シタリト称スルモ事実ニアラズ同会ハ排日ノ巢窟ニシテ常ニ多數学生出入シ居リ同会ニ侵入スルハ恰モ死地ニ踏ミ入ルガ如ク籍民等何レモ其ノ辺ハ心得居レリ

領事ニ対シ在留邦人ニ対シ充分取締ヲ励行シ此ノ上更ニ事件ノ拡大若ハ再發ヲ見ルニ至ルガ如キ事ナカラシムル様努ムベキ旨電訓ニ及ブベキニ付右様承知有リ度シト結ビ照会シ置ケリ委細郵報

廣東上海福州ヘ転電シ天津ヘ郵送セリ

尚本件関係電報總ベテ為参考天津ヘ郵報シ置ケリ

九七四 十一月二十三日 在福州森總領事代理ヨリ

福州ニ於ケル日中両国人衝突原因及真相ニ閑

シ追報ノ件

第八五号

(十一月二十四日接受)

日支人衝突ノ件ニ關シ左ノ通り追電ス

一、今回ノ事件カ学生等ノ過激ナル排日運動ニ基因スルハ言ヲ俟タサレトモ直接ノ原因ハ日貨調査隊ト称スル学生三名カ邦商天田洋行ノ貨物ヲ運搬ノ途中取押ヘ検査シタルニアルコトハ該貨物ヲ運搬セル同洋行ノ苦力陳述ニ依リ明ナリ

尚各学校学生等ガ受持区域ヲ定メ要所要所ニ見張リヲ置キ日貨ヲ調査シ之ヲ破棄シツツアル事実ハ内外人ノ熟知スル

今回ノ喧嘩ニ青年会所屬外国人二名干与シ内一名ハ短銃ヲ持チ学生等ト共ニ格闘中籍民側ニ於テ取押ヘ相当手酷ドク殴打ヲ加ヘ其ノ所持セル短銃ヲ籍民側ニ奪ハレタリト云フ北京天津「タイムス」ニ米国人殺害セラレタリトアルハ之ヲ誇張シタルモノナルヘシ

三、順記ノ主人及使用人ハ直ニ門ヲ閉シ三階ノ隠場ヲ教へ且ツ電灯ヲ滅シ門前ニ蠍集セル学生ニ向ヒ日本人等ハ何レヨリカ逃ヶ去レリト説明セルモ学生等ハ承知セスシテ侵入シ殆ト一切ノ器具ヲ破壊セリ

順記主人ハ兼テ本邦人ニ好意ヲ有シ居レルモノニシテ学生等ノ引揚ケタル後麵包麦ヲ持チ來リ慰藉シタリトノコトナリ然ルニ外交部覺書中ニ日本領事館員カ順記ノ器具ヲ破壊シ且發砲シタリトハ捏造ノ甚シキモノナリ（江口一行ハ一人モ「ピストル」ヲ所持セルモノナシ）尚支那警察ヨリ順記ニ対シ同店ノ器具ヲ破壊セルハ日本人ナル旨ヲ申立テ損害賠償ノ要求ヲナスヘシト迫ラレ已ムナク書面ヲ認メ署名シテ支那警察ニ差出シタルモ右ハ本意ニ非サルニ付惡カラス承知アリタキ旨一籍民ニ内報シ来リタリ之ニ依リテ見ルモ支那側曲弁ノ一二ヲ知ルニ足ラン将又外交部覺書中日本

一一 福州ニ於テ日中両国人衝突一件 九七四

一一 福州ニ於テ日中両国人衝突一件 九七四

一一 福州ニ於テ日中両国人衝突一件 九七五 九七六

一〇六〇

警察官カ暴動中ニ加ハリ居リタルハ意外トスル所ナリトノ

一言ニ至リテハ不都合千万ト言ハサルヘカラズ

四、米國領事ハ喧嘩ノ当夜本官ニ私信ヲ送リ武器ヲ携帶セ

ル多數ノ日本人台灣人故ナク米國ノ所有ニ係ル基督教青年

会ニ侵入シテ支那学生一名ヲ取り押へ何レニカ立去リタル

旨青年会ヨリ電話アリタルニ付之等日本人ノ取締方ヲ依頼

スル旨申越セリ本官ハ本月二十日米國領事ニ會見シ喧嘩ノ

原因及狀況ヲ述へ決シテ支那新聞及学生等ノ言フカ如キ事

実存セサル旨説明シタル上本邦人ノ財産上ニ蒙ムレル危害

防止ニ付テ何等意見ナキヤト質問ヲ試ミタルニ同領事ハソ

ハ甚タ六ヶ敷キ問題ナリト答ヘタル後尚今回ノ喧嘩ニ関シ

申越サレタキコトアラハ公信ニテ照会セラレ度キ旨述ヘタ

ルニ何等交渉ヲ開始スル意図ナキ旨答ヘタリ

在支公使、上海、廣東總領事ヘ電報セリ

九七五 十一月二十四日 在福州森総領事代理宛（電報）

福州衝突事件ハ日本側ノ計画的行動ナリトノ

説二付真相回電方ノ件

第四三号（至急）（極秘）

艦ノ福州迄溯江方同艦長ニ依頼セル件

第八六号

（十一月二十五日接受）

昨夜十二時頃当地南台ニ於テ十二三名ノ学生通行中ノ一籍

民ヲ取押へ激シク殴打ノ末「ジャンク」造船所附近ニ連行

キ鈍刀ヲ以テ脊部太腿部其他數ヶ所ニ切創ヲ与へ且裸体ト

ナシ全身ニ「コールタール」ヲ塗付ケ何人ナルヤ判明セザ

ル様ニナシ夜間其儘棄置キタルヲ今朝通行ノ支那人ニ発見

セラレ支那巡警ニ於テ車ニ乗セ艦樓ヲ以テ掩ヒ支那警察署

ニ運搬ノ途中一ノ籍民之ヲ発見シ附近巡邏中ノ當館巡查ニ

密報シタルヲ以テ直チニ當館ニ引取りリタリ目下手当中ナル

ガ重態ナリ衝突事件ニ依リ日夜不安ノ念ニ駆ラレタル在留

ノナリト曲弁シ居レリ

廣東へ電報セリ

ルコトヲ満場一致可決シタリ本團ノ主ナル目的ハ

（一）邦商ノ請求アルトキハ商品輸送ノ保護ヲ為シ

（二）邦商ノ店舗又ハ住宅ニ対シ危険ノアル場合又ハ商業ノ妨

害ヲ為スモノアルトキハ保護防衛ノ策ヲ講ズルモノナル

ガ真ノ目的ハ市中運搬ノ途中ニアル邦商所屬ノ貨物ガ日

貨調査隊ト称スル学生ニ強奪セラレントスルトキ右学生

ヲ取押へ支那官憲ニ引渡スニアリ

又費用ハ居留民会及台灣公会折半シテ負担スルコトトシ

差当リ二千弗ノ支出ヲ可決シタリ次ニ本團ノ役員ハ團

長、副團長、幹事長各一名幹事十二名常備員十五名ナリ

在廣東總領事ヘ電報セリ

九七七 十一月二十四日 在上海山崎總領事ヨリ

福州事件ニ關シ上海學生團代表者等聯合大會

ヲ開催シ對日要求事項決議ノ件

本官發在支公使宛電報第六七号

貴電第六八号末段ニ關シ

本組合ハ本邦内地人及台灣人ノ有志ニ依リ当地有力本邦商

店ノ贊成ヲ得テ組織セルモノナルガ今回ノ衝突事件發生後

直ニ本邦内地人及台灣人等大會ヲ開キ之ヲ日僑貿易保護團

ト名ケ本部ヲ日本人俱樂部内ニ設ケ支部ヲ市内隨所ニ設ク

當方入手ノ情報ニヨレバ今回貴地ニ於ケル衝突事件ハ予メ日本側ニ於テ其ノ計画ヲ立て殊ニ現場ニ於テ日本巡査指揮ヲ為シ居リタルヤニ伝ヘラルル處今回ノ事件ニ付キテハ目下支那政府ト交渉中ニテ考慮ヲ要スル次第モアリ真相承知致度ニ付折リ返シ右様ノ事實ノ有無回電アリタシ

九七六 十一月二十四日 在福州森総領事代理ヨリ

内田外務大臣宛（電報）

中國學生ノ暴行烈シク在留邦人不安ニ付嵯峨

第八六号

（十一月二十五日接受）

昨夜十二時頃當地南台ニ於テ十二三名ノ学生通行中ノ一籍

民ヲ取押へ激シク殴打ノ末「ジャンク」造船所附近ニ連行

キ鈍刀ヲ以テ脊部太腿部其他數ヶ所ニ切創ヲ与へ且裸体ト

ナシ全身ニ「コールタール」ヲ塗付ケ何人ナルヤ判明セザ

ル様ニナシ夜間其儘棄置キタルヲ今朝通行ノ支那人ニ発見

セラレ支那巡警ニ於テ車ニ乗セ艦樓ヲ以テ掩ヒ支那警察署

ニ運搬ノ途中一ノ籍民之ヲ発見シ附近巡邏中ノ當館巡查ニ

密報シタルヲ以テ直チニ當館ニ引取りリタリ目下手当中ナル

ガ重態ナリ衝突事件ニ依リ日夜不安ノ念ニ駆ラレタル在留

ノナリト曲弁シ居レリ

廣東へ電報セリ

九七八 十一月二十四日 在上海山崎總領事ヨリ

福州事件ニ關シ上海學生團代表者等聯合大會

ヲ開催シ對日要求事項決議ノ件

本官發在支公使宛電報第六七号

（十一月二十五日接受）

往電第四二八号ニ關シ福州領事來電本件顛末ヲ東方通信社

ヲシテ當地各新聞ニ通知セシメ吾ニ關係アル諸新聞ヲシテ

（脱）ト曲支那學生ニアルコト等ヲ社説ニ掲ゲシメタルガ

一二 福州ニ於テ日中両国人衝突一件 九七九

一〇六一

当地各種学生団代表者ハ商工業団新聞記者団代表者ト共ニ

十一月二十三日当地租界外ニ聯合大会ヲ開キ本件ニ關シ日本攻撃演説ヲナシ左記ノ事項ヲ決議シ格別ノ事故モナク散

会セリ

(一) 日本ニ対シ嚴重ナル交渉方ヲ外交部ニ電請シ且左ノ六条

件ヲ外交委員会ニ提出スルコト

(イ) 福州駐在日本領事ノ交迭

(ロ) 日本政府ハ支那政府ニ謝罪スルコト

(ハ) 死傷者ニ対スル慰恤

(二) 日本反抗者ノ所罰

(イ) 日本人ハ爾今武器ヲ携帶セザル保障

(ロ) 在福州日本領事館警察署長ノ処罰

附加二条件

イ、福州ニ於ケル日本(脱)

ロ、日本軍艦並軍隊ハ一定ノ期間ニ福建ヲ退去スルコ

(三) 各団体ハ隊伍ヲ組ミ日貨排斥ノ為講演ヲ励行スルコト

(四) 支那全国人民ニ対シ警告ヲ發スルコト

右決議ハ上海各会大会ノ名義ヲ以テ北京外交部ニ向ケ即日

果ヲ收メ得ルニ非ズヤト思ハル尚貴電ニ大略判明セリトアル該学生等ノ姓名不取敢参考迄ニ折返シ電報アリタシ尙前記要求ハ支那側ニ対シ本使ノ訓令ニ依ルモノトセラレザル様御取計ヒアリタン

外務大臣、上海、廣東へ転電シ天津へ郵送セリ貴電第五八号上海廣東へ転電アレ

(附記)

十一月二十七日附在福州森総領事代理ヨリ王福建交渉員宛公文

第二一二号

福州事件ノ成行ニ鑑ミ其全責任ハ福建政府ニ在ル旨声明ノ件

第二一二号

大正八年十一月二十七日

在福州

總領事代理 森 浩

外交部特派福建交渉員 王寿昌殿

書簡ヲ以テ啓上致候陳者本月十六日夜南台大橋頭ニ於テ貴

国学生ガ無法ニモ運搬ノ途中ニアリシ邦商天田洋行ノ貨物(レース糸及護謨「マリ」等価格銀百七十元)ヲ取押ヘン

トシ邦人トノ間ニ一大衝突ヲ惹起シ終ニ流血ノ慘事ヲ見ル

電報セリト云フ

九七九 十一月二十五日 在中国小幡公使(ヨリ)

内田外務大臣宛(電報)

日本商品焼棄ノ学生逮捕処罰ニ付先ツ福州官

憲ニ要求セラレ度旨森総領事代理ニ内訓ノ件

附記 十一月二十七日附在福州森総領事代理ヨリ王福建交渉員宛公文第二一二号

福州事件ノ全責任ハ福建政府ニ在ル旨声明ノ件

第一四九六号

本官発福州領事宛電報十一月二十五日

第七四号

第一四九六号

貴電第五八号ニ閑シ日本商人ノ貨物ニ対スル強奪焼棄シタル学生等ノ逮捕処罰方ニ付貴官ヨリハ既ニ貴地官憲ニ対シ

要求セラレタルヤ否ヤ不明ナル處若シ未ダ要求シアラザル次第ナラバ此際先ツ貴官ヨリ正確ナル事実ニ基キ右要求ヲ提出シ至急先方ニ回答ヲ求メラレ模様電報アリタシ尙今回事件アリタル後表面学生聯合会ノ解散ヲ要求セラルハ却

テ妙ナラズ前記貨物強奪焼棄ノ不法行動ト直接関連アル日貨調査隊ノ解散要求ニ止メ置カルル方穩當ニシテ同様ノ効

ニ至レルハ本領事ノ最モ遺憾トスル所ニ有之候查スルニ欧洲媾和會議開始以来貴國新聞紙ノ帝国ニ対スル論調兎角穩当ヲ欠キ殊ニ巴里ニ於ケル日支両國專使衝突ノ誤報喧伝セラレテヨリ益其毒筆ヲ振ヒ荒唐無稽ノ記事ヲ掲ヶ排日傳導ニ努メ帝国ヲ罵詈謔謗シテ余力ヲ残サザリシハ天下万人ノ認ムル所ニシテ被ハントシテ覆フベカラズ乍去本領事ハ稍々世界ノ大勢ヲ解スル者ハ決シテ彼等ノ煽惑ヲ受けズ又賢明ナル貴福建政府ハ斯ノ如キ邦交ヲ擾害スルガ如キ記事ニ對シテハ必ズ自發的ニ其取締ヲ励行セラルベキヲ信シ何等ノ措置ニ出デザリシガ五月初旬北京大学生ノ暴行事件勃発ニ鑑ミ當地方ニ於テモ或ハ之ニ刺戟セラレ如何ナル重大事件ヲ惹起スルヤモ計リ難キヲ恐レタルヲ以テ當時貴交渉員ヲ往訪シ排日的伝單ノ配付及新聞記事取締ニ閑シ意見ヲ交換シタルニ貴交渉員モ全然本領事ト同意見ニシテ嚴重取締ヲ励行セラルベキコトヲ言明セラレ候然ルニ其後貴国官憲ノ取締不充分ニシテ不穏文字ヲ連ネタル排日伝單ノ配布ハ益盛シニ新聞紙ハ依然トシテ論調ヲ改メス学生ハ各学校ヲ打テ一團ト為シ所謂学生聯合会ナルモノヲ組織シ早クモ日本シ邦人トノ間ニ一大衝突ヲ惹起シ終ニ流血ノ慘事ヲ見ルトシ邦人トノ間ニ一大衝突ヲ惹起シ終ニ流血ノ慘事ヲ見ル

一一一 福州ニ於テ日中両国人衝突一件 九七九

一〇六四

リ各自排日的文書ヲ書セル小旗ヲ執り結隊街区ヲ游行シ
大排日示威運動ヲ決行セリ爾來学生聯合会ハ隱然排日団ノ
牛耳ヲ執リ日貨排斥ノ宣伝ニ努メ或ハ商家ニ干渉シテ日貨
ヲ売買セシメズ或ハ駁船ヲ強迫シテ日貨ヲ運搬セシメザル
等帝國臣民ヲ迫害シテ至ラザルナク六月十四日ハ恒盛布店
ニ侵入シテ多數ノ日貨ヲ破棄シ更ニ各商店ニ迫ツテ罷市セ
シムル等日ニ法律無ク威ヲ蔑視シ横行濶歩至ラザルナシ
本領事ハ学生等暴行ノ実状ニ鑑ミ或ハ重大ナル國際問題ヲ
惹起センコトヲ恐レ既ニ數十回ニ亘リ貴福建政府ニ対シ帝
國臣民ノ生命財産並營業保護方ニ関シ御交渉申上グルト同
時ニ一面此運動ガ多數学生ノ本意ニアラズ全ク一部策士及
無賴学生ノ煽惑ニ依ルモノナルベキヲ以テ其主謀者ヲ逮捕
厳罰ニ処セラレタキ旨ヲ要求セリ而シテ李兼任省長及貴交
渉員ニ於テモ毎ニ本領事ノ要求ヲ容レ屢々本領事ニ対シ主
謀者ヲ逮捕厳罰ニ処シ必ズ有効ナル取締ヲ励行スベキコト
ヲ声明シタルニ不拘未ダ一人ノ处罚セラレタル者アルヲ聞
カザルハ誠ニ了解ニ苦シム所ニ候貴福建政府ハ学生取締ニ
關シ屢々布告ヲ示シ時ニ或ハ兵力ヲ用ヒタルコト無キニア
ラザルモ一旦逮捕シタル犯人モ直ニ之ヲ釈放シ巡警等ハ学
校員ニ於テモ毎ニ本領事ニ対シ主謀者ヲ逮捕嚴罰ニ処セラ
レタキ旨ヲ要求セリ而シテ李兼任省長及貴交渉員ニ於テモ
屢々本領事ニ対シ主謀者ヲ逮捕嚴罰ニ処シ必ズ有効ナル取
締ヲ励行スベキコトヲ声明シタルニ不拘未ダ一人ノ处罚セ
ラレタル者アルヲ聞カザルハ誠ニ了解ニ苦シム所ニ候貴福
建政府ハ学生取締ニ關シ屢々布告ヲ示シ時ニ或ハ兵力ヲ用
ヒタルコト無キニアラザルモ一旦逮捕シタル犯人モ直ニ之
ヲ釈放シ巡警等ハ学校員ニ於テモ屢々本領事ニ対シ主謀者
ヲ逮捕嚴罰ニ処シ必ズ有効ナル取締ヲ励行スベキコトヲ明
ニシテ恐ラク貴國官憲ト雖モ否定スルコト能ハザル所ナルベシト信ジ候尚又貴交渉員ノ來函ニ依レバ順記樓上ヲ
毀セルモノハ當館警察署員ナリト称スルモ之誣ユルノ甚シ
キモノニシテ且ツ當館ニ対スル絶大ナル侮辱ト云ハザルヲ
得ズ当夜江口署長ハ本領事ノ命ニ依リ署員及通訊ヲ率ヒ邦
人取締ノ為メ現場ニ向ヒタルモノナルガ途中ニ於テ学生及
巡警軍隊等ノ為メニ包囲セラレ其日本領事館警察署長タル
コトヲ説明セルニ拘ラズ瓦礫ヲ投シテ外山巡查部長及通訊
ヲ負傷セシメ終ニ激シク発砲スル者サヘアリタルヲ以テ
ヲ得ズ順記ニ避難シ三層物十台下ニ隠レ漸ク彼等ノ毒手ヲ
免レタルモノナリ然ルニ学生等ハ署長等ノ居ラザルヲ見テ
順記主人及使用人等ガ日本人ヲ何レニカ逃シタリトテ器具
商品ヲ破壊シ乱暴狼籍ヲ極メタルモノナルコトハ當時順記
ニ急派セラレタル貴國巡警モ熟知スル筈ニシテ又順記主人
及使用人ヲ取調ブル時ハ自ラ明ナラン之ノ一事ヲ以テ見ル
幸ニ危難ヲ免レタリ貴交渉員ノ來函ニ十六日大橋頭案發生
ノ原因ハ日本人ガ多數ノ籍民ヲ率ヒ故無ク青年会學生ヲ殴
打シタルニアリト称スルモノ之全然無根ノ虚報ニシテ本件發

一一 福州ニ於テ日中両国人衝突一件 九八〇 九八一

一〇六六

モ本件ニ閥スル貴國警察報告ノ全然誣報ナルコトヲ証スル
ニ足ルベシト存候之ヲ要スルニ本件ハ貴國排日学生ノ不法
行為ニ起因スルモノナルモ此種重大事件発生ノ誘因ハ貴福
建政府ガ本領事ガ今春以来數十回ニ亘リテ与ヘタル警告抗
議ヲ無視セラレ排日学生等ノ暴行ニ対シ嚴重取締ヲ加ヘザ
リシニ依ルモノナルヲ以テ其責任ハ貴福建政府ニ於テ完全
ニ負担スベキハ言ヲ俟タズ只事件ノ性質極メテ重大ナルヲ
以テ本領事ハ切実調査ノ上一切ノ事情ヲ帝国政府ニ報告シ
必要ナル訓令ヲ電請シ改メテ御交渉ニ及ブベキモ不取敢本
件ノ責任ガ全然貴福建政府ニアルベキコトヲ声明旁照会得
貴意候 敬具

九八〇 十一月二十六日

在福州森総領事代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

福州衝突事件ノ日本側計画説二付回申ノ件

第九〇〇号

貴電第四三号ニ閑シ

衝突ノ起レル十六日ハ前電所報ノ組合ガ日商貨物護送計画
ヲ実行セムトスル初日ナリシタメ多数学学生ノ押寄セ来タル
場合ヲ慮リ之ニ備ヘムガ為メ支那人十四名ヲ傭入レ且ツ多

数ノ本邦人等モ参加セムトスル由聞込ミタルヲ以テ不穩當
ト認メ直チニ組合代表者ニ向ツテ其ノ中止ヲ命ジタル結果
多数ノ者ハ退散シタリ然ルニ組合ニテハ天田洋行ニ荷物護
送方約束済ナル関係上荷物ニ五名ノ監視人ヲ附シ且ツ監視
人ヲシテ暴行セシメザル様特ニ注意ヲ加フルタメ台灣總督
府留学生稻垣巡查ヲシテ二三丁離レテ隨行セシメタルガ同
人ハ学生ガ荷物ヲ取押ヘ監視人トノ間ニ衝突セルヲ見ルヤ
直チニ駆ケ寄リ右学生一名ヲ巡警ニ引キ渡シ直グ引キ上ゲ
タル趣ナルガ本件ガ予メ計画アリトハ該組合ヲ指シタルモノト思ハル
查ガ指揮シ居タリトハ稻垣ヲ指シタルモノト思ハル
本電ハ貴電第四三号ト共ニ在支公使ヘ転電セリ

九八一 十一月二十六日 在本邦中國臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛

福州事件ニ閑シ申越ノ件

外己字第六九号

(十一月二十七日接受)

敬啓者案准本國北京外交部十一月十九日電開送准福建督軍
及特派員來電十六日午後有基督教青年會學生均無故被少數
日人及多數台籍人約數十名持械毆殴槍傷一人刀傷殴傷共五
人經派警勸阻又不肯服當經被傷警察協同省警隊奮力擎獲持

槍日人福田原藏等三名又拋擲警報告獲日人在順記番菜館放
槍擲石經派警查視知係日領署內警員七人當以邦交所關由交
涉署通知日領事派人護送至日領事署並將前獲日人三名一併
交付並拋交涉員電前於十二日日領因瑞順洋行運進燐寸被學
生迫燐來照內有日民忿極將來倘遇學生不法兩方衝突致有流
血之事不負責任云云茲果有此事是事前已有惡意並拋詳查肇
事之台灣籍民三五成羣預散街上更屬有意之佈置日領事於此
顯有故縱之嫌現該領反電日政府派艦來閩保護現已出發因之
人情極為憤激請嚴重交涉各等語查近日國民對日風潮漸趨平
息政府方冀中日人民感情逐漸恰好兩國得以實行親善乃近日

福建地方復有日人毆殴學生之事深為可惜此事在兩國政府惟
有極力勸喻人民解除誤會勿為軼出範圍唯日本領事事前疏於
防範事後又輕電政府率請派艦尤非慎重邦交之道除向日使交
涉外希軼日外部切電日領事嚴束僑民毋得再有前項拳動並將
派艦之舉即行中止免致激起事變中國方面自當責成地方官約
束人民以免再有衝突等因准此查此事本代理公使業經於本月
二十四日派本館廖秘書赴

貴省與墳原次官會晤當以中日邦交關係綦重誠恐兵艦一到福
建地面益復激動人民惡感發生他變則

一二 福州ニ於テ日中両国人衝突一件 九八一

中華民國八年十一月二十六日
中華民國臨時代理公使 莊璟珂(印)
外務大臣子爵内田康哉 閣下
(右和訳文)

拝啓陳者本國北京外交部十一月十九日ノ電報ニ拠ルニ福建
督軍及特派員屢次ノ來電ニ拠レハ十六日午後基督教青年會
ノ學生ハ孰レモ故ナク少數ノ日本人及多數ノ台灣籍人約數
十名ノ為メニ兵器ヲ持シ包毆殴打セラレ銃傷一人刀傷打撲
傷合計五人ヲ生シタルニ付警官ヲ派遣シ程ヨク制止シタル
モ更ニ聞入レス負傷セジメラレタレハ警察ハ省警隊ト協同
シ奮力シテ銃ヲ携帶セル日本人福田原藏等三名ヲ捕獲シタ
リ又立番巡警ヨリ日本人ノ順記西洋料理館ニ在リテ放銃投
石セルモノヲ捕ヘタリトノ報告ニ拠リ警官ヲ派遣シ取調タ

一〇六七

一一 福州ニ於テ日中両国人衝突一件 九八一

一〇六八

ルニ日本領事館内ノ警官七人ナルコトヲ知リ得タリ即チ国交ニ閔スルヲ以テ交渉署ヨリ日本領事ニ通知シ人ヲ派シ日本領事館ニ護送シ並ニ前ニ捕獲シタル日本人三名ヲ一同交付シタリ並ニ交渉員ノ電報ニ拵レハ去ル十二日ニ日本領事ハ瑞順洋行ノ燐寸運入ノ際学生ノ為メニ強迫焼毀セラレタルニ因リ右照会内ニ日本人民憤怒ノ極ニ達シタレハ将来若シ学生ノ不法ニ遇ヒ双方衝突血ヲ流ス場合アリトモ責任ヲ負ハス云々トアリ茲ニ果シテ此事アリ是事前ニ已ニ惡意アリ並ニ事ヲ惹起シタル台灣籍人ヲ詳細取調ヘタルニ三々五々羣ヲ成シ預メ街上ニ散在シタルハ更ニ有意ノ手配アリタルモノトス日本領事ハ右ニ就キ明ニ故意ニ為サシメタル嫌アリ今右領事ハ反テ日本政府ニ軍艦ヲ福州ニ派遣シ保護方ヲ電報シ現ニ已ニ出發セリト之ニ因テ人心甚シク憤激シタレハ嚴重ニ交渉ヲ請フ云々ト申来レリ

右ハ近日国民ノ対日風潮ハ漸ク平静ニ趨キ政府モ日支人民ノ感情逐次良好トナリ両國ハ之ニ依テ親善ヲ実行セント希図スルニ際シ近時福建地方復々日本人カ学生ヲ包囲殴打スル事件ヲ生シタルハ深ク惜ム所ニシテ此事ハ両政府ニ於テ只極力人民ヲ諭シ誤解ヲ除キ範囲送出セシメサルニ在ル

中華民国臨時代理公使 莊璟珂
外務大臣子爵内田康哉 閣下

響ヲ認メズ

在支公使へ郵送セリ

九八二 十一月二十六日 在天津船津總領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

福州事件ニ付嚴重日本ニ交渉スル様外交部へ
電稟方等排日学生団ヨリ天津市長ニ要請ノ件

第一五〇二号

第二二八号

福州事件ハ當方面ニモ著シキ反響ヲ与ヘ最初極メテ平静ナ

リシ学生団ハ昨日ヨリ再び活動ヲ開始シ各方面ニ向ケ講演團ヲ出動セシメ排日的ノ演説ヲ為シ或ハ排日的印刷物ヲ配布シ最後ニ六百余名ノ学生ハ省長官門ニ押寄セ面会ヲ強要シ且(一)福州事件ハ曹省長ヨリモ國權維持ノ為嚴重日本ニ交涉方外交部へ電稟スルコト(二)楊以德免職問題ハ何故ニ遷延今日迄解決セサルヤ(三)出版ノ自由ハ(脱)楊警察廳長力アリシ趣ナリ尚日支間商取引ニハ今日迄ノ處何等目立ツ程ノ影

ノミ然ルニ日本領事ハ事前ニハ防遏ヲ疏ニシ事後ニハ輕率ニモ政府ニ電報シ軍艦派遣ヲ請求セシハ尤モ國交ヲ慎重ニスル道ニ非ズ依テ日本公使ニ向テ交渉スル外更ニ日本外務省ニ交渉シ切ニ日本領事ニ電報シテ嚴重ニ居留民ヲ取締リ再前項ノ行為アラシメス並ニ軍艦派遣ノ事ヲ直チニ中止ン事変ヲ激發セサル様致度支那方面ハ自然地方官ニ責任ヲ以テ人民ヲ取締リ再衝突ヲ生セシメサル可シト來電アリ本件ニ就キ本代理公使ハ已ニ本月二十四日ニ本館廖秘書ヲ貴省ニ派遣シ埴原次官ニ面会シ日支國交ノ關係重大ナレハ軍艦ノ福建地方ニ到ル如キコトアラハ益復人民ノ惡感ヲ激動シ他變ヲ發生スル恐アリ然ル時ハ貴國ノ支那ニ居留スル人民ハ是亦必シモ安穩ナル能サル可キ旨申述ヘ並ニ可成速ニ已ニ派遣セラレタル軍艦ヲ呼戻シ以テ睦誼ヲ敦ウセン事ヲ商議シ埴原次官ヨリ右情形ヲ貴政府ニ転達スルノ承諾ヲ受ケタレハ之力為メ公文ヲ以テ更ニ御照會致スニ依リ何卒貴大臣邦誼ヲ顧念シ速ニ御取計煩ハシ度竝ニ御回答アランコトヲ希望ス茲ニ本代理公使ハ貴大臣ニ對シ特ニ敬意ヲ表ス謹具

中華民国八年十一月二十六日

九八三 十一月二十七日 在中國小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

軍艦派遣兵員上陸等ニ付外交總長代理ノ為セ
ル談話ニ閔連シ森總領事代理ニ訓令シタル件

第一五〇二号

本官発福州宛第七五号

十一月二十六日外交部ヨリ人ヲ當館ニ遣ハシ申込ヲナスト同時ニ同日本使外交總長代理ト會見ノ折ニモ福州事件ニ談及シ本件ハ既ニ各地ニモ追々電報セラレ是カ為再ヒ排日ノ氣勢ヲ再燃シ事件ヲ拡大セントスルカ如キ風潮歷々トシテ頭ハレントシツツアルニ付事件ノ曲直ハ何レノ側ニアルニセヨ夫ハ調査ノ上判定スルコトトシ先ツ以テ此ノ際人心ヲ激動シ事件ヲ拡大スルカ如キ行動ハ双方ニ於テ嚴重注意シテ之ヲ避ケ度旨ヲ敷衍説述シタル上此ノ程福州ニ入港ノ日本軍艦ヨリ陸戰隊ヲ陸上ゲシ若クハ兵員ノ上陸游行等(脱)コトハ徒ニ人心ヲ鼓動シ益々事件ノ拡大ヲ來ス外何等ノ効果モナク地方ノ秩序ハ地方官憲ニ於テ其ノ責ニ任ズルニ付

一一 福州ニ於テ日中両国人衝突一件 九八三

一〇七〇

右様ノ事は無キヲ希望スル旨申述ヘタルニ付本使ハ外交總長代理陳述前段ノ趣旨ニハ全然同意ヲ表シ本使モ亦同様ノ趣旨ヲ以テ本件ヲ處理セントスル考ナルコトヲ言明シタル

上本来日本政府トテモ軍艦ヲ派遣シ若クハ其ノ兵員ヲ陸上ケスルカ如キハ断シテ欲スル所ニ非ザルモ過般來地方督軍カ帝国領事ノ累次ノ注意アリタルニ拘ラズ一片ノ布告ヲ出ス位ノ外学生ノ不法ナル横行ヲ不問ニ附シ彼等カ帝国商民ノ通商自由ニ対シ加ヘタル無法ノ迫害ニ対シ何等有効適切ナル処置ヲ講セズ（脱）今回ノ如キ不祥事件ヲ激成スルニ至リタル次第ナルモ何分ニモ当地ニ於テハ福州ノ状態ヲ詳細知悉スルヲ得ザルヲ以テ地方督軍ノ責任ヲ以テ日本人及台灣籍民ノ保護ニ任スト云ハルモ實際其ノ実行思ハシカラズ日本臣民ノ生命財産カ無法ナル学生輩ノ為再ヒ危險ニ瀕スルカ如キ状態アルニ至ラハ断シテ我方ニ於テハ自衛上必要ノ措置ニ出デザルヲ得ズ從テ當方ヨリ事情ヲ詳ニセズシテ水兵ノ上陸ヲ禁スル旨ヲ命令スル証ニ行カズ要ハ地方ノ実情如何ニ依ル次第ナリト述ヘ現ニ衝突事件發生後ニ於テスラ督軍ノ取締言明アリタルニモ拘ラズ二十三日ノ事件（貴電第六一二号）アリタル事實ヲ指摘シ最後ニ兎モ角外交

総長代理希望ノ次第ハ一応在福州領事ニ伝達シ置クヘント本使ト外交總長代理トノ会見ノ模様ハ大体右ノ如クナルガ貴地今回ノ事件ハ事ノ曲直何レニアルニセヨ且下盛ニ各地ニ伝播セラレ一時下火ニ赴カントシツツアリシ排日風潮ノ形勢ヲ再燃セントスル傾向アルニ付テハ此ノ上事件ノ拡大ヲ來スガ如キ措置ニ出ヅルハ大局ヨリ見テ甚夕好マシカラズト考ヘラルルヲ以テ軍艦ヨリ兵員上陸ノ如キモ督軍ノ取締不行届ニシテ到底本邦人及籍民ノ安全ガ期セラレザル等絶対ノ必要アラザル限り輕々シキ行動ニ出ヅルコトハ概シテ之ヲ避クルヲ得策ナラズヤト思量ス尚本日会見ノ節外交総長代理ハ支那側負傷者十数名ノ傷所ハ多クハ短銃傷ニアリ之ニ反シ日本側ノ分ハ打撲傷ニ外ナラザルヲ見レバ日本側カ短銃等危険ナル兌器ヲ持シタルニ拘ラズ支那側ニ於テハ全然此ノ事ナク要スルニ今回ノ出来事ノ曲ハ日本側ニアリトスルカ如キ口氣ヲ洩ラセリ就テハ今後弁明上必要モ有之ニ付支那側傷者ノ數及其ノ創傷ノ程度及之ト同様日本側ノ分ヲモ詳細取調電報アリタシ 廿七日
外務大臣、上海、廣東ニ電報シ天津へ郵送セリ

九八四 十一月二十八日 在廈門藤田領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）
廈門学生等ノ排日運動予防方中國官憲ニ申入
及市中平穏ノ件

第七七号

福州ニ於ケル日支人衝突事件ノ影響トシテ廈門学生等内々排日再挙ノ意図アルヲ聞キ込ミタルヲ以テ予防阻止方支那官憲ニ警告シタル処同官憲等全力ヲ傾注シ予防ヲ講シ又一方籍民団体ノ優勢ナル結果今日迄ノ處何等排日的行動ヲ見ズ市中極メテ平穏ニシテ各種ノ日貨取引自由ナリ恐ラク今後共何等反動ナカルベシ

台灣總督、北京へ電報セリ

九八五 十一月二十八日 在中國小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

福州事件ニ付外交總長代理ヨリノ照会要旨報

告ノ件

第一五〇七号 （十一月二十九日接受）

本使發福州宛第七五号ニ閔シ外交總長代理ヨリ更二十一月廿七日附ヲ以テ照会アリ其ノ要旨ハ日貨排斥ニ付テハ支那

尚督軍ノ來電ニモ本件ハ確ニ日本人ニ於テ故ナク児行ニ出テシモノニテ且ツ何等ノ原因ナシトアリ天田洋行ハ橋南ナルニ衝突ハ橋北ナルカ商品ヲ取押ヘタリト云フハ果シテハ商品ハ何ニテ如何相成シヤ且ツ学生巡警等力負傷セシハ各所ニ分レ居リ又巡警中銃二挺ヲ日本人台灣人ニ奪ハレシヲ見ルモ日本側ノ多クシテ予ネテ用意セシヲ知ルニ足レリ又衝突當時通行中ノ米国人学生ヲ救ハントシ日本人ニ殴擊サレシハ衆目認メシ所ニテ虚構ヲ許サス支那側ノ重

一二 福州ニ於テ日中両国人衝突一件 九八四 九八五

一〇七一

一二 福州ニ於テ日中両国人衝突一件 九八六 九八七

一〇七二

傷者十名ハ日本領事ヨリモ人ヲ派シテ実見セシメタリ又順記料理店ハ日人ノ為器物ヲ壊サレ損害三千元ヲ申立テ居リ

要スルニ今回ノコトハ日本人ガ自由行動ニ出デ喧嘩ヲ求メシモノナリ尚事実ヲ調査シ弁法ヲ商議スヘシト云フニアリ右外交部總長ハ毫モ事件ノ根本因由タル地方官ノ責任ニ触レズ勝手ナルモノナリ依ツテ右ニ対シ可然答ヘ置ク筈委細

郵報

右福州広東へ転電シ上海天津へ郵送ス

九八六 十一月二十九日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

福州事件調査委員派遣ニ付證議方稟請ノ件

第一五一五号(至急)

福州事件ハ各方面ニ電報セラレ種々誤報モ伝ハリタル結果世論漸ク沸騰セントスルノ徵アリ其ノ解決當ヲ得ザルニ於テハ却テ後累ヲ胎スノ基トナルモ保シ難ク旁去ル二十六日本使外交總長代理ニ會見ノ節正確ナル調査ヲ遂ゲ以テ公正ナル解決ニ資セン為双方ヨリ委員ヲ派シ実地ニ調査ヲ行フモ一案ナラント私見ヲ述ヘ置キタル処既ニ外交部ヨリ王鴻

年及陳煥章ノ両人教育部ヨリ一人ヲ福州ニ急派スルコトニ決定セルニ付テハ日本側ヨリモ委員派遣アリタキ旨申出来リタリ右ハ多少當方ヨリ懲憲シタル行懸モアリ今更之ヲ拒絶スルモ面白カラス且目下福州領事館ニ於テ手不足ノ様存セラルニ付テハ本省若クハ當館ヨリ高等官派遣ノコトニ至急御詮議ヲ請フ尚何分ノ御電訓ヲ煩ハシタシ

在福州領事ヘ電報セリ

九八七 十一月二十九日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

福州事件ニ閩シ北京ニ示威運動起リタル件

第一五一六号

(十一月三十日接受)

福州事件ニ閩シ兩三日前ヨリ北京大学、高等師範、福建会館等ニ於テ学生幹部及ヒ福建人等ノ会合アリ明三十日(日曜)ニハ学生団ノ行列及街上演説ヲ行フコトニナリタル旨情報アリタル處既ニ本日午前十時頃ヨリ市内中学以上ノ男女学生千数百名ハ中華門内ノ廣場ニ集合シ午後一時ヨリ多数ノ組ニ分レ旗ヲ立テ市内各方面ニ向ヒテ伝單ヲ配付シツツアリ

福州へ電報セリ

九八八 十一月二十九日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

我水兵福州上陸ニ閩シ外交部ヨリ申出ノ次第
アリタルニ付實情電報方森領事ニ要請ノ件

第一五一七号

(十一月三十日接受)

本官發福州領事宛電報十一月廿九日

第八〇号

ハ事情ノ許ス限り誤解ヲ避クル為此ノ上水兵ヲ上陸セシメザル様出来得レバ好都合ト存ス尚当地各新聞ニハ日本海軍兵士上陸セリトノ報道ヲ盛ニ伝ヘ人心ヲ煽動シツツアルニ付右実否折返電報アリタシ

外務大臣、上海、広東へ転電セリ

天津へ郵送セリ

九八九 十一月二十九日 在天津船津總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

福州事件ニ閩連シ此際我立場及軍艦派遣ノ止

ムヲ得ザル事情ヲ闡明スル声明發表等ノ措置

方ニ付稟申ノ件

第二三一号

(十一月三十日接受)

福州事件發生以來當地排日風潮ニモ頗ル影響ヲ及ボシ学生ノ活動其ノ氣勢ヲ添ヘタル模様ナレ共目下ノ處實際ノ商取引ニハ未タ左シタル影響ナキモノノ如シ然レドモ学生ノ活動ハ當分繼續スル見込アレバ今後或ハ實際上ニモ幾分ノ影響ヲ及ボスコトアルヤモ計リ難キ惧レアリ殊ニ帝國軍艦ノ派遣並ニ陸戰隊上陸云々ノ報道ハ當地支那人ニ著シク刺シシテ上陸遊行セシメザル様電訓アリ度キ旨申越セリ就テ

建督軍ニ對シ完全ニ秩序維持ノ責任ヲ負ベキ様嚴重電訓シ置キタルヲ以テ本使ヨリモ至急領事ニ対シ更ニ海軍兵士

二二 福州ニ於テ日中両国人衝突一件 九八八 九八九

一〇七三

面会ノ序ヲ以テ省長省議會議長其ノ他支那側有力ナル官民

ニ対シ軍艦派遣ハ元々帝国政府ノ欲セザリシ所ナルモ在同地帝国領事ヨリノ報告ニ基キ我在留民ノ生命財産保護ノ為メ事態止ムヲ得ズ決行シタル次第ニ毫末モ示威的意図ナキハ勿論寧ロ徹頭徹尾受身ノモノナルコトヲ反覆説明シ置キタルモ此際本件ニ關スル我方ノ立場並ニ軍艦派遣ノ已ムヲ得ザル事情等ニ關シ簡明ナル「コンムニケ」ヲ各地ニテ一律発表スルコトトシ他面若シ事情許スニ於テハ我居留民ノ保護ハ支那地方官ニ全責任ヲ負ハシメ軍艦及ビ陸戦隊等ハ可成速ニ引上グルコトトセバ或ハ再燃セムトスル排日ノ氣勢ヲ削グニ幾分ノ効力アルベシト思考セラル

御氣附ノコトトハ存ズルモ當地方今後ノ形勢掛念ニ堪ヘズ旁々念ノ為メ申進ズ
在支公使ヘ郵送ス

九九〇 十一月二十九日 芳沢政務局長 廖書記官会談

福州事件ニ關シ談話交換ノ件

大正八年十一月二十九日支那公使館廖書記官代理公使ノ命ニヨリ芳沢政務局長ヲ來訪シ福州事件ニ關シ大要左記ノ談

話ヲ交換セリ

廖ハ福州事件ニ關シ過日埴原次官ヲ訪問面陳ノ次第アリタル後更ニ公文ヲ以テ御照会ニ及ヒ置キタルカ未タ回答ニ接セズ然ルニ又本日本國政府ヨリ更ニ他ノ電訓ニ接シタリトテ其大要ヲ英訳口述セリ其要旨中ニ「今回ノ事件ニ就テハ支那人側ニ多數ノ負傷者ヲ出セルモ日本人側ハ僅ニ一人ノミ」云々ノ一節アリ右電訓ノ趣旨ハ何レ月曜日ニ覚書ニ認メ差送ル筈ナルガ前日ノ公文照会ニ対シテハ何時回答セラルヘキヤト問ヘルニ付

芳沢ハ目下詮議中ニテ回答案作製中ナリト答ヘタルニ

廖ハ本件ニ關シ日本人側カ武器ヲ携帶ゼンハ甚タ宜シカラズ支那政府ハ極力日本商人ヲ保護スルニ努メツツアルニ軍艦ヲ派遣セラレシハ穩当ナラズ可成速ニ引返ヘサレタシ又日本領事ハ本件ノ發生スヘキコトヲ予知シ居レリト云ヘルニ依リ

芳沢ハ我方入手ノ報道ニ拠レバ日本領事ガ本件ノ發生ヲ予知シ居タリトハ信セラレズ又日本人側ニテ調査隊ヲ組織セルコトヲ非難セラルルモ右ノ次第ヲ指摘セラルルニ於テハ我方ニモ申分アリ元来福州ニ於テハ今日迄屢々学生等ノ日本領事ハ本件ノ發生スヘキコトヲ予知シ居レリト云ヘルニ依リ

ハ口頭ニテハ幾度保証セラルルトモ事実何等ノ効能ナキニ非ズヤト述ヘタルニ

廖ハ何分地方官憲カ行届カズト云ヘルニヨリ

芳沢ハ夫レニテハ何ニモナラズ次第ナリト答ヘタルニ

廖ハ今後ハ誓テ保護スヘキニヨリ軍艦ヲ引返ヘサシメラレ度尚又貴方ニテハ本件ニ關シ如何ナル事ヲ希望セラルルヤト問ヘルニヨリ

芳沢ハ本件善後措置ニ關スル差當テ主要ノ点ハ学生等カ日本商品ヲ差押ヘ若クハ燒棄スルカ如キ暴挙ヲ最モ有効ニ取締ルコト必要ナリト述ヘタルニ

廖ハ能ク諒解セル旨ヲ答ヘ引取レリ
ト問ヘルニヨリ

芳沢ハ本件善後措置ニ關スル差當テ主要ノ点ハ学生等カ日本商品ヲ差押ヘ若クハ燒棄スルカ如キ暴挙ヲ最モ有効ニ取締ルコト必要ナリト述ヘタルニ

廖ハ能ク諒解セル旨ヲ答ヘ引取レリ

ト問ヘルニヨリ

九九一 十一月三十日 在中國小幡公使死（電報）

福州事件ニ關シ中國代理公使ヨリ公文ヲ以テ 申出ノ大要通報ノ件

第一四五五号

福州事件ニ關シ在本邦支那代理公使十一月二十六日付公文ヲ以テ大要左ノ通申出デタリ不取敢

一二 福州ニ於テ日中両国人衝突一件 九九一

一〇七五

一二 福州ニ於テ日中両国人衝突一件 九九二

一〇七六

福建省官憲屢次ノ來電ニ拵レハ基督教青年会学生ハ十六日故無ク日本人及台灣籍民ノ為メ兵器ヲ持シ包围殴打セラレ剣銃及打撲傷者計五人ヲ生シ派遣セル警官ノ制止モ其効無カリシヲ以テ警察ハ省警隊ト協力シ遂ニ日本人三名ヲ逮捕シタルカ一方順記料理店ニ在リテ放銃投石セル日本人ヲ逮捕セル旨ノ報告ニ接シ取調ノ結果領事館警察官七名ナルコト判明シ右逮捕セル日本人ハ何レモ日本領事ニ引渡ヲ了セリ

然ルニ是ヨリ先キ瑞順洋行カ燐寸運入ノ際学生ノ為メ被リ

タル損害事件ニ関スル日本領事照会中日本人力憤怒ノ極ニ達シタレハ今後学生ノ不法ニ依リ両者ノ衝突流血ヲ見ルカ如キ場合アルモ其責ヲ負ハサル旨ノ一節アリタルカ今次ノ事件ノ起因等ヲ調査スルニ已ニ事前ニ惡意アリ予メ有意ノ手配アリタルコト明瞭ニシテ日本領事ニ於テ明カニ故意ヲシ為メニ人心益々激昂シツツアリト云フ最近国民ノ對日風潮漸ク平靜ニ趨キタル折柄又々日本人ノ学生殴打事件ヲ惹起シタルハ遺憾ニシテ殊ニ日本領事カ事件勃発ノ前後ニ於テ輕卒ノ措置アリタルハ國交ヲ慎重ニスル所以ニ非ス就テ

ハ在留日本人ノ取締及軍艦派遣中止方ニ就キ日本政府ニ交渉スヘク支那方面ニ於テモ地方住民ヲ警飭スヘキ旨外交部ヨリ電訓ニ接シタルニ就テハ國交ヲ顧念シ速カニ何分ノ措置ヲ執ラレムコトヲ希望ス

福州へ転電アリタシ

九九二 十二月一日 在中国小幡公使ヨリ

内田外務大臣宛

福州事件ニ關シ北京学生示威行列ハ静肅ニ行

ハレタル件

公第四四八号

(十二月八日接受)

大正八年十二月一日

在支那

特命全權公使 小幡西吉(印)

外務大臣子爵 内田康哉殿

福州事件ニ關シ北京学生示威行列ノ件

本件ニ關シテハ不敢往電第一五一六号ヲ以テ及電報置候通リ最初本事件ノ支那側報道又新聞記事ニ依レハ支那官民学生側ニハ何等一点ノ非難ナキニ日本在留民側ハ謂レナク兇器ヲ携ヘ団体ヲ組ミ支那学生警察員ヲ殺傷シタルモノト

ノミ伝ヘラレ頗ル人心ヲ憤激セシメタルモノノ如クナリシカ本使カ福州領事ノ電報ニ基ク外交部ヘノ注意其他追々各方面ノ報道ニヨリ一概ニ其曲日本ニノミ存スルモノトハ認メザルニ至リタルモ奈何セん何モノカヲ以テ排日ノ好題目ニ供セントスル一般思潮ノ此際例ノ学生等又々之ヲ藉ツテ種々ノ会合協議運動ノ結果遂ニ二十九日ノ示威行列ヲ見ルニ至レリ然カモ此行列ハ五月四日以来ノ学生行動ニ徳リタル官民方面ノ覺醒且ツ事ノ対日本的國際的ナル限り深重ノ注意ヲ以テ行ハレ或ハ当局官憲ニ於テ固ヨリ之ヲ阻止セザルノミカ勧誘ノ間平靜秩序ヲ保タント期シタルモノノ如ク頗ル静肅ニ行ハレ此日集マル学生三十三校二万人ト号セラレ先導樂隊各校責任者指導ノ下ニ行列シ各人例ニヨリ各種ノ文句ヲ記シタル旗ヲ持シ且ツ沿途無数ノ伝單ヲ散布セリ

其荒唐無稽ナルモノハ暫ク言フニ足ラサルモ其学生団体ノ鼓吹煽動的ノモノトシテ認ムヘキハ別紙切抜八種ニ有之從ツテ今次ノ行列ハ五月四日以来迭次ノ行列ト全然其趣ヲ異ニシ殆ント戰勝紀念行列ト同様ノ形式ニテ行ハレタルハ異トスヘク行列ノ偶々日本人或ハ日本婦人ノ行通ニ会スルモ何等悪罵不敬ノ言ヲ放ツモノナカリシトノコトニテ一般ノ

新聞論調モ比較的の冷靜ニテ往々日本側ヲ非難スル論説評言ヲ掲ケアル外甚シキ激越ヲ見サルモ独リ例ノ煽動新聞米国人名下ニ經營スル益世報ハ極力排日ヲ鼓吹シ十一月卅日ノ如キハ特ニ排日ノ社論ノ外「中日親善ノ活劇」ナル特別大活字見出シノ下ニ全紙殆ント学生行列各方ノ排日報道等ヲ掲載シテ得タルカ如キハ実ニ苦々シキコトニ候

右電報追補旁及報告候也

註 別紙新聞切抜省略

九九三 十二月一日 在福州森総領事代理ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

福州事件ニ際シ中國側及日本側負傷狀況報告

ノ件

第九二号

本官發在支公使宛第七二号

貴電第七七号ニ閑シ

(一)当地交渉署ハ支那側負傷者全部一応臨檢方本官ヘ申出アリタリ仍テ廿六日博愛院石川医学士及江口署長ヲシテ交渉委員一名ト共ニ負傷者ノ收容セラレタル外国病院ニ就キテ臨檢セシメタルガ負傷狀況左ノ通

一一一 福州ニ於テ日中両国人衝突一件 九九三

一〇七八

(イ) 兵士一名、左ノ乳下ニ長サ約三「センチメートル」以上ノ傷一、右脇下ニ約二「センチメートル」ノ傷一、右凡テ鉄砲創ナリヤ否ヤ不明生命別条ナシ、二週間ニテ全治ノ見込

(ロ) 海軍学校学生一名、右ノ太腿ニ長サ三「センチ」米巾二「センチ」米ノ傷一、右ハ銃丸ノ創ト認ム生命ニ別条ナク治療一箇月ヲ要スル見込

(ハ) 小学教員一名、左後頭部ニ銃劍ノ突創一及左臀部ニ銃劍ノ突創二アリ内一ハ長サ四「センチ」米巾二「センチ」米ニシテ明カニ支那兵士ヨリ銃劍ニテ突カレタルモノト認ム、治療三週間ヲ要ス

(ニ) 商店番頭一名、左脇下ニ切傷一、治療二週間ヲ要ス

(ホ) 青年会学生一名、胸部及背部ニ孰レモ軽微ノ打撲傷各一アルモ已ニ全治シ居レリ

(ヘ) 支那側ノ負傷者ハ以上六名ニシテ死亡者及生命危険ナルモノ一名モナク又明カニ鉄砲創ト認ムルハ(ロ)ノ学生一名ナリ尚(ハ)ノ小学教員ノ傷ハ凡テ支那兵士ノ銃劍ニ依リテ受ケタガ為ナル可シト考ヘラル

外務大臣上海広東へ電報セリ
キ支那人十二、三名（前電ニ三四十名トセシハ誤リ）ニシテ其殆ド全部ハ弥次馬連ナリ又短銃ヲ携帯シ居リタルハ二、三名ニ過ギズ元来喧嘩ノ起レル場所ハ平素常ニ雜踏ヲ極ムル巷ニシテ殊ニ衝突ノ際学生側ハ歎クトモ二、三百名ヲ下ラズ且多数ノ弥次馬連モ加ハリ入り乱レテ発砲シタルニ拘ラズ負傷者ノ少カリシハ彼我双方共天ニ向テ發砲セルガ為ナル可シト考ヘラル

九九四 十二月一日 在福州森総領事代理ヨリ
内田外務大臣宛（電報）
我水兵福州上陸ニ関シ実情ヲ小幡公使ニ回電

ノ件

第九四号

本官発在支公使宛電報第七五号
貴電第八〇号ニ関シ

水兵ノ上陸見合方ニ就テハ軍艦嵯峨ノ馬尾入港ト同時ニ福建政府ヨリ申越アリ十一月二十三日迄ハ上陸ヲナサザリン

ガ同夜往電第六六号（十一月二十四日附大臣宛第八五号）ノ如キ事件突発シ尚種々ノ流言盛ニ行ハレ本邦人ノ不安動

一一一 福州ニ於テ日中両国人衝突一件 九九四 九九五

ルモノニ疑ナキ趣ナリ

次ニ邦人側ノ負傷者ハ五名ニシテ負傷ノ状況左ノ通

イ、台灣総督府留学生福田源蔵北兵ヨリ全身ヲ銃身ヲ以

テ烈シク乱打セラレ胸部及肺部ニ数ヶ所ノ打撲傷ヲ負ヒ

呼吸歩行困難ナリ治療三週間ヲ要ス

ロ、福州時報社主沖津芳蔵北兵ヨリ銃身ヲ以テ烈シク乱打セラレ肺部及両腕ニ各数ヶ所ノ打撲傷ヲ受ケ疼痛ヲ覚

ヘ且後頭部ニ長（脱）米深サ骨膜ニ達スル切傷アリ治療二週間ヲ要ス

ハ、宿屋主人三木小四郎北兵ヨリ銃身ニテ胸部及肺部ヲ乱打セラレ數ヶ所ノ打撲傷ヲ受ケ激痛ヲ覺ヘ呼吸困難ナリ治療二週間ヲ要ス

ニ、外山巡查部長順記料理店三階物干台ニ隠レ居リタル際同料理店ニ乱入セル学生ニ発見セラレ棍棒ニテ突カレ後頭部ニ打撲傷ヲ受ケタリ治療一週間ニテ全治セリ

ホ、籍民一名江口署長ノ通訳トシテ隨行中学生ノ群ヨリ石ヲ投ゼラレ後頭部ニ長サ約三厘米深サ骨膜ニ（脱）傷ヲ受ケ治療二週間ヲ要ス

尚喧嘩ニ参加セルハ内地人籍民合而十名許リ及籍民ノ心易
搖甚シク依ッテ在留民側ノ希望ヲ容レ艦長トモ協議ノ上二十四日ニ四十名上陸シ南台ノミヲ見物シ二十五日又四十名上陸城内南台ヲ見物シ越エテ三十日約六十名上陸シ日本人俱楽部ニ開カレタル民会及台灣公会聯合ノ歓迎会ニ臨メリ尚督軍ハ二十四日嚴重ノ布告ヲ出シタルガ之ガ為メ学生ノ隊伍ヲ組ミ市中ヲ横行スル者皆無トナリ本邦商品モ日本ノ商標ヲ附セル儘公然何等故障ナク運搬セラルニ至レリ尤モ此ノ状態ガ繼續スベキヤ否ヤ目下ノ處見込立タズ尚水兵上陸ニ就テハ艦長ト協議ノ上事情ノ許ス限り上陸セシメザル様取計フベシ

在上海、廣東総領事へ電報セリ
九九五 十二月一日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛
福州衝突事件ニ關シ中國側ヘ照会ノ件
機密第四八六号
文第二四九号
(十二月八日接受)

大正八年十二月二日
在支那

一一一 福州ニ於テ日中両国人衝突一件 九九五

特命全権公使 小幡西吉（印）

外務大臣子爵 内田康哉殿

本件ニ閔シテハ十一月廿九日附機密第四七八号ヲ以テ及報告置候外交總長代理ニ対シ十二月一日附ヲ以テ更ニ別紙写ノ通り照会ニ及ヒ置候間御查閱相成度右別紙写相添此段申進候也

本信写送付先 天津、上海、福州、広東

（附属書）

十二月一日附小幡公使ヨリ陳外交總長代理宛公文第二四九号

福州事件ニ閔シ照会ノ件

第二四九号

以書翰致啓上候陳者在福州日支人間ノ鬭争事件ニ閔シテハ其発端原因其他ニ就キ十一月二十日附第二三八号公文ヲ以テ詳細及照会置候處本件ニ閔シ其後在福州帝国領事ヨリ統報シ来レル所大要左ノ通りニ有之候

這回ノ衝突事件カ當地方支那学生等カ過激不法ナル排日行動ト之ニ対スル地方官憲ノ取締禁令全ク行ハレサリシトニ基因スルハ言ヲ待タサル所ナルカ尚其直接ノ原因ト

民十數名アリ茲ニ第二回ノ喧嘩ヲ生スルニ至リタルカ籍民等ハ當時学生等ヲ追フテ青年会ニ到リ門内ニハ入ラシテ引返シ二三町ノ處迄至リタル処此時迄ハ学生及籍民双方共發砲セス然ルニ其後更ニ二三百名ノ学生押シ寄セ来ルト同時ニ「ピストル」ヲ發射シ始メタルヨリ附近在住ノ籍民ニシテ応援ニ赴キタル者五六名アリテ双方混鬪ノ際武装巡警及軍隊モ來着シタルカ彼等ハ直チニ軍銃ヲ放チテ学生等ヲ援助シ籍民ヲ取押ヘントシタリ之力為メ籍民側モ之ニ向ッテ応防シ混亂ニ紛レ逃レ帰リタリ尚今回ノ事件ニ閔シ支那側ニ在リテハ日本人カ基督教青年会ニ侵入シタル事實アリト称シ居レルモ決シテ斯ル事實ナシ元來同会ハ排日運動ノ巣窟ニシテ常ニ多數ノ学生アリ籍民ニシテ斯ル場合会内ニ闖入スルカ如キハ自ラ虎穴ニ入ルニ異ナラス又今回ノ事件ニ米国人二名之ニ閔シ居リ内一名ハ「ピストル」ヲ携ヘ学生等ト共ニ逃走中籍民ノ為メ其「ピストル」ヲ取押ヘラレタルハ事實ナルカ如シ次ニ當館江口署長ハ署員數名及台灣總督府派遣留学生一名並ニ通訳一名ヲ同行シ籍民等ヲ取締ランカ為メ現場ニ馳セ付ケタルニ其際学生等ノ為メ前後ヨリ包围セラレ依

テ其日本領事館員タルコトヲ説キ聞セタルモ該學生等ハ之ヲ聽キ入レサルノミナラス却テ「殺」「打」ト絶叫シテ頻リニ瓦礫ヲ投ケ付ケ之カ為メ通訊ハ後頭部ニ傷ヲ負ヒ且学生等ニ於テ發砲ヲ敢テスルニ至リタル為メ危險ヲ避クル為メ附近ニ在リタル順記ト称スル料理店内ニ逃ケ込ミタル處同店ノ主人並ニ使用人等ハ其門ヲ閉サシ三階ニ在ル隠レ場ヲ署長等ニ知ラシメ尚電灯ヲ滅シ同時ニ門外ニ蝟集シ来レル学生等ニ対シ日本人等ハ既ニ逃レタリト説明シタルモ学生等ハ容易ニ之ヲ聽キ入レス遂ニ店内ニ乱入シ内ニ在リタル一切ノ器物殆ソト全部ヲ破壊シ去リタリ當時順記主人ハ署長等ノ危難ニ同情シ「パン」及茶等ヲ出シテ接待シタル由ナリ然ルニ支那側ニ於テ日本人殊ニ領事館員等カ右順記ニ闖入シテ其器具類ヲ破壊シ尚砲シタリト称シ居レルハ事實ヲ顛倒捏造スルノ甚タシキモノニ属セリ殊ニ事後順記主人ハ支那警察ヨリ同店ノ器具ヲ破壊シタル日本人ナル旨ヲ書キ立テ損害ノ賠償方ヲ申立ツヘシト迫ラレ已ムヲ得ス其意味ノ書面ヲ認メ之ヲ支那警察ノ手ニ渡シ置キタルモ是全ク圧迫ヲ受ケ不得已ニ出テタルモノナリ尚本件衝突ノ当夜米國領事ヨリ

帝国領事ニ私信ヲ送リ多数ノ日本人及日本籍民等基督教青年会ニ侵入シテ学生一名ヲ捕ヘ拉シ去リタル旨同会ヨリ電話ニ接シタルヲ以テ此等日本人ノ取締方ヲ依頼スル旨申来リタルヲ以テ帝国領事ハ其後米國領事ト會見シ今回喧嘩ノ原因及狀況ヲ語リ学生側及支那新聞紙ノ報道スルカ如キハ事實ニ非ザル旨説明ヲ与ヘ同時ニ若シ今回ノ喧嘩ニ関シ何等申出テラレタキ儀モアラハ照会アリタント告ケタルモ之ニ対シ米國領事ヨリ其後何等交渉スヘキ意向ナキ旨ヲ言明シタル次第ナリ右ハ今日支人衝突事件ノ余波ニ屬スルコトナルモ念ノタメ茲ニ添報ス

本件衝突事件ニ關シテハ前掲在福州帝國領事ノ統報ニ依リ益々明カナルカ如ク數ヶ月間ニ亘レル福州学生等ノ條約国在留商民ノ正当業務遂行ニ対スル妨害压迫等有ラユル不法行動並ニ此等ニ対スル地方官憲ノ黙過放任ノタメ学生団ヲシテ何等憚ル所ナキニ至ラシメ遂ニ今回ノ如キ不幸事件ノニ有之而シテ学生団等力他ノ外人ノ經營ニ係ル宗教教育ノ機関タル基督教青年会ヲ以テ其排日排貨運動ノ根城ノ一二供シタルカ如キハ最モ遺憾トスヘキ義ニ有之候就テハ貴總

九九六 十二月二日 在九江 河西領事ヨリ
内田外務大臣宛 福州事件ニ対スル九江新聞紙ノ論調及其住民ニ及木セル影響並基督教青年会系学生団等排

日宣伝運動ニ關スル件

往信第一三一号 大正八年十二月二日 (十二月十五日接受)

在九江

領事 河 西 信(印)

外務大臣子爵 内田康哉殿 福州事件ニ対スル当地新聞紙ノ論調並学生聯合会ノ態

度ニ關スル件

最近來排日ノ風潮大ニ緩和シ暫ク形ヲ潛メ居リシ日貨モ地方在貨ニ欠乏生スルニ至リ漸次取引ヲ開始セラルノ機運ニ向ヒ日支商民ノ接触ハ只其ノ間ニ学生団ノ之ヲ妨害セント力ムアルヲ除キ益々円滑ニ赴キツツアリタルニ去ル客月十六日福州ニ於テ邦人台灣人及支那學生間ニ大衝突ヲ起シ雙方多數ノ死傷者ヲ出タシタルノ事件突発シタルノ飛報致ルヤ今日迄稍々鳴リヲ鎮メ居リシ地方新聞紙ハ該事件ニ藉口シ根本的誤報ヲ基礎トシ盛ニ針小棒大ニ排日的宣伝ヲ開始シ學生団ニ於テモ同様ニ動搖ヲ來タスニ至レリ即チ排日ノ宣伝ヲ以テ任スル江西民報及江西新報ハ前者ハ本月二十三日ノ紙上ニ於テ上海全國各界聯合會ヨリ學生聯合會各團體ニ宛テタル函文ヲ掲載シ後者ハ同二十六日ノ紙上ニ於テ排中仇美ノ福州事件ト題シ激烈ナル排日的辭句ヲ掲載セリ

江西民報所載上海全國各聯合會來函左ノ如シ

日人蛮ヲ恃ミ閩省(福建)学生軍警多人ヲ槍傷ス國權民権此ニ從ソテ地ニ墮ツ吾人人民ハ宜ク全國各界ト聯合シ此ノ無慘ニシテ人道ヲ蔑視セル日人ニ対シ群起シテ之ヲ

長代理ニ於テモ平心以テ今回事件ノ原因發端等篤ト御考慮相成尚今回ノ事件發生後ノ事局ニ対シテモ地方官憲ノ責任ハ最モ重大ナル關係アル次第御諒知ノ上福建督軍省長ニ対シ慎重事ニ當ルヘキ旨特ニ御電訓相成度致希望候此段重メテ照會得貴意候 敬具

大正八年十二月一日

小幡公使

陳外交總代理宛

言ハシ全国同胞並カニ力メテ憤起シ再ヒ觀望スル勿レ速カニ一根本解決ヲ求メ争ツテ民權ヲ回シ國權ヲ恢復ス天職ノ在ル所豈ニ棄ツ可ケンヤ此ノ時一自救方法ヲ謀ラサレハ前途何ソ想フ設クルニ堪ヘン星々ノ火ハ尚燎カナル

可シ原ヨリ微ヲ防イテ漸ヲ杜グ古ヨリ明訓アリ況ヤ日人ノ毒志ヲ以テ人道公理昌明ノ時代ニ在ツテ大ヲ冒スヲ惜マス徳ヲ為スノ意志ノ敢テ為ササルモノ其ノ意深シ朝鮮台灣殷鑿遠カラス心所謂危ケレハ亦告グルヲ以テス夫レ日人ニ敵抗シ争ツテ民權ヲ回シ國權ヲ恢復スル當ニ尚徒ニ空言ニ非ラス及ヒ赤手空拳ナルモノ能ク功ヲ為ス所吾人ハ現時既ニ人民ニ正式保障無シ之政府ノ生命財産ノ危險已ニ極マルニ賴ル所ハ人心死セス群集努力ヲ継続シ日人ニ対スルニ在リ

血ヲ流サナル戰爭タル日貨抵制ノ効力甚タ大ナリ五四ヨリ以来此ノ議大ニ唱ヘラレ國民ノ意向堅決シ一致行動ニ因リ莫大ノ効果ヲ收ム邇来日久シク各地ニ於テ日貨ハ日ヲ遂フテ漸次出現シ上海一埠ノ調査スル所ニ拠レハ月ニ數倍ヲ増ス此等ノ惡現象ハ實ニ痛心ニ堪ヘタリ望ム所ハ各界同志急ニ起ツテ極力提倡彼邦ノ經濟ヲ奢ム可シ吾人実ニ之ヲ操ル可シ若シ能ク進行ヲ繼續シ持久懈ラサレハ彼悍虜ト雖モ終ニ民窮マリ財尽クルノ日アリ時ニ及ヒ再ヒ民權ヲ言ヒ再ヒ國權ヲ言フモ尚未夕晚シト為サス願クハ國人亟カニ之ヲ団レ

可シ原ヨリ微ヲ防イテ漸ヲ杜グ古ヨリ明訓アリ況ヤ日人ノ毒志ヲ以テ人道公理昌明ノ時代ニ在ツテ大ヲ冒スヲ惜マス徳ヲ為スノ意志ノ敢テ為ササルモノ其ノ意深シ朝鮮台灣殷鑿遠カラス心所謂危ケレハ亦告グルヲ以テス夫レ日人ニ敵抗シ争ツテ民權ヲ回シ國權ヲ恢復スル當ニ尚徒ニ空言ニ非ラス及ヒ赤手空拳ナルモノ能ク功ヲ為ス所吾人ハ現時既ニ人民ニ正式保障無シ之政府ノ生命財産ノ危險已ニ極マルニ賴ル所ハ人心死セス群集努力ヲ継続シ日人ニ対スルニ在リ

次ニ客月二十六日江西新報所載排中仇美ノ福州事件ノ全文左ノ如シ

福州日人槍械ヲ用ヒ吾國警官及ヒ学生ヲ殺傷シタルノ一事十九日東方通信社電ト路透電及上海報告ト大ニ相逕庭ス東方電ニ依レハ始メ即チ福州排日風潮ト称ス又謂フ学生等頻ニ日人ニ対シ暴行ヲ加ヘ其ノ貨物ヲ強奪スルノ拳動アリ十六日ニ至リ学生等復夕強奪ヲ行ヒ遂ニ衝突ヲ發生スルニ至ル等ノ語ハ罪ヲ学生ニ帰シ以テ藉口シ日人保護軍艦急派ニ便シ此ノ事件ノ拡大ヲ企図シ其ノ思ヲ福州ニ逞クセントスルノ野心遂ニ飛躍ヲ試ミント欲ス

上海報告及路透電ヲ以テ証スレハ則チ日人ノ巡警兵士学生ヲ殺傷シタルノ事已ニ兇横匹ヒ無キニ属ス乃チ又青年会ニ闖入シ米国人二人ヲ傷ケタルハ更ニ狂暴ト謂フ可シ且ツ尤モ怪ム可キハ乃チ日本領事館ノ警察署長ノ場ニ在リテ指揮セルニ在リ此レ日人等ノ勇ニシテ且ツ悍ニ啻ニ警察署長ノ命令ヲ奉スルノミナラス此ノ暴動アル所以甚夕明カニ属ス東方電ハ罪ヲ学生ニ帰シ又百方其ノ非ヲ掩ハント欲スト雖モ其ノ電報ニ彼此発砲シ多數ノ負傷者アリノ語ヲ觀レハ則チ其ノ掩飾ノ技已ニ窮マルヲ知ル蓋

シ負傷何方ニ在リヤ敢テ明言セス其ノ肺肝固ヨリ已ニ見ルカ如シ当社得ル所ノ報告及ヒ電報ニ依レハ該事件ノ明細下ノ如シ

事件発生ノ日 十一月十六日

全発生地 福州南台大橋即安樂橋

事件発生者 日本人及日屬台灣人聚多人

指揮者 日本領事館警察署長

事件発生原因 青年会學生演説肇事地ヲ経過中日人ニ

使用武器 槍及刀

蔓延地 青年会

死者 名

負傷者 巡警十一人青年会學生四人其ノ他負傷者甚多シ

外国人負傷者 死者教員一名負傷者青年会米国人二名以上各点ヲ綜觀スルニ該日本人等其ノ領事館警察署長ノ指揮ヲ受ケ故無クシテ凶ヲ逞ウシ吾國學生巡警多人並ニ外國教員及米國人ヲ殺傷ス最後ニ乃チ急ニ軍艦ヲ調フ則

チ吾人ハ此ノ事件ヲ觀察シ茲ニ一批評ヲ下ス可シ曰ク排中仇美ノミ何ヲ以テ之ヲ言フ日人ノ福州ヲ謀図スル已ニ久シ中外ノ論無ク之ヲ知ラサルナシ大陸報ノ此ノ重大交渉案ハ實ニ日人平素福建ヲ謀図スルノ結果ト謂フハ其ノ隱情ヲ洞中スト謂フ可シ彼ノ日人福州ヲ占領セント欲ス而シテ機会ナキニ苦シム今學生ノ愛國講演ニ對シ横ニ攻撃ヲ加ヘ其ノ殺傷ヲ肆ニス此レ其ノ心ヲ用キル直チニ我ノ福州ヲ取り而シテ之ヲ占領セント欲ス且ツ華人ヲ福州ノ外ニ驅リ尽スノミニ非ス排中ニ非スト謂フ可カラズ米人ニ至ツテハ素ヨリ公理ヲ持シ山東問題ヨリ以來久シク日人ノ仇視スル所今在青年会ノ米人故無クシテ殃セラル其ノ仇美ニ非ズシテ何ソヤ日本ニ寄語ス歐戰已ニ終リ福州未タ占領ヲ容レス排中仇美ノ徒公理ノ容レサル所タル深ク研ムルヲ要セス何ソ日本ニ利センヤ

上掲上海來函及新聞紙ノ排日宣伝カ當地方民心ニ如何ナル激触ヲ与ヘタルカハ今日迄ニ於テハ著シキ変状ヲ認メス恐クハ将来ニ於テモ大事ヲ惹起スルコトナカル可シト思料セラルモ自尊心極メテ強キニ反シ外國ノ事情ニ暗キ地方民ハ如斯虚報ノ下ニ構成セラレタル妄言ヲ誤信シ益々対日的

一二 福州ニ於テ日中両国人衝突一件 九九七 九九八

一〇八六

反感ヲ助長スルニ至ル可キハ疑ヲ容レサル所ト思料セラル

今日ノ状態ニ於テハ或事件ノ突発スル毎ニ彼等排日者流ノ
乗スル所トナリ地方民ハ直ニ其ノ誤報ヲ妄信シ押シテ中国

侵略ノ深意ニ出ツト誤解シ日本ヲ畏怖スルコト甚タシク其
ノ極遂ニ露骨極マル感情ヲ吐露スルニ躊躇セナルニ至ル次

第ナリ然レ共排日ヲ以テ終結セントスル者ハ基督教青年会
系ノ学生団及之ニ不逞浮浪者ヲ加ヘタル一部ニ止マリ彼等

ノ北京、天津、上海ヲ根拠トシテ行ヘル宣伝運動ヲ根本的
ニ絶滅ニ帰セシムルヲ得ルノ日到来セハ地方小團ノ如キハ

従ツテ消沈スルニ至ル可ク若シ右ニシテ不可能ナル以上ハ
事每ニ事端ヲ釀シ且ソ之ヲ拡大シ日支親善ノ実ハ從ツテ成
レハ從ツテ壞レ両国民ノ理想トスル親善ノ實現ノ如キハ永

久ノ問題トシテ殘留セラルニ止マル可キカト思考セラル

右及報告候 敬具
写送先北京公使

九九七 十二月二日

在中國小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

福州事件ニ閩シ在北京福建有力者日本軍艦撤

退対日要求ニ付決議ノ件

九九八 十二月二日

在本邦中国臨時代理公使ヨリ
福州事件ニ閩スル中國申越ニ対シ回答ノ件

政一機密送第六三号

第一五一九号

福州事件ニ閩シ十一月三十日在北京福建有力者陳寶琛林長
民等五百余名福州会館ニ会シ左ノ決議ヲナセリ

一、派遣日本軍艦ノ撤退

二、日本政府ノ謝罪

三、福州日本領事ノ更迭

四、兇行者ノ所罰

五、被害支那人ノ損害賠償

六、日本ノ今後ノ保障

右ハ即日政府ニ（不明）日本政府ニ提議シ十日ヲ限り回答
ヲ求ムト云フニアリ其実質如何ニ論ナク兎ニ角福州ニ於ケ
ル大会決議ト相呼応スル運動ニシテ尚不日国民大会ヲ開ク
可ク計画運動中ノ由ナリ

福州廈門汕頭及上海廣東へ転電セリ
在天津總領事へ郵送セリ

以書翰致啓上候陳者貴歴民国八年十一月二十六日附第六九
号貴翰ヲ以テ十一月十六日福州ニ於テ發生セル日支人衝突
事件ニ閩シ御照会ノ趣閱悉致候右御來示ニ拠レハ貴国政府
ハ福建督軍及特派員ノ電報ニ基キ本件ノ曲全然日本側ニ在
リト為シ甚シキニ至テハ事件發生ノ責任ヲ帝国領事ニ嫁シ
事前ニ於テ防遏ノ措置ヲ取ラズ事後ニ於テ輕卒ニ軍艦派遣
ヲ電請セルカ如キハ國交ヲ重スヘキ道ニアラズトセラレ其
派遣方ヲモ中止スヘキ旨要求セラレ居候處事件ノ顛末ニ閩
シ帝国政府ノ接到セル報告ニ拠レハ本件發生ノ動機及衝突
ノ情況並ニ事後ノ經過等ニ就テハ御來示ノ内容ト相違セル
廉誠カラズ今日迄我方入手報道ノ閩スル限り其曲全然支那
側ニ在ルモノト被認候得共帝国政府ハ両國ノ國交ヲ顧念シ
慎重公平ニ事件ノ真相ヲ查明シ是非ヲ分別シテ急速解決ニ
努ムル方針ニ有之候間右ニ御承知相成度候唯茲ニ帝国政府
ノ希望トシテ特ニ貴国政府ノ考量ヲ促シ度ハ先般來貴國南
北各地ニ伝播シツツアル排日風潮ノ一事ニ有之右ハ貴翰御
來示中ニモ其事實ヲ認メ居ラル次第ニテ之レカ為メ帝国
臣民ノ被ムル諸般ノ損害實ニ測リ知ルヘカラサルモノアリ
從而帝国官憲ニ於テハ帝国臣民ノ生命財産並ニ正当ノ業務

來示中ニモ其事實ヲ認メ居ラル次第ニテ之レカ為メ帝国
ノ儀ニ有之候間當面ノ急務トシテハ貴國官憲ニ於テ嚴ニ排
日風潮ヲ取締リ帝国臣民ヲシテ其業務及居住ニ安ゼシムル
様最モ有効ナル措置ヲ講ゼラルコト緊要ノ儀ト認メ候右

ノ次第貴国政府ヘ御転達相成度此段照覆旁本大臣ハ茲ニ重
テ貴下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

大正八年十二月二日

外務大臣爵 内田康哉（印）

支那共和国臨時代理公使

莊 璞 珂 貴 下

九九九 十二月二日 内田外務大臣ヨリ
在中国小幡公使宛（電報）

福州事件ニ關シ中国代理公使ノ公文申出ニ對

スル我回答ノ大要通報及訓令ノ件

第一四八二号

往電第一四七五号ニ關シ

十二月二日付ヲ以テ大要左記ノ通り在本邦支那代理公使ヘ回答シ置キタルニ付テハ左記ノ内「帝国政府ノ希望トシテ」以下ハ適當ノ機会ニ於テ貴官ヨリモ支那政府ニ申入レ置カレ度ク尤モ末段軍艦派遣問題ニ付テハ先方ヨリ執拗ニ追及シ來ラナル限り進ムテ弁明ノ必要モ無之ニ付其辺御舍ノ上可然御取計アリタシ

福州事件ノ顛末ニ關シ帝国政府ノ接到セル報告ニ拠レハ事件発生ノ動機及衝突ノ情況並ニ事後ノ経過等ニ就テハ支那側挙示ノ内容ト相違セル廉謬カラス今日迄我方入手報道ノ

閥スル限り其曲全然支那側ニ在ルモノト認メラルモ帝国政府ハ両國ノ國交ヲ顧念シ慎重公平ニ事件ノ真相ヲ查明シ是非ヲ分別シテ急速解決ニ努ムル方針ナリ唯帝国政府ノ希望トシテ特ニ支那政府ノ考量ヲ促シ度キハ先般來支那南北各地ニ伝播シツツアル排日風潮ノ一事ニシテ之カ為メ帝國臣民ノ被ムル諸般ノ損害実ニ測リ知ルヘカラサルモノアリ從テ帝國官憲ニ於テハ帝國臣民ノ生命財産並ニ正当ノ業務ヲ保護スル為メ支那政府及當該地方官憲ニ対シ学生其他ノ暴挙嚴重取締方ヲ要請セルコト一再ニシテ止マラスト雖支那官憲ノ多クハ啻ニ有効ナル取締ヲ励行セナルノミナラス動モスレハ帝國臣民ノ被害ヲ輕視スルノ事實アリ如斯ハ条約ノ規定ヨリスルモ將又善隣ノ睦誼ニ顧ミルモ帝國政府ノ常ニ最モ遺憾トル所ニシテ現ニ今回不祥事件ノ發生セル福州ノ如キハ帝國臣民ニ対スル支那學生團ノ暴行迫害最近ニ至ツテ殊ニ甚シク而カモ官憲ハ何等徹底的措置ニ出テサリシカ為メ遂ニ衝突ノ不幸ヲ見ルニ至リタル次第ニテ衝突ノ主因ハ正ニ此点ニ在リト思考ス将又軍艦ノ派遣ハ已ムナク自衛ノ途ヲ講スルノ外ナキニ基キタル次第ニテ機ニ臨ミ帝國臣民ノ保護ニ任スルノ外支那官民ニ対シ何等他意アル

（附記）

福州事件梗概（政務局大正八年十二月二日調）

日本側報告

支那側報告

備考

（一）福州ニ於ケル最近ノ排日情勢

（イ）情勢一班

福州ニ於ケル排日氣勢ハ最近ニ至リ再ヒ勢ヲ盛返シ來リ本邦人所屬貨物ニシテ支那學生等ノ為メ強奪燒棄セラルアリ又本邦商ニハ昼夜立番ヲ附シ若シ貨物ヲ搬出スル場合ニハ之ニ尾行シ適當ノ場所ニテ取押フル等直接ノ危害ヲ加フルニ至リ（本件事実ハ内外人ノ等シク熟知セル所ニシテ支那新聞紙モ亦常ニ如上ノ記事ヲ登載シ居タリト謂フ）現ニ本邦人所屬貨物ニシテ運搬ノ途中所謂日貨調査隊ノ為ニ取押ヘラレタルモノ十一月以降三回アリ其中一回ハ危難ヲ免カレタルモ一回ハ全然劫奪燒棄セラレタリ

（ロ）日本側ノ執リタル措置

一二 福州ニ於テ日中両国人衝突一件 九九九

帝国領事ハ再三嚴重ナル抗議ヲ提出シタルモ支那官憲ハ僅カニ一片ノ告示ヲ發スルニ非サレハ單ニ形式的回答ヲ送付シ來レルニ過キス為ニ学生ノ暴行ヲシテ益々增長セシムルノ傾向アリ依テ

(2) 在留邦人有志ノ組合組織
在留邦人有志ハ台灣籍民ノ有志ト合議ノ末本邦商所屬貨物ノ搬出ニ監視人ヲ遣シ學生等カ貨物ヲ取押ヘタル場合ニ該學生ヲ支那官憲ニ引渡ス等臨機ノ措置ヲ執ルカ為メノ組合ヲ組織スルコトセリ

(4) 最近ノ事実

(1) 十一月十一日福州在留台灣籍民瑞順洋行ニ於テ燐寸二担価額九十九弗ノモノヲ取引先ニ運搬ノ途中支那学生ノ一群ニ取押ヘラレ遂ニ燒棄セラレ而カモ巡警等ハ右ノ暴行ヲ目撃シナカラ何等ノ措置ヲモ取ラナリシト云督軍ノ学生等ヲ誠ムル旨ノ布告モ何等ノ効果ヲ見ス

(2) 右ノ事件ニ關シ帝国領事ハ暴行学生全部ノ厳罰、損害ノ賠償、上掲巡警ノ免職、今後ノ保障等ニ付嚴重交渉ヲ試ミタルモ要領ヲ得ス且又先是李

支那側ニ於テハ何等本件事実ニ言及セサルモ本事件ニ關連シ帝國領事ノ交渉員ニ対スル照会中「日本人人民憤怒ノ極ニ達シタレハ将来若シ学生ノ不法ニ遇ヒ双方衝突流血ヲ見ル場合アルモ責任ヲ負ハス」云々トアリシハ已ニ十六日ノ争闘ニ關シ事前ニ故意アリシモノナリト強弁セリ

(4) 元来本組合成立ニ關シ帝國領事ハ之ニ与ラス其後之ヲ耳ニシタルヲ以テ間接ニ積極的行動ニ出ツヘカラサル旨ヲ諭達シ其後モ監督ヲ怠タラナリシカ現ニ十一月十六日事件突発当日ノ如キモ組合員カ日商ラ団体ヲ作り武器得物ヲ備ヘタルハ日本人カ予メ衝突ヲ求メタルコト明カナリト謂ヘリ

(5) 其後本組合ハ日僑貿易保護團ト名付ケ商品輸送ノ保護、店舗商業ノ保護防衛ヲ目的トスル結束成レリ

合ヲ慮リ支那人ノ傭人等準備中ナルヲ偵知シ直ニ組合代表者ニ向ケ申上方ヲ諭達シタリ

(6) 其後本組合ハ日僑貿易保護團ト名付ケ商品輸送ノ保護、店舗商業ノ保護防衛ヲ目的トスル結束成レリ

(1) 第一回ノ衝突
前記在留邦人有志ノ組合二係ル組合員等支那学生等ノ模様ヲ探ラムカ為メ邦商天田洋行ヨリ「レース」糸代価百二十三元ノ現品ヲ籍民五名ヲシテ見工隠レニ監視隨行セシメ(監視人ヲシテ暴行セシメタル様特ニ注意ヲ加フル為メ台湾總督府留学生稻垣巡查ヲシテ二三丁離レテ隨行セシメタルカ同人ハ荷物ヲ取押ヘタル学生一名ヲ巡警ニ引渡シ直ニ引揚ケタリト云フ)現品ヲ搬出シタルニ午後五時半頃基督教青年会館附近ニ於テ青年会学生三名ノ為ニ取押ヘラレ現品ヲ奪取セラレムトシ運搬苦力右学生ヲ相当手酷ク殴打シタル上一旦附近ノ籍民ノ住家ニ連込ミ後直ニ支那巡警ニ引渡シタリ

(2) 第二回ノ衝突
(1) 然ルニ約一時間後如上ノ報ニ接シタル籍民内地人合セテ十名許リ(内拳銃ヲ携ヘタル者二三名アリ)籍民ノ心易キ支那人十二三名現場ニ馳付ケタルカ恰モ青年会ヨリモ數百ノ学生(勘クトモ二三百名ヲ下ラス)繰出

(3) 十一月二十七日附外交部發小幡公使宛來照ニ拵レハ天田洋行ハ橋南ナルニ衝突ハ橋北ナルカ商品ヲ取押ヘタルハ果シテ何處ニシテ商品ハ何ニシテ如何ナリシヤト反問シ且

(4) 巡警中銃二挺ヲ日本人台灣人ニ奪ハレシヨリ見ルモ日本側ノ數多クシテ予用意アリシヲ知ルニ足ル旨強弁セリ

(5) 又日本人及台灣人ノ數ハ百余名ニ上リ而
カモ多クハ短銃得物ヲ携帶セリト

シ来リ夫々棍棒又ハ竹竿等ヲ携ヘ日
本人ト見レハ其何人タルヲ問ハス攻
撃シ来リ遂ニ爰ニ再ヒ衝突ヲ惹起シ
双方ヨリ発砲シ初メ更ニ間モナク急
報ヲ得テ數百ノ武装巡警及兵隊駆付
ケ來リ加フルニ無数ノ支那無頼漢等
亦入り乱レ渡合ヒ双方共數名ノ負
傷者ヲ出セリ

(6) 後報ニ拠レハ籍民側ハ学生等ヲ青年
会館迄追ヒ捲リ同会館ノ門前ニ於テ
万歳ヲ唱ヘ二三丁引返シタルカ此時
迄ハ双方発砲セサリシモ更ニ二三百
ノ学生等押寄せ来リ短銃ヲ發射シタ
ルカ當時附近ニ在住セル籍民ニシテ
短銃鉄砲等ヲ携ヘ応援シ来レルモノ
五六名アリ混亂ノ最中數百ノ武装巡
警及軍隊來着直ニ軍銃ヲ發砲シ学生
等ヲ援助シテ籍民ヲ取押ヘントンタ
ルカ為メ籍民等亦之ニ応シテ發砲シ
混雜ニ紛レテ脱出セリ

(7) 籍民等カ青年会館ニ侵入シタリト云
フハ事実ニ非ス
(8) 又外国人二名参加シ内一名ハ短銃ヲ
携ヘ学生等ト共ニ格闘中籍民側ニ於
テ取押ヘ相当殴打ヲ加ヘ其所持セル
短銃ヲ奪取セリト云フ
(9) 帝国憲ノ取りタル措置

米国人学生ヲ救ハムトシテ日本人ニ殴撃セ
ラレタルハ衆目ノ認ムル所ナリト云フ (十
月二十七日附外交部発小幡公使宛公文)

在福州米國領事ハ「武器ヲ携帶セル多數ノ
日本人台灣人故ナク米國ノ所有ニ係ル基督
教青年会ニ侵入シテ支那学生一名ヲ取押
ヘタル旨帝国領事へ申出来リタルカ帝国
領事ニ於テ詳細ナル説明ヲ与ヘ置キタリト
謂フ

(1) 帝国領事館警察署長署員數名ヲ率ヒ
現場ニ急行シタルニ已ニ第一回ノ衝
突鎮静シ何等ノ暴状ヲモ見サリシヲ
以テ附近巡邏中第二回ノ衝突突発シ
タルニ付直ニ現場ニ臨ミ籍民ヲ取押
ヘムト試ミタルニ学生側ハ署長署員
ヲモ喧嘩ノ仲間ト誤認シ瓦石ヲ飛ハ
シ遂ニ發砲スルニ至レリ仍テ署長等
ハ難ヲ附近ノ順記料理店ニ避ケ三階
ノ物干台下ニ隠レタルニ学生等ハ料理
店主人ノ制止ヲモ肯セヌ該料理店ハ
ニ侵入シ殆ト一切ノ器具ヲ破壊シ多
大ノ損害ヲ与ヘタリ

日本警察官カ料理店ヨリ發砲投石シタリト
主張スルコト前段ノ如ク殊ニ順記料理店ハ
日本人ノ為メ器物ヲ破壊セラレ損害三千元
ニ達スル旨申立テタリト謂ヘリ

(1) 警察官一行ニハ銃器ヲ携帶セル者一人モ
無シ
(2) 順記料理店主ハ支那警察官ヨリ器具破壊
セルハ日本人ナル旨申立テ損害賠償ノ要
求ヲナスヘシト迫ラレ已ムナク書面ヲ認
メ署名シテ支那警察ニ差出シタルモ右ハ
本意ニ非サル旨一籍民ニ内報シ来レリト
曰フ

(4) 他料理店使用人ノ密報ニ依リ領事館
ニ於テ交渉員ニ交渉ノ結果署長等ハ
兵員護衛ノ下ニ漸ク帰還スルコトヲ
ノ保証スル所ナリ
(5) 他料理店使用人ノ密報ニ依リ領事館
ニ於テ交渉員ニ交渉ノ結果署長等ハ
兵員護衛ノ下ニ漸ク帰還スルコトヲ
得タリ

一一 福州ニ於テ日中両国人衝突一件

九九九

一〇九三

交渉署ノ交渉ニ基キ十一月二十六日彼我官憲立会臨検ノ結果左ノ如シ（別表参照）負傷者

日本 五

支那 六

(5) 軍艦ノ派遣

自衛上已ムヲ得ス軍艦嵯峨及驅逐艦二隻ヲ廻航シ且派遣艦ニ対シテハ居留民保護任務ノ遂行ニ關シテハ領事ト特ニ密接ナル連絡ヲ保チ又陸戦隊ノ揚陸及武力ノ使用ニ關シテハ緊急特ニ已ムヲ得サル場合ノ外海軍大臣ニ請訓ノ上処置スヘキ旨電訓セリ爾來語言流説熾ニシテ居留民一般不安ノ念ニ猶ラレタルヲ以テ領事ハ十一月二十三日嵯峨艦長ニ對シテ福州溯行ヲ依頼シタリ爾來二十四、二十五、三十日ノ三回三分チ兵員ノ上陸ヲ見タリト云フ

(3) 十一月二十三日ノ事件

二十三日午後十二時頃福州南台ニ於テ十二三名ノ学生通行中ノ一籍民ヲ取押ヘ激シク殴打ノ末「ジャヤンク」造船所附近ニ拉致シ鉛刀ヲ以テ背部大腿其他數箇所ニ切創ヲ与ヘ且裸体ト為シ全身ニ「コールタール」ヲ塗付シ夜間其儘棄置キタルカ二十四日朝通行ノ支那人ニ発見セラレ支那巡警ニ於テ之ヲ車ニ乗セ籠縛ヲ以テ掩ナルヲ指摘シ置ケリ

支那側ハ毫モ本件ニ言及セス

ヒ支那負傷人員ニ閱シ或ハ支那側鐵砲傷一、刀傷四傷五、巡警ノ鐵砲傷一ナリトシ（十一月二十九日附外交部發小幡公使宛覺書）或ハ漠然十数名ナリトシ（外交總長代理ノ小幡公使ニ對スル談話）或ハ銃傷一、刀傷打撲傷計五ナリト云ヘリ（十一月二十六日附莊代理公使發内田外務大臣宛公文）要スル二支那側負傷者ノ多くハ短銃傷ナルニ反シ日本側ノ分ハ打撲傷ニ外ナラナルニ依ルハ日本側ニ於テ短銃等危險ナル兇器ヲ携ヘ支那側ニ於テ然ラサリシヲ立証スト謂フ特ニ領事ノ軍艦派遣ノ申請ヲ呼号シ領事ハ事前ニハ防遏ヲ疏ニシ事後ニハ輕卒ニモ軍艦派遣ヲ請求セリト謂フ

(1) 日本側負傷者カ打撲傷ノミナルハ事實ナリ
(2) 案外双方共負傷者ノ少カリシハ天ニ向ツテ発砲セルカ為メナルヘシト曰フ

十一月二十九日芳沢政務局長カ支那公使館謹書記官ニ對シ本件ヲ指摘シタルニ斯ノ如キ事件ノアリシコトハ一向聞知セサル旨ヲ答ヘ且何分地方官憲力行届カサル旨ヲ告白セリ

(別表)

福州事件日支負傷者調

氏名	日	本	側	負傷程度	氏名	支	那	負傷程度
身	身	分	側	負傷程度	身	身	分	負傷程度
福田源藏	台湾總督府留学				某			
沖津芳藏	福州時報社々主				兵士			
三木小四郎	宿屋主人				海軍学校生徒			
同	胸部肺部	打撲傷（銃身ニテ）	胸部肺部	打撲傷（銃身ニテ）	小学校教員			
同前	治療三週間	肺部両腕後頭部	治療三週間	胸部肺部	胸腹部	明銃砲創ナリヤ否ヤ未ダ不治	太腿部銃丸創	後頭部及臀部銃創刺創

氏名	日	本	側	負傷程度	氏名	日	本	側	負傷程度
身	身	分	側	負傷程度	身	身	分	側	負傷程度
福田源藏					某				
沖津芳藏					兵士				
三木小四郎					海軍学校生徒				
同	胸部肺部	打撲傷（銃身ニテ）	胸部肺部	打撲傷（銃身ニテ）	小学校教員				
同前	治療三週間	肺部両腕後頭部	治療三週間	胸部肺部	明銃砲創ナリヤ否ヤ未ダ不治	太腿部銃丸創		後頭部及臀部銃創刺創	

一二 福州ニ於テ日中両国人衝突一件 一〇〇〇 一〇〇一

一〇九六

外 山 元三郎	巡 查 部 長	後頭部	打撲傷(棍棒)
某	籍 民	頭部	治療一週間
		投石ニヨリ負傷	治療二週間
計 五 名		同	商 店 番 頭 左腕下切傷
		青 年 会 学 生	胸部背部軽キ打撲傷 (已ニ治癒セリ)
計 六 名 (死亡者ナシ)		同	左肩軽打撲傷 (已ニ治癒セリ)
		青 年 会 学 生	商 店 番 頭 左腕下切傷
		同	胸部背部軽キ打撲傷 (已ニ治癒セリ)

一〇〇〇 十二月二日 在中国小幡公使宛(電報)

福州事件調査ノ為松岡書記官派遣決定ニ付補

佐トシテ館員一名派遣方等ニ関シ指示ノ件

第一四八四号

貴電第一五一五号ニ関シ當方ヨリハ松岡書記官(洋右)ヲ

福州へ派遣スルコトニ決定シ來ル九日頃東京出発ノ予定ナルニ就テハ通訳及同官任務ノ補佐トシテ貴館ヨリモ事務御差練ノ上深沢書記官又ハ西田通訳官ノ内一名派遣方取計ハ

レ度御決定ノ上ハ至急電報アリタシ尚又王鴻年ハ何日頃福

州へ到着ノ予定ナルヤ可成松岡書記官ノ一行ト同時頃ニ落合ヒ共同調査ヲ遂クルコトト致度當方希望ニ付右様御含ノ上可然打合ヲ遂ケラレ結果折返シ電報アリタシ

上海福州廣東へ転電アリタシ

一〇〇一 十二月二日 在中国小幡公使(電報)

籍民李塗水殴打セラレタル件ニ付事実調査方

福州總領事代理ニ要請シタルノ件

(欠号) (十二月三日接受)

十二月二日本使發在福州總領事宛第八三号

貴電第六二号ニ關シ

本件ハ大臣宛本使電報第一五〇二号中記載ノ通去ル二十六

日本使ヨリ陳外交總長代理ニ談話シ説明ヲ求メ置キタル処

十二月一日外交總長代理ハ熊秘書ヲ當館ニ遣ハシ福建特派員ヨリノ電報ニ依レハ二十三日夜二時籍民李塗水ナルモノ

鴨母洲ニテ寧波人ノ舟ニ闖入セシニ船頭等ハ賊ナルヲ疑ヒ

殴打シタル後「コールタール」ヲ全身ニ塗り付ケ夜明ケニ

至リ警察署ニ送リ來リ次テ日本領事館ヨリ人ヲ派シ來リ受

取り行キタルモノニテ警察署及交渉署ヨリ員ヲ派シテ見セ

シメタルニ極メテ醜キ^{ティック}體ナカルモ傷ハ重カラザルニ似タリ

目下船頭三人ニ付テハ既ニ警察署ニ拘留シアリ此ノ事ハ学

生ノ為サシメタルモノニアラズ且先ノ事件トハ毫モ關係ナ

シトアリタリトノ旨ヲ書シタル書面ヲ當方ニ交付セリ右ハ

前掲貴電末段附記ノ通支那側ノ詭弁ト思考セラルルモ今一

応御取調ノ上先方主張ノ事実ヲ論破スルニ足ル有力ナル材

料アラハ折返シ御回電アリタシ尚先方主張ノ事実ト貴電所

報ノ事実ト全然相違セル事項ニ付貴見電報セラレタシ

外務大臣並上海広東へ電報シ天津へ郵送セリ

非ザルヤ

(三)支那側ハ衝突當時領事館警察署員ニ於テモ暴行ヲ帮助シタル(脱)疑ヒ居レル処事實如何事件発生前後並其ノ最中ニ於ケル貴館員及警察署員行動ノ詳細

(四)天田洋行ノ貨物ヲ取押ヘラレタル地点並該貨物ハ衝突後如何ナリタルヤ

(五)支那側ハ日本人及台灣人等ハ武装巡警ヨリ銃二挺ヲ奪ヒタリ是ニ拠ルモ其ノ人数多カリシヲ知ルヘシト言ヒ居レル

処果シテ斯ル事實アリヤ

(六)支那側ニテハ日本人ノ多クハ兎器ヲ持チ居リ予メ用意シ居リタルモノニテ警察署ニテモ一旦(不明)ノ「ビストル」二挺刀一口ヲ押ヘシカ尚支那服ニ変装シ得物ヲ隠シ居タルモノモ現場ニテ捕ヘタリ是準備ノ確証ナリト言ヒ居レル処

右事實如何

(七)学生黃玉蒼ナルモノ負傷昏倒ノ際台票一千元ヲ奪ハレタリト右外交部公文ニアルハスル事實ヲ聞込アリタルヤ

(八)支那側ハ日本人ノ物品破壊ニ依ル損害トシテ順記ヨリ三千元ノ申立アリト言ヒ居レル処右ハ貴方電報ニ依リ明白ニ付其ノ儘弁駁ノ筈

二日外務大臣上海広東へ電報セリ
天津へ郵送セリ

一〇〇三 十二月三日 在本邦中國臨時代理公使ヨリ

内田外務大臣死

福州事件ニ關シ中國側覺書提出ノ件

附屬書 右覺書

拝啓陳者本国外交部十一月十九日ノ來電ニ依ル台灣籍民及日本人力福州ニ於テ学生ト衝突セシ事件ハ本代理公使二十六日ニ書面ヲ以テ貴大臣ニ照会シ復タ二十七日外交部ヨリ電報ニテ福建督軍及特派員ヨリ屢次詳細事實ノ報告ヲ転報セラレタルニ拠リ本官廖秘書ヨリ芳沢局長ニ面会討議シ並ニ速ニ軍艦ノ召還ヲ請求シテ之ヲ貴大臣ニ転達方依頼セリ本代理公使ハ本案ハ本国政府ニ於テ事實ノ調査、弁法ノ籌議中ナルニ依リ特ニ貴國政府モ亦詳細審査ヲ遂ケ領事一面ノ詞ヲ聽キ武断ヲ為シ事實ニ誤謬ヲ生シ商議取纏ニ障碍ナカラシコトヲ希望ス本代理公使ハ兩度ノ外交部電報ヲ閱シ及各方面ヨリ觀察スルニ本国地方官ノ報告各節ハ理由充分ナリト覺エタルニ依リ覺書ヲ調製シ貴大臣ニ送進シテ閲覽ニ供ヘ以テ参考ニ資ス尚迅速回答ヲ賜ヒ本国政府へ転達ス

ルニ便ニセシコトヲ切望ス茲ニ本代理公使ハ貴大臣ニ対シ特ニ敬意ヲ表ス 謹具

中華民国八年十二月三日

中華民國臨時代理公使 莊環珂

(附屬書)

十二月三日在本邦中國臨時代理公使ヨリ内田外務大臣ニ提出ノ

外務大臣子爵 内田康哉閣下

覚書

シタルハ十二日ナリ事實四日ノ差アリ領事報告ニ拠レハ日本人ハ学生ノ風潮激烈ナルニ因リ特ニ團体ヲ組ミ以テ防衛ニ資ストアリ此日本人ノ團体組織軍器用意ハ法令ノ範囲外ニ於テ任意ニ十二日ノ事ヲ報復シタルモノニシテ其行動ハ全ク預謀的ニ属シ又顯著ニ属ス

四、十六日ニハ決シテ学生ノ日本人ニ対シ何等ノ挙動アリシヲ聞カス則チ費端ハ明々ニ日本人ヨリ先キニ開キタルニ係ル當時学生ハ皆徒手ニシテ日本人ヨリ包围銃ヲ放チ攻撃セラル故ニ支那側負傷者多數ナリ若シ警察ノ救援ナカリセハ死傷ノ多キ必ス想像ノ及ハサルモノアラン

五、支那武装巡警ノ騎兵銃ハ台灣籍民ノ為メニ若干挺ヲ奪取ラル日本人ノ當時勢ノ猛烈ニシテ大ニ乱暴セシハ已ニ想像シ得ヘシ

六、福建督軍最後ノ報告ニ謂フ学生ノ殴打セラレタルハ一箇處ニアラスト持兎器兎行ノ人ハ早く已ニ各処ニ散布セシヲ知ルヘシ兎犯中ニハ又支那人ニ仮装シ竊ニ銃器ヲ携ヘタル者アリト其事前ヨリ手配セシハ更ニ疑義ナシ

七、當時米国人其場ニ在リ学生ヲ救護スルニ因テ負傷セリ

衆人皆目撃シタレハ虚構ノ筈ナシ独リ学生負傷ノ多ノミ

三、学生ヲ殴打攻撃シタルハ十六日ナリ而シテ燐寸ヲ燒燬ルコト問ハスシテ知ル

三、学生ヲ殴打攻撃シタルハ十六日ナリ而シテ燐寸ヲ燒燬

一一 福州ニ於テ日中両国人衝突一件 一〇〇三

一〇九九

一一一 福州ニ於テ日中両国人衝突一件 一〇〇四

ナラス警察モ亦銃傷アリ領事ノ報告ニ拵レハ日本人側ニ

ハ僅カニ瓦石ノ輕傷一人アリト若シ領事ノ称スル如ク双

方放銃相撲ハ其結果断シテ如是ナル能ハス即チ此一端ニ

シテ已ニ領事報告ノ事實ニ於テ多ク符合セサルヲ證明ス

ヘシ

八、領事ハ四日前ニ特派員ニ書面ヲ送リ日本人ノ憤怒已ニ

極マレハ倘シ双方衝突シテ流血ノ事アルニ至ルモ責任ヲ

負ハスト謂フ既ニ必ス流血ヲ醸成スル事ヲ知ラハ何故ニ

日本人ノ團結備銃ノトキ勦止ヲ加ヘナル之ヲ故意ニ為サ

シメタリト謂フモ尚復タ何ノ辞アラン

九、之ヲ要スルニ貴国政府ハ専ラ該領事一面ノ詞ニ拵リ並

ニ虚実ヲ調査セス悍然顧ミス竟ニ軍艦ヲ差向ケ以テ益支

那人民ノ惡感ヲ挑撥ス独リ両國ノ睦誼ニ於テ進行ヲ阻礙

スルノミナラス抑モ亦世ノ物議ヲ招クヲ免カレス尚貴政

府ニ速ニ軍艦ヲ召還シ以テ支那人民ノ惡感ヲ和ラケ然ル

後両国政府ヨリ適當ノ弁法ヲ商議セシコトヲ望ム倘シ仍

本成見ヲ固執セハ則チ支那人民ノ積憤日ニ深ク益両国ノ

外交ヲ困難ニ陥レン

第九八号

本官發在支公使宛電報第七八号

一〇〇四 十二月三日

在福州森給領事代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

寧波船ニ闖入セリトノ籍民李塗水ノ件ニ付真

相報告ノ件

第一四八五号(至急)

一一〇

ニ殴打ヲ加ヘタル後全身「コールタール」ヲ塗リ付ケ翌朝船頭等ハ之ヲ盜賊ト称シ同地(脱)ガ日本人ノ蛮心量リ知ルベカラザルニ斯クノ如キコトヲ為シ日本側ニ口実ヲ与フルコトハ不利益ナリトアリ右ハ李塗水ノ陳述ト全然一致シタリ

三、学生聯合会ハ衝突事件後籍民十二名ノ名ヲ掲ゲ必ズ之ヲ暗殺スペキ旨ヲ書セル伝單ヲ配付セルガ李塗水モ右十一名中ノ一人ナリ

之等ノ事実ニ徵スルモ支那警察ノ報告ハ信ズルニ足ラズ全ク学生等ノ行為ト考ヘラル

大臣、上海、廣東へ転電セリ

一〇〇五 十二月三日

在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

陳外交總長代理ノ我軍艦引揚方希望申出ニ付

第一五二八号

福州事件ニ關シ十二月二日陳外交總長代理ヨリ其後同地ニ於ケル地方官憲ノ手ニテ十分秩序ヲ保チ全ク無事ナル処日

本軍艦ノ在泊ハ却テ人心ヲ激セシムルノミナル上同總長代

一一一 福州ニ於テ日中両国人衝突一件 一〇〇六

一一〇六 十二月三日

在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

福州事件ノ真相ハ正式ニ共同調査ノ手続ニ依リ查明方竝右共同調査施行ノ旨公表方ニ關シ

中国政府ニ申入レ且打合スベキ様訓令ノ件

一一〇一

往電第一四八四号ニ閔シ福州事件ノ真相ニ就テハ彼我ノ報告一致シ居ラザルニ拘ハラズ支那側ニ於テハ自國ノ報道ヲ確実ノモノトシ之ニヨリテ解決ヲ遂ゲント企図シツツアル

一方例ニヨリ民間ニ於ケル「プロパガンダ」モ盛ニ行ハレツツアル状態ナレハ今後松岡王鴻年ノ調査ニシテ同時ニ行ハルニセヨ両者各別ノ調査ナルニ於テハ其内容一致スルコトアル場合ニモ之ヲ各自国政府ニ齎ラシ更ニ交渉ヲ進ム

ルニ於テハ又々彼我双方ノ主張ニ相違ヲ來シ其前途憂慮スヘキモノアルニ付本件ハ正式ニ共同調査ノ手続ニヨリテ遺憾ナク其真相ヲ查明シ両者ノ意見一致ニヨリテ認定セラレタル事実ハ之ヲ最終確定的ノモノトナシ之ニヨリ円満且ツ迅速ニ解決ヲ告クル様努ムルコト得策ト思考ス将又右ニ就テハ彼我共ニ尤モ公平ナル見地ヨリシテ事ノ真相ヲ明ラカニシ苟モ其非ヲ蔽ハントスルカ如キコトナカラシムヘキハ勿論ノ儀ニ付共同調査ヲ行フヘキ次第ハ本件ニ閔スル両國政府ノ誠意ヲ示スカ為ニモ此際之ヲ公表シ世人ノ疑惑ヲ一掃スルニ努ムルコト必要ノ儀ト認メラルニヨリ貴官ニ於テモ右ニ御同感ナルニ於テハ如上ノ趣旨支那政府へ申入レ

其同意ヲ得ルニ於テハ王鴻年ヘハ同政府ヨリ篤ト可然訓示テモ右ニ御同感ナルニ於テハ如上ノ趣旨支那政府へ申入レ掃スルニ努ムルコト必要ノ儀ト認メラルニヨリ貴官ニ於テモ右ニ御同感ナルニ於テハ如上ノ趣旨支那政府へ申入レ

ヲ与フル様取計ハラレタク尚支那側ト御打合ノ結果電報アリタシ

上海福州廣東ヘ転電アリタシ

一〇〇七 十二月三日 在福州森総領事代理ヨリ 内田外務大臣宛(電報)

福建督軍ハ学生聯合会ノ解散ヲ命ジタル件

第九七号 (十二月四日接受)

福建督軍ハ十二月一日学生聯合会ノ解散ヲ命シタリ其結果各学校学生ハ昨二日ヨリ同盟休校ヲ開始シ今後ノ排日方法ニ付窃ニ協議中ナリ尚李督軍排斥ノ伝单盛ニ配布セラレツツアリ

北京、上海、廣東ニ電報シ廈門ヘ郵送セリ

一〇〇八 十二月三日 在中国小幡公使ヨリ 内田外務大臣宛(電報)

松岡書記官ヲ福州事件調査委員ニ決定ノ旨及

共同調査方ニ付外交總長代理ニ申入清並西田

派遣ニ閔シ報告ノ件

第一五三四号 (十二月四日接受)

貴電第一四八四号ノ次第十二月三日本使外交總長代理ニ会

見ノ上申入レタル處外交部派遣ノ參事王鴻年、秘書沈觀辰及教育部秘書徐鴻寶ハ已ニ昨二日當地ヲ出發シ多分八日上海發ノ汽船ニテ福州ニ向フ予定ナルヲ以テ松岡書記官ノ一

行ト同時ニ福州ニ落合フコトハ出來ザルモ共同調査ヲ遂クルコトハ勿論異議ナキニ付右ノ次第直ニ福州官憲及王鴻年

一行ニ電訓スヘキ旨答ヘタリ就テハ當館ヨリハ西田通訳官ヲ派遣スルコトニ決定シ可成速ニ出發セシムル筈ニ付右ニ御承知ヲ請フ尚西田ハ一日モ速ニ福州ニ到著セシムルヲ便宜ト認ムルニ付必ズシモ松岡ト落合ヒ同行スルノ必要ナカルヘシト考フ右ニ對シテ何等御意見アラバ何分ノ儀至急御回示ヲ請フ序ナガラ松岡ノ予定ハ台灣經由ナリヤ又ハ上海經由ナリヤ其点御一報ヲ煩ハシ度シ

一〇〇九 十二月四日 内田外務大臣ヨリ 在中國小幡公使宛(電報)

西田通訳官ヲ福州ニ先発共同調査ニ着手セシ メラレタキ件

第一四九六号(至急)

貴電第一五三四号ニ閔シ貴見ノ通り西田通訳官ハ可成速ニ福州ヘ到着セシメ差当リ松岡ニ代リ共同調査ニ着手セシメ

一二 福州ニ於テ日中両国人衝突一件 一〇〇九 一〇一〇

一一〇四 一二 福州ニ於テ日中両国人衝突一件 一〇一 一〇二

ル模様ナシ又邦商台華公公司ハ奥地ニ向ケ燐寸三十箱ヲ半税
单ヲ附シ發送セルニ建陽県ニ於テ学生等ニ取押ヘラレ其内
二十箱ハ（代価四百元）十一月二十九日燒棄セラレタル旨
出張店員ヨリ電報アリタルガ本件ニ関シテ更ニ事情取調べ
ノ上交渉ヲ開始スル筈

一〇一 十二月六日 内田外務大臣ヨリ
在中国小幡公使宛（電報）

陳外交總長代理ノ我軍艦引揚希望申出ニ対ス

ル應酬振ニ付回訓ノ件

第一五〇〇号

貴電第一五二八号ニ閔シ貴見一応御尤モナルモ今日ノ處軍
艦引揚ノ上ハ必ス全然平穏ニ復スヘントモ予断シ難ク然ル
ニ一旦支那側ノ要請ヲ容レ引揚ヲ決行シタル後排日運動再
燃シ勢ノ趨ク処竟ニ地方ノ治安秩序ヲ紊シ在留邦人ニシテ
迫害ヲ被ルノ虞アルニ於テハ又々軍艦派遣ノ詮議ニ出デザ
ルヘカラザル場合無キヲ難保斯クテハ本邦輿論ノ反響如何
ヲモ考慮セザルヘカラザルノミナラズ再度軍艦派遣ノ結果
ハ恰モ支那官憲ヲ相手トスルカ如キ形トナリ却テ事態ヲ紛
糾セシムルノ虞アルヘク殊ニ過日ノ争鬭事件ニ関スル彼此

中華民国八年十二月六日

廖恩焘

政務局長 芳沢謙吉貴下
(附屬書)

外交部發在本邦中國公使館宛電報写

外交部來電写

特派員ノ電報ニ拵レハ二十三夜一時台灣人李塗水ハ鴨母洲
ニ於テ陪船ニ侵入シ船員ハ其レヲ賊ト疑ヒ殴打ノ後復タ船
修繕用ノ桐油烟ヲ身体ニ塗抹シ夜明ケニ警察ニ引渡シ嗣テ
日本領事ヨリ人ヲ派シテ受取レリ夫ヨリ員ヲ派シ往テ驗ス
ルニ甚夕見苦シキ有様ナルモ傷ハ重カラサル如ク船員三名
ハ已ニ拘留セリ此事ハ決シテ学生ノ指使ニ非ズ且ツ前案ト
關係ナシ云々御承知アリタシ 外交部

一〇一 十二月七日 在福州森總領事代理ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

福州日中人衝突ノ際ノ情況ニ閔シ小幡公使ニ

詳細回電シタル件

（十二月九日接受）

本官發在文公使宛電報第九〇号十二月二日

一二 福州ニ於テ日中両国人衝突一件 一〇二

一一〇五

ノ報告一致セザル為メ共同調査ノコトトナリタル次第付
軍艦ノ引揚ハ右共同調査ノ結果ヲ俟ツコトスルモ未タ
シトセザルノミナラズ右引揚問題ハ共同調査ノ懸引ニ利用
シ得ラルヘキ場合モ可有之ト思料セラルルニ就テハ右ノ御
令ヲ以テ陳總長代理ニ対シ往電第一四八二号末段本大臣ヨ
リ在邦支那代理公使ニ対スル公文ノ趣旨ヲモ適宜參酌ノ
上可然説示シ置カレタシ

上海福州廣東へ転電シ天津へ郵報アリタシ

一〇二 十二月六日 在本邦中國公使館書記官ヨリ
芳沢政務局長宛

籍民李塗水中国人ニ殴打セラレタル件ニ付外

交部ヨリノ電報写送付ノ件

拝啓陳者前日拝晤之節御申聞之福州日本領事來電ニ台灣人
ガ學生ノ為メ殴打負傷セシ件ハ茲ニ敝国外交部來電ニ接ス
ルニ已ニ取調ヲ了シ特派員ノ返電ニ拵レハ其言フ所ノ情形
ハ全ク領事ノ報告ト符合セズ依テ外交部ノ電報ヲ写取り送
進致候何卒此案件ヲモ加ヘ併セテ御参考ニ供サレンコトヲ
切望致候電報写相添得貴意候 敬具

一、支那側カ此ノ衝突ニ參加シタル日本人ヲ百余名ト称ス
ルハ全然事實ニ非ス日本側内地人台灣人ヲ合シテ漸ク十
數名ニ過キス此ノ外台灣人ト知リ合ナル泉州人十數名臨
時ニ參加シ日本人側ヲ援助セリ泉州人ハ平素台灣人ト深
ク交際ヲ結ヒ居ル者多ク從來福州人台灣人間ノ喧嘩ニ泉
州人ノ台灣人ニ加担シタル實例多シ而シテ此等二十四五
名ノ者カ確然一団トナリテ衝突セルニハ非スシテ多數支
那弥次馬連又ハ見物人ノ中ニ紛レ込ミ学生ノ群ニ向ヒタ
ルモノナリ尚衝突ノ起レル場所ハ町幅約二間人通り劇シ
ク常ニ雜踏ヲ極メ居ル巷ナルカ上附近ニ支那芸妓屋又ハ
女郎屋等ノ魔窟及ヒ多數ノ茶店アリ喧嘩ニ加ハリタル泉
州人ハ何レモ無賴漢ニシテ常ニ出没徘徊シ居ルモノナレ
ハ喧嘩ヲ聞キ込ミ期セシテ現場ニ駆付ケ台灣人ヲ援助
シテ喧嘩ヲ拡大セシムルニ至リタルモノト認メラル又本
邦人ニシテ「ピストル」ヲ所持シタルハ二三名ニシテ泉州
人ニモ四五名ハ携帶シ居リタル者アルカ如シ又学生側多
数ハ棍棒竹竿ヲ携帶セルカ「ピストル」ヲ所持シタル者少
クトモ十數名アリタリト（青年会内ニ「ピストル」數十

挺ノ備付アリト聞ク）本邦側カ学生ヲ青年会ニ追込ミタ

ル際同会館ノ窓ヨリ本邦人側ニ向ヒ發砲シタル趣ナリ猶

此頃聞キ込ミタル處ニ依レハ学生側ハ衝突ノ際ニ名ノ台

湾人ヲ捕ヘ青年会内ニ連レ込ミ乱打シテ半死半生ノ状態

ニ至ラシメ翌日支那警察署ニ引渡シタルカ同署ニテ一応

取調ヘタル處右両名共泉州人ナリシコトヲ發見セル趣ナ

ルカ彼等ハ学生ヲ援助シ台灣人ニ当リ居ル内学生等ニ取

リ押ヘラレタル旨（此ノ陳述ハ事実ニアラス）申立テタ

リトノコトナリ猶支那側ニテハ本邦側ニ多数ノ泉州人ア

リタリトノ見込ニテ嚴重検挙ヲ行フ模様見ヘタル為メ喧

嘩ニ加ハリタル泉州人ハ大抵三都泉州等へ逃走シ最早福

州ニハ滯在セスト云フ

二、支那武装巡警及ヒ軍隊カ学生等ニ対シ何等ノ措置ニ出
テスシテ多数ノ群衆中ニ若シ日本人又ハ台灣人ト覺シキ
モノヲ発見シタルトキハ直チニ銃口ヲ擬シ發砲セムトス
ルカ如キ態度ニ出テタルタメ本邦人等ニシテ興奮ノ余リ
巡警兵士ニ抵抗シタルモノアリタルヤニ認メラル又巡警
兵士等ガ本邦人ヲ目掛ケテ發砲シタルモノ歎ナカラザリ
シカ日本人側ニ銃弾ニ当リタルモノナカリシヨリ見レハ

右ハ空砲ナリシヤニ考ヘラル

三、喧嘩ノアリタル当日ヨリ組合カ依頼ニ応シテ本邦人貨物ノ市中運搬ニ監視人ヲ附スルコトヲ実行スヘク尚当日

ハ最初ノ試ナルヲ以テ多数ノ組合員集ラントスル模様アル旨同日正午頃聞キ込ミタルニ付本官ハ何等行違ヲ惹起

セムコトヲ惧レ組合代表者ニ対シ監視人ヲ付スルコトヲ見合スヘキコトヲ命シ同時ニ江口署長嚴重取締方ヲ命シ

タリ依テ同署長ハ外山、大森、毛井、片山、光武ノ五巡

査ヲ率キ（日曜日ニ巡査外出中ノ者多ク呼集ムルニ手間取りタリ）三時半頃組合カ事務所ニ充テ居リタル台灣人

宅ニ様子ヲ問シタルニ臨時ニ集マリタル者ハ全部退散セルモ貨物ニ監視人ヲ附スルコトニ付テハ既三天田洋行

ニ約束済ナル故中止セス尤モ何等間違ヲ惹起スル様ノコトナキ様特別ノ注意ヲ払ヒ居ル旨組合代表者ニ於テ申立

タルニ付署長ハ外山及毛井両巡査ヲ城内方面ニ派シ取締ヲ加ヘシムルト同時ニ大森、片山、光武ヲ率キ南台方面

ヲ視察セルニ何等異状ヲ認メス暫クシテ外山、毛井モ城内ヨリ帰リ別段変リナキ旨ノ報告ヲ得タルニ由リ一同引

揚ケ帰館セントスル際第一回ノ衝突起リタルヲ以テ署長署ニ向ヒタル處途中無数ノ学生及巡警等ニ包囲セラレ順記料理店ニ避難セル顛末ハ前電報告ノ通ナリ即チ當館警察官等ハ邦人取締ノ為現場ニ到リ支那側ヨリ喧嘩ノ仲間ト誤認セラレスル迫害ヲ受ケタルモノナリ尚当日古沢書記生ハ友人ノ來訪ヲ受ケ終日官舎ニ引籠リ居タリ又本官ハ正午頃当日ノ計画ヲ耳ニシ前日ノ如キ処置ヲ為シ其ノ復命ヲ俟タンカ為終日官舎ニ引籠レリ尚衝突後ニ於テハ支那側ニ拘引セラレタル福田、三木、沖津ノ三名及順記洋食店ニ包囲セラレ居ル署長一行ノ引取り及救助方ニ関シ古沢ヲ交渉署ニ往復セシメ交渉ノ末翌朝三時頃漸ク全部ヲ安全ニ當館ニ引取リタリ

四、天田洋行ノ貨物ヲ取押ヘラレタル地点ハ万寿橋ノ北端ニシテ監視人カ学生ヲ取押ヘタル隙ニ乗シ苦力等ハ該貨物ヲ二三丁離レタル台灣人商店金徳發（キンドウハウツ）号ニ担キ込ミ強奪破壊ヲ免カレタリ

五、衝突ノ際本邦側ニ於テ武装巡警ヨリ銃一挺ヲ奪ヒタル事実ナルカ如シ江口署長ヲシテ再三心当リヲ訊問セシメタルモ未夕判明スルニ至ラス目下内探中尚右ノ外泉州人ニシテ学生ノ群ニ加ハリ「ピストル」ヲ发放シ学生等

及門脇留学生並通訳トシテ台灣人一名ヲ引連レ支那警察署

一一一 福州ニ於テ日中両国人衝突一件 一〇四

一一〇八

ヲ指揮シ居リタル米国人ニ飛ヒ蒐リ右「ピストル」ヲ奪

取リタル者アル趣ナルカ同人ハ官頭（馬尾附近）ニ逃ケ

去レリトノコトナリ

六、支那警察ニ取押ヘラレタル本邦人ハ福田、三木、沖津

ノ三名ニシテ何レモ武器ヲ携帶シ居リシカ為喧嘩ノ相手

ト誤認セラレ支那官憲ヨリ迫害ヲ受ケタル者ナルカ福田

ニ付テハ前記ノ如ク（脱）ノ上ニ支那服ヲ纏ヒ「ピスト

ル」ヲ「ポケット」内ニ收メ三木ハ出刃庖丁ヲ懷中シ衝

突ノ終了シタル後九時頃附近ヲ視察中学生及巡警ニ取巻

カレ身体検査ヲ受ケタル処兎器現ハレタル為劇シク殴打

セラレ負傷ヲ受け支那警察ニ拘留セラレタルモノナリ

七、学生黄玉蒼ナル者衝突ニ於テ本邦人側ニ取押ヘラレ台

票一千元ヲ奪ハレタル旨当地交渉員ヨリモ申越シタルニ

付取調ヘタルモ事実ノ有無知ルコト能ハス

北京漢口上海廣東ヘ電報セリ

一〇一四 十二月十日 在琿春秋洲副領事ヨリ

琿春ノ一中國人ガ福州事件ニ關シ中央政府ヨ

リ地方官憲ニ電報シタル対日要求ニ付講演シ

七、右ニ対シ日本政府ニテ応セサル場合ハ宣戰ヲ辭セサル件

本信乍発送先 在支公使在間島總領事 以上

一〇一五 十二月十二日 内田外務大臣宛 在本邦中國臨時代理公使宛

福州事件ニ關シ回答ノ件

政一送第五三号

以書翰致啓上候陳者貴歴民国八年十二月三日附第七一號貴
翰ヲ以テ福州事件ニ關シ重ネテ御照会ノ趣聞悉致シ候本件
ハ御承知ノ通り既ニ貴我両國政府ヨリ委員ヲ現場ニ派遣シ
衝突ノ事実ニ關シ共同調査ヲ行フコトトナリ近ク实行ノ運
ト相成居候間右調査ノ結果ニ基キ商議決定致候方適當ト認
メ候ニ付右様御承知相成度御送附ノ覚書ハ御表示ノ通リ本
大臣ノ参考迄ニ受領致置候此段貴答旁々本大臣ハ茲ニ重不
テ貴下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

一〇一六 十二月十三日 内田外務大臣ヨリ
在中国小幡公使宛（電報）

排日運動取締ニ關スル覺書外交總長代理ニ交

付方並適宜説明方訓令ノ件

一二 福州ニ於テ日中両国人衝突一件 一〇一五 一〇一六

タル件

機密公信第一六一號

（十一月二十六日接受）

大正八年十二月十日

在琿春

副領事 秋洲郁三郎（印）

外務大臣子爵 内田康哉殿

本月七日（日曜日）当地東門内通俗圖書館内ニ於テ支那人郭海春ナル者當地支那人有志並ニ学生等數十名ヲ集メ福州事件ニ對シ北京中央政府ヨリ各地方官衙ニ左記七ヶ条ノ電報通牒アリタレハ各自充分ナル注意ヲ要スヘシトナシ激越ナル言辞ヲ以テ講演シタル由聞込候余何等参考ノ為此段及報告候 敬具

一、在福州日本領事免職ノ件

二、今後福州領事ノ任免ハ支那政府ノ承認ヲ受クヘキコト

三、治外法權ヲ撤廃スヘキコト

四、福州衝突事件ノ關係者ヲ処罰スヘキ件

五、福州事件ニ關シ日本公使ハ支那政府ニ謝罪スヘキ件

六、日本陸戰隊ヲ撤廃セシムヘキ件

第一五二〇号

福州ニ於ケル日支文人爭鬭事件ノ突発ニ伴ヒ一時稍々鎮静ノ状ヲ呈セル排日的運動俄然再燃シ爾來逐日各地ニ伝播シツツアルノミナラス其手段方法亦漸次過激ニ趨クノ情勢アリ現ニ十二月二日上海ニ於ケル学生團ノ示威運動ハ支那商人ニ對シ排貨誓約ヲ強要スルノ外引続キ日貨搜索強奪燒棄等ノ暴行ヲ敢テスルニ至リ次テ去ル七日貴地ニ於ケル国民大會トナリ更ニ超エテ八日南京ニ於テモ學生團ノ暴行演出セラレ独リ日貨ノミナラス日貨類似ノ外國貨物ニシテ掠奪燒棄ノ厄ニ罹レルモノ約數万円ノ鉅額ニ上リ特ニ本月五日北京ニ於テ日本小學校生徒通學ノ途上支那學生等ノ為メ頭部背部面部等ヲ打タレ又ハ其他ノ惡戲ニ会ヒタル者十數名ノ多キニ及ヒタル由學生ノ暴狀モ此ニ至テ極レリト謂フヘク其他各地ヨリノ報道モ亦頻々トシテ不穩ノ情勢ヲ伝ヘサルハ無ク此勢ヲ以テセハ一般排日ノ氣勢ハ殆ト其底止スル所ヲ知ラサルニ至ルヘシ右學生團ノ支那商人ニ対スル排貨誓約ノ強要日貨ノ搜索強奪燒棄等ハ我商取引ヲ阻礙シ我在留民ノ居住及營業ヲ迫害スルモノニシテ小學校生徒ノ如キ幼年兒童ニ対スル暴行ニ至テハ人道上許容シ難キモノナリ如キ幼

一一一 福州ニ於テ日中両国人衝突一件 一〇一七

一一〇

此今ヤ帝国臣民ハ條約上保障サレタル諸般ノ権利ヲ侵害サレツツアル次第ニテ而モ其間ニ於ケル支那官憲ノ態度往々誠実ヲ欠キ甚シキハ学生団其他不逞ノ徒ノ為スカ儘ニ放任シツツアルカ如キ状態ニシテ彼等ヲシテ暴行ヲ擅ニセシムルニ至リタルハ一ハ官憲ノ取締厳密徹底ヲ欠キタルニ起因スト謂ハサルヘカラス尤モ一二地方ニ在テハ當該官憲ニ於テ適切厳密ナル取締方法ヲ講シツツアル為メ幸ニ事体尚靜穏ナルハ帝国政府ノ認識スル所ナリト雖モ是等ハ單ニ一局部ニ過キス從テ万ニ将来排日運動益々熾烈ノ度ヲ加ヘ各種暴行事件続発スルニ於テハ支那当局ノ責任益々重大ナルヘキノミナラス從来在留邦人ニ於テ陰忍自重以テ冷靜ナル態度ヲ持続シ來レルモ今後事態ノ發展如何ニ拋テハ彼等ノ忍耐力モ遂ニ消尽シテ何時彼我ノ間ニ不測ノ事変勃発スルコト無キヲ保セス元來今春日貨排斥運動勃發以來帝国政府ハ貴官又ハ當該領事ヲ經テ中央政府又ハ地方官憲ニ対シ屢次切実ナル警告ヲ与ヘ排貨運動ノ取締方ヲ請求シ来リタルニ不拘多數支那官憲ハ未タ有効ナル取締ノ措置ヲ執ルニ至ラス遂ニ福州事件ノ突発ヲ見ルニ至リタル次第ナルカ同事件ニ付テハ帝国政府ハ極メテ公正ナル態度ヲ取り現ニ立会審

第一〇二号
西田通訳官ハ十二月十二日当地着督軍ハ特ニ小蒸汽ヲ仕立て出迎員二名ヲ馬尾ニ派セリ尚督軍ヨリ準備セル英商「グランドホテル」（王鴻年一行モ宿泊シ居レリ）ニ宿泊アリ度キ旨申出タル處之ヲ拒絶スルモ面白カラサルニ付同官ハ本十三日ヨリ先方ノ好意ヲ受クルコトセリ又王鴻年、沈秘書ハ昨日西田ヲ當館ニ來訪シ事件調査ハ未タ着手シ居ラナルモ成ル可ク速ニ協同調査ヲ遂ケ二十二日頃当地出発帰北致シ度キ意ヲ洩シタルニ付準備出来次第協同調査ニ着手ノ筈

在支公使上海広東ヘ電報セリ

一一〇一八 十二月十五日 在バタヴィア松本總領事代理宛
(電報)
福州事件ノ真相及特ニ軍艦派遣ノ事情ニ付貴
地方報道筋ニ適宜説明方訓令ノ件

第二二二号

貴電第四一号ニ関シ

福州ニ於テハ最近ニ至リ排日氣勢再燃シ本邦人所屬貨物ニ

一二一 福州ニ於テ日中両国人衝突一件 一〇一八 一〇一九

査員ヲ特派シ実地ニ就キ支那側委員ト会同調査ノ上其結果

ニ依リ円満ナル解決ヲ期セムトスル次第ナル處支那側ニ在テハ所在学生ノ暴行地方議会ノ乱暴ナル決議ヲ見ルニ至リ

親交国トシテノ國交何處ニ在ルヤヲ知ルニ苦マシムル狀態ナルハ帝国政府ノ最モ遺憾トスル所ナリ事情右ノ通リニ付

帝国政府ニ於テハ支那政府ニ於テ速ニ排日ノ目的ニ出ツル集会檄文ノ撒布等ヲ禁止シ新聞記事ヲ取締リ支那商店又ハ船車等ニ在ル日本貨物ト雖モ之ヲ強奪破壊シ又ハ帝国臣民ノ身体ニ対シ迫害ヲ加フル者ハ嚴罰ニ処スル等ノ措置ニ出

テ以テ國交ヲ常態ニ復セんコトヲ希望スル次第ニ付貴官ハ至急外交總長代理ニ面会ノ上帝國政府ノ訓令ニ拠ル趣ヲ以テ以上ノ趣旨ヲ覚書トシテ交付シ適宜説明ヲ加ヘラレ結果

電報アリタシ本電奉天並ニ満洲ヲ除ク在支那各領事ヘ転電アリタシ

(欄外註記)

「大正八年十二月十六日ノ閣議ニ報告済」

一一〇一七 十二月十三日 在福州森總領事代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

西田通訳官福州到着ノ件

シテ運搬ノ途中支那学生団等ノ組織スル日貨調査隊ノ為メ取押ヘラレ次テ劫奪燒棄ノ厄ニ遭ヒタルモノ尠カラス然ルニ支那官憲ノ取締ハ帝国領事屢次ノ警告ニモ拘ラス常ニ徹底ヲ欠キ為メニ学生等ノ暴行ヲ助長セシメタルノ觀アリ遂ニ十一月十六日日支人間ニ争闘事件ヲ惹起スルニ至レル次第ナリ然ルニ本件ニ閑スル彼我ノ報告一致セサルモノアルニ付帝國政府ハ努メテ公正且円満ナル解決ヲ速進セム力為メ兩國ヨリ委員ヲ福州ニ簡派シテ共同調査ニ当ラシムルコトトナレリ從テ事件ノ真相ハ兩國委員審定ノ結果ニ依リ初メテ闡明セラルヘシ將又帝國軍艦派遣ノ挙ニ至テハ事態已ムナク自衛ノ途ヲ講スルノ外ナキニ出テタル次第ニシテ機ニ臨ミ帝國臣氏ノ生命財産ノ保護ニ任スルノ外支那官民ニ對シ何等他意アルニ非ス從テ其必要ヲ認メサル時機ニ至ラハ直ニ引揚ヲ命スヘキハ勿論ナリ就テハ貴地方ニ於ケル無稽ノ報道ニ対シ貴官ハ前記ノ趣旨ニ依リ適宜説明ヲ与ヘラレタシ

一一〇一九 十二月十六日 在福州森總領事代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

福州事件共同調査ニ關シ西田通訳官王參事ニ

一一一

第一回会見内容報告ノ件

第一〇二号

本官發在支公使宛第九二号
西田通訳官ヨリ左ノ通

第一号(調査委員番号)

十二月十二日当地着後森總領事代理ヨリ今回事件ノ顛末ヲ聴キ十三日同官ト共ニ李督軍其他重ナル支那官憲及リユウソウイ(電氣公司總理)ヲ往訪シ十五日王參事並陳、徐両秘書ト正式ニ第一回ノ会見ヲナシタル処王ハ(=)共同調査ハ雙方委員限リトシ当地日支官憲ヲ全然関与セシメザルコト(=)共同調査場ヲ旧独逸領事館トスルコト(=)共同調査ノ結果ハ雙方ニ於テ署名シ本国政府ニ報告スル迄委員以外絶対秘密トスルコト(=)調査ノ方法ハ雙方ヨリ事件ノ顛末ヲ述べ証拠ヲ提示シ先ツ実地調査ヲ行ヒ両国關係者ヲ取調ブルコトニ致度キ旨述ベタリ本官ハ予メ森代理トモ相談シ置キタル次第ヲ参酌シ(=)、(=)ニ対シテハ異議ナシ(=)雙方署名ニハ無論異議ナキモ調査ノ結果ヲ本国政府ニ報告スル迄秘密ニ附スルハ本官ニ於テハ異議ナキモ松岡書記官ノ着福ノ上回答スペク本件調査ハ公平且徹底的ニ行ヒ本件解決ト同時ニ本

省長二面談ノ件

第一七二号

(十二月十八日接受)

十二月十七日午前本官ハ武昌ニ到リ省長何佩鎔ニ会見シテ

昨日ノ国民大会ノ件ニ付詰問スル所アリシニ省長ノ答フル

所ニ依レハ右ハ突然ニ開会セラレタルモノニシテ武昌官憲

ハ全ク其ノ事ヲ予知セサリシモ同日右ニ閥スル報告ニ接ス

ルヤ直ニ禁止ノ命令ヲ発シタルニ拘ハラス終ニ開会シタル

ハ甚夕遺憾ノ次第ニテ本官ニ対シテハ何トモ申訳ナシ右ニ

付テハ昨日本官ヨリノ書面ニモ接シタルヲ以テ昨夜王督軍

トモ協議ノ上已ニ戒厳令ヲ布キ今後福州事件ニ付不穩ノ行

動ヲ為シ且排日ヲ鼓吹スル者アラハ容赦ナク之ヲ逮捕シテ

嚴重ナル処分ヲ為シ罪ノ重キ者ハ死刑ニ處スル考ナルニ付

断シテ当地方ノ匪徒ヲシテ再ヒ排日ノ風潮ヲ起ナシムルコトナキハ督軍ト共ニ誓ソテ保證スル所ナレハ此儀諒承アリ

タシトテ省長ハ堅ク決心ト責任トヲ以テ以上ノ事実ヲ本官

ニ言明シタリ

在支公使ヘ転電セリ

福州事件ニ閥スル外交部提出ノ照会文ニ対ス

ル回答文送付ノ件

附属書 十二月十六日附小幡公使ヨリ陳外交總長代理宛

公文第二六〇号

右回答文

機密第五一〇号

(十一月二十四日接受)

在支那

特命全權公使 小幡酉吉(印)

外務大臣子爵 内田康哉殿

福州ニ於ケル日支人間ノ争鬭事件ニ閥スル件

本件ニ閥シテハ本月二日附機密第四八六号拙信ヲ以テ及報告置候處十一月廿九日附機密第四七八号拙信ヲ以テ御送付ニ及ヒ置キタル十一月廿七日陳外交總長代理ヨリノ照会文ニ対シ更ニ別紙写ノ通り回答旁申送置候間御查閱相成度右別紙写相添此段申進候也

本信写送付先 福州、上海、廣東、天津

(附屬書)

十二月十六日附小幡公使ヨリ陳外交總長代理宛公文第二六〇号
福州事件ニ閥シ回答ノ件一一一 十二月十七日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛

一一二 福州ニ於テ日中両国人衝突一件 一〇二一

一一三

件ノ真相ヲ世ニ知ラシメ誤解ヲ一掃スルノ要アルベキモ右公表ノ程度時期ニ就テハ両国政府ノ意見ニ依ルコト宜シ力ラン四ニ就テハ雙方へ事件ノ原因及本件衝突事實ニ付両国關係者ヲ取調べノ手数ヲ省ク為実地調査ハ松岡書記官着ノ解消及今後ノ再発ヲ防ガソ為台湾籍民取締方法ヲ講ズル必要アルベキ口吻ヲ漏シタルニ付本官ヨリハ籍民取締ニ就テハ当然領事ニ於テ嚴重取締リ日支間ニ事件發生セバ領事ト支那地方官憲ニ於テ適當处置スベキハ勿論ナルモ學生団排日行動殊ニ日貨調査隊ノ如キハ第一ニ禁止ノ要アル旨ヲリヤト問ヒタル處徐秘書ハ右同盟休校ハ学生団機関紙週刊新聞ニ李督軍反対ノ記事ヲ封禁シタル為之ニ憤慨シ内政上ノ党派關係ヨリ休校帰郷シ居ル次第ニシテ日支人衝突事件ノ為ニアラズト申述ベタリ

第二六〇号

大正八年十二月十六日

小幡特命全權公使

陳外交總長代理宛

以書翰致啓覆候陳者福州ニ於ケル日支人間衝突事件ニ関シ十一月二十七日附貴照会ヲ以テ御申越ノ趣致聞悉候查スルニ右貴翰ニハ中国学生カ日本商品ヲ抵制スルコトハ本国政府モ異常ニ之ヲ重視曾テ屢々地方官ニ対シ嚴ニ取締ヲ加ヘ以テ範囲ヲ軼出シタル挙動ノ發生ヲ免カレシムヘキ旨分電シアリト有之右貴国政府ニ於テ貴国内各地ニ於ケル排貨風潮ヲ重視セラレ之カ嚴重取締方ニソキ夫々命令ヲ發セラレタル儀ハ本使ニ於テモ疾ク已ニ了知シ居ル所ナルモ現ニ貴国各地方官憲力果シテ善ク貴國中央政府ノ意ヲ体シ単ニ形式ノミニ止マラス切実其取締ヲ實行シタルニ於テハ各地ニ在ル帝国商民ト貴國商人等トノ間ニ於ケル正当ナル營業取引ニ対スル学生団ノ不法ナル妨害干渉ハ十分之ヲ避ケ得テ幾多紛争ノ惹生ヲ免カレ得タルヘキハ本使ノ確信スル所ニ有之候然ルニ翻ツテ各地ニ於ケル實際ノ事態ニ就キ之ヲ觀ルニ學生団其他ノ団体等ニ於テハ其排貨排日運動ニ際シ或

サル筈ナク又之ヲ認メサルヲ得サルヘキ所ニ有之候而シテ上述ノ如キ事態継続ノ極遂ニ同地在留帝國商民等ニ於テ正当生業保衛上自ラ組合ヲ設ケテ貨物ノ搬出ニ際シ学生等ノ不法干涉ヲ避クルカ為メ監視保護人ヲ付スルノ外ナキニ至リタルハ誠ニ已ムヲ得サルニ出テタルモノニシテ今回來文中福州学生ニ於テ縱シ日本商品排斥ノ挙アルモ日本人民ニ在ソテ既ニ領事ニ陳明シ地方官ノ加意保護ヲ求メアル以上自カラ応サニ官庁ノ法ヲ設ケテ取締ルヲ待ツヘキ儀ナルニ竟ニ團体ヲ組織シ槍械ヲ備備セルカ如キ不正当ノ行為ニ出テタルハ日本商民ニ於テ鬱ヲ尋ヌルノ意アリタルヲ想見スヘシトノ意ヲ述ヘラレタルハ誠ニ上述ノ通り數閱月ノ永キニ亘リ帝國領事屢次ノ抗議モ其効ナク地方官憲ノ取締亦其实ニ伴ナハス学生等ニ於テ官庁ノ布告禁令ニ対シ一顧ヲ与ヘサルニ均シカリシ事態一切ヲ閑却セラレタルモノニ有之候仮リ二十一月十六日ニ於テ該青年会学生等カ依然トシテ日商ノ貨物ヲ取押フルコトナカリシナランニハ本件ノ如キ衝突事件ノ發生ヲ免カルルヲ得タルヘキハ蓋シ想見スルニ難カラス候又学生等ニ於テ数月以来日商ノ店舗ニ番人ヲ配置シテ其営業ヲ阻止シ或ハ其貨物ヲ路上ニ要シテ横奪

ハ日本人ノ商店ニ見張人ヲ附シテ取引者ノ出入ヲ禁遏シ或フル等法規ヲ逸シタル有ラユル不法行為ヲ敢行シ而カモ現場ニ於テ何人モ能ク之ヲ制遏シ得ル者ナク地方官憲ノ布告命令ノ如キハ学生等ニ於テ全ク措テ之ヲ顧ミサリシハ衆目ノ共ニ認メタル所ニ有之即チ福州ノ如キモ既ニ數個月ノ久シキニ亘リ此等不法不穩ノ事態続出シ来リタル次第ニシテ其間同地駐在帝國領事ヨリ之ニ対シ切実取締方ヲ求メタルコト一再ニ止マラス今試ニ之ヲ例示スレハ即チ大正八年五月二十四日福建督軍兼省長李厚基氏ニ照会シ切実注意ヲ求メタルヲ初メトシ同督軍省長及外交特派員ヘ照会ニ及ヒタルコト五月二十八日同二十九日六月十六日同十七日同十八日同二十四日同三十日同七月十一日同十二日同十四日同二十三日同二十六日八月八日十月七日十一月六日十一月十二日同十三日等前既ニ十八回ニ及七月ヲ閲スルコト六ヶ月ノ永キニ亘リタルニ拘ハラス實際ニ於テ何等其効ナカリシノ事実ハ恐ラク福建督軍ヲ初メ貴國官憲ニ於テモ之ヲ知ラ

突ノ當時帝国領事館警察官ニ於テ暴行ヲ帮助シタル嫌疑ア
ル旨來文中ニ附記シアル處是レ故サラニ日本警察長ヲ誣フ
ルノ甚タシキモノニシテ在福州帝国領事館警察署長ニ於テ
ハ籍民等ヲ保護シ若クハ取締ランカ為メ署員數名及台灣總
督府派遣留学生一名並ニ通訳一名ヲ同行シ現場ニ馳セ付ケ
タルニ拘ハラス学生等ノ包囲ヲ受ケ極メテ危險ナル状態ニ
陥リ到底本国人民ニ対スル保護取締ヲ執行スル能ハサリシ
ヲ以テ不得已難ヲ順記料理店ニ避ケ同店主等ノ好意ニ依
リ幸ニ生命ヲ全ウシ得タル如キ情況ナリシハ明確ナル事實
ニ有之候然ルニ福州貴国警察力事後ニ及ヒ同店内ノ器物一
切ヲ破壊シ損害ヲ蒙ムラシメタルハ右警察署長等ノ一行ナ
リシ旨誣告スルコトヲ順記主人ニ強ヒタリト云フニ至リテ
ハ誠ニ其ノ何ノ心ニ出テタルヤヲ解シ難キモノニ有之今回
來文中亦竟ニ洋三千元ヲ掲ケテ日本人ノ所為ニ基ク順記ノ
損害ナリト做シ居ラルハ福州貴国官憲力同地警察ノ順記
主人ニ対スル何人カノ事後ニ於ケル不法ナル指嗾ヲ其儘容
認シタル結果ナリト認ムルノ外ナク誠ニ遺憾ノ次第ニ有之
候尚学生黃玉蒼ノ台票一千元紛失云々ニ至テハ若シ其事實
アリトスルモ斯ノ如キ争鬭混亂ノ際果シテ何人ノ拾ヒ去リ

ヲ得サリシナルヘク之ヲ要スルニ來文中ニ於テ在福州帝国
領事力恰カモ事前予メ今回勃發セル日支人間ノ争鬭ヲ期望
シ若クハ之ヲ待チ受ケタルカ如キ意ヲ寓セラレタル次第ナ

ルニ於テハ是レ本使ノ断シテ承認シ難キ所ニ有之尚本件ニ
關シ來文中福建督軍來電中ノ言トシテ今回ノ事件ハ確カニ

日本人力故ナク兎行シタルモノニ係リ並ニ何種ノ原因ナシ
云々ト有之候処果シテ福建督軍ニ於テ斯ル意思ヲ有シ居ル
モノトスレハ是レ明カニ其管下地方ニ於ケル數閱月ニ亘レ
ル学生團等ノ有ラユル不法行動ヲ容認シ又之カ為メ條約國
民タル帝國商民力貴國通商港ノ一タル福州ニ於テ條約ニ依
テ保障セラレタル營業其他正当業務ニ從事スルコトノ安全
及自由ニ対シ頻リニ圧迫妨害ヲ受ケツツアリタルノ事實等
ヲ全ク雲烟過眼ト同一ニ付シ居タルモノト謂ハサルヲ得ス

斯ノ如キハ貴國地方官憲殊ニ督軍ノ如キ重職ニ在ル者ノ言

トシテ本使ノ断シテ首肯シ難キ所ニ有之候此際本使ニ於テ
ハ貴総長代理カ善ク本件前後ノ実情雙面ノ関係等ニ就キ公
正ノ見ヲ失セラレサランコト希望ニ不堪候尚本件衝突事件

ノ細節等ニ關シテハ目下進行中ニ在ル双方派遣員共同調査
ノ結果ニ依リ更ニ判明シ得ヘク其上両國間ニ於テ本件ノ解

決ヲ期スルコト致度茲ニ別紙負傷者症狀ニ關スル摘錄相
添此段回答旁重ホテ得貴意候 敬具

(別 紙)

日本側

一、福田源藏、北兵ヨリ銃身ヲ以テ激シク全身ヲ乱打セラ
レ尚胸部肺部ニ数ヶ所ノ打撲傷アリ疼痛ヲ覺エ且後頭部ニ長サ三「センチ
メートル」深サ骨膜ニ及スルアリ約二週間ノ治療
治療三週ヲ要スル見込

二、福州時報社主興津与四郎

北兵ノ為メ銃身ニテ激シク乱打セラレ肺部及両腕ニ各數
ヶ所ノ打撲傷アリ疼痛ヲ覺エ且後頭部ニ長サ三「センチ
メートル」深サ骨膜ニ及スルアリ約二週間ノ治療
治療三週ヲ要ス

三、宿屋主人三太小四郎

北兵ノ為メ銃身ニテ胸部肺部ヲ乱打セラレ打撲傷數ヶ所
アリ激痛ヲ覺エ呼吸困難ナリ治療一週間ニテ全治セリ
棒ニテ後頭部ニ打撲傷ヲ受ク治療一週間ニテ全治セリ

五、籍民一名 署長ノ通訊トシテ隨行中学生ノ群ヨリ投石セラレ後頭部ニ長サ三「センチメートル」深サ骨ニ達スル傷ヲ受ク治療二週間ノ見込

支那側

一、兵士一名 左乳下ニ長三「センチメートル」線状ノ負傷一ヶ所右脇部下ニ二「センチメートル」ノ負傷一ヶ所一「センチメートル」ノ負傷一ヶ所

右ハ総テ鉄砲ニ依ル傷ナリヤ否ヤ不明ナルカ生命危険ノ虞ナシ全治ニ二週間ヲ要スル見込

二、海軍学校学生一名 右腿部ニ長サ三「センチメートル」幅二「センチメートル」ノ負傷一ヶ所アリ

右ハ銃丸ノ傷ト認ム生命ノ危険ナク一ヶ月ニテ全治ノ見込

三、小学教員一名 左後頭部ニ銃創突キ傷二アリ一ハ長サ四「センチメートル」幅二「センチメートル」ニテ確力ニ支那兵ヨリ銃剣ニテ突カレタルモノト認ム治療ニ三週間ヲ要ス

四、商店番頭一名 左脇下ニ切り傷一ヶ所治療二週間ノ見込

第五〇号

(極秘) 松岡書記官へ左ノ通

福州事件ニ関シ其後當方ニ於テ内密ニ得タル左記情報ハ或ハ真偽ヲ保シ難キ点アルヘキモ審査上ノ参考資料トナルヘキカト存セラルニ付貴官御含迄ニ電報ス
(一)在福州台華公司支配人桜岡琢磨ヲ主動者トシ台灣總督府留学生タル同府警察官其他発企人トナリ日貨保護隊五隊ヲ組織シタルカ右ハ商品ノ運搬保護ニ当ルノ外若シ之ニ妨害ヲ加ヘムトスル支那学生等ニ際会セハ寧口進ムテ彼等ト衝

突ヲ起シ一氣呵成ニ彼等ニ膺懲ヲ加フルノ策ニ出ツヘク右

數回ニ及ヘハ学生等モ自カラ反省ヲ加フルニ至ルヘシトノ計画ニ基キタルモノニシテ(実行者ニハ主トシテ台灣人ヲ用ヒ且ツ泉州人ノ無賴漢ヲ傭入レタリト云フ)右ニ就テハ予メ領事館側ノ黙認ヲモ得タル哉ニテ殊ニ古沢畫記生ハ当初ヨリ本計画ニ支持ヲ与ヘ居タルモノノ如シ又発起人ノ勸誘ニ依リ台灣籍民及三井洋行等ヨリ寄附金ヲ得タルカ台灣銀行ハ寄附ヲ拒絶シタリトノ風聞アリ

(二)十五日夜一部ノ発起人ハ邦人中ノ決死隊ヲ組織シ十六日

ノ計画ヲ協議シタルカ天田洋行ノレース糸運搬ハ実ハ右計画ニ基キ故意ニ実行セラレタルモノニシテ途中要所ニ兇器ヲ携ヘタル邦人及籍民ヲ配置シ且ツ商品運搬指揮ノ任ニ当レル福田總督府留学生ノ如キハ衝突ヲ惹起スル場合ヲ慮リ薬品綿帶等ヲモ携帶セリト云フ

(三)斯クシテ一行ハ途中大迂回ヲ為シ帰路小橋頭ニ差懸リタル際学生ラシキ者貨物運搬ノ苦力ニ向テ其貨物ノ日本品ナリヤ否ヤヲ訊問セル刹那(或ハ當時学生等ハ貨物ヲ実驗セムトテ手ヲ出シタリトモ謂フ)前記護衛隊ノ一行ハ拳銃又ハ棍棒等ニテ右学生等ヲ殴打シ遂ニ三名ヲ逮捕シ之ヲ支那

五、青年会学生一名 胸部ト背部ニ軽微ノ打撲傷各一ヶ所アルモ既ニ全治シ居レリ
六、青年会学生一名 左肩ニ極メテ輕キ打撲傷一ヶ所ナルカ已ニ全治シ居レリ
支那側負傷者ハ上記六名ニシテ死亡者及生命危険ナル者ハ一名モ之ナシ又明カニ鉄砲傷ト認ムルハ(二)ノ学生一名ノミナリ

一〇二二 十二月十八日

内田外務大臣ヨリ
在福州森總領事代理宛(電報)

福州事件ニ關スル情報松岡書記官ニ通報ノ件

一〇二三 十二月十八日 在中国小幡公使ヨリ 内田外務大臣宛(電報)

件及軍艦派遣等我方態度ニ付陳外交總長代理

抗議ノ件

第一五八〇号 (十二月十九日接受)

貴電第一五二〇号ニ閲シ十二月十七日本使陳外交總長代理ニ面会先ツ右貴電内容ヲ口述シタル上、右貴電ニ基キ作製セル覚書ヲ手交シタル處同代理ハ自分ヨリモ誠意ニ基ク思付キノ点ヲ述フ可シトテ種々陳弁シタルカ要スルニ第一福州事件ニ対シテハ日本領事ノ遣リ口宣シカラス又軍艦ノ派遣ニ付テハ今回ノ事件ハ日本人側ヨリ学生側ヲ叩キ付ケタルモノニテ学生等ノ排貨行動ニ付テハ支那政府ニ於テ夫々地方官ヲシテ取締ラシメ居タル次第ニモアリ彼等行動ノ為メ日本人側ニ別ニ生命ノ危険ナ(脱)虞アリタル義ニアラス軍艦ヲ派遣シテ人ヲ叩キタル者等ヲ保護スルノ必要アルヲ認メ得ス殊ニ軍艦ノ碇泊有無ニ拘ラス地方官保護ノ責任ハ結局一様ナルニ付毫モ軍艦ヲ留メテ事件ヲ更ニ重カラシムルノ要ナシ覚書中ニ述ヘラレタル各取締事項ノ如キハ

シ同總長代理之ヲ承諾セリ

上海、廣東、漢口、福州、奉天總領事へ転電セリ天津へ郵送セリ

一〇二四 十二月十九日 在福州森総領事代理ヨリ 内田外務大臣宛(電報)

福州事件共同調査方法ニ閲シ打合ノ結果報告

並軍艦引揚ニ付詮議方松岡ヨリ稟請ノ件

第一〇六号 (十二月二十日接受)

松岡書記官ヨリ第三号

十二月十九日王鴻年等ト会见シ共同調査ニ閲シテハ大要西

田往電第一号ノ通リニ打合セ右調査報告ノ内容ハ委員以外

秘密トス但共同調査ノ公表ニ閲スル形式時期程度等ニ就テ

ハ両国政府ニ於テ協議決定スルコトトシ共同調査ハ愈々廿

日前ヨリ開始スルコトセリ尚森領事嵯峨艦長其ノ他ノ

意見ヲ徵セルニ目下当地ノ状況ハ平穏ニシテ差当リ在留邦

人ニ危害ノ恐ナカルベシトノコトニモアリ此ノ上引続キ軍

艦碇泊ノ必要ナシト認メラルノミナラズ共同調査ヲ進ム

ル上ニ於テモ此ノ際一先ヅ軍艦ヲ引揚ゲラルコト却テ好

都合ナリト信ズルニ付至急右御詮議相成様致度シ尤モ一応

支那政府ニ於テ既ニ実行シ若クハ實行ニ着手シ居ルコトニ
テ各地ノ排貨風潮殆ト消滅鎮靜ニ帰シツツアリシ際福州事
件ノ為メ更ニ新ニ勃發ヲ來タシタル事態ナルカ要スルニ両

國國交ノ改善ハ國民相互間ノ感情融和ヲ根本義トセナル可
カラズ夫レニハ福州事件ニ對シ日本側ニ於テモ好意有ル表
示ヲ与ヘラルルヲ望ムト述べ恰モ我覺書要求ニ係ル取締方

法ヲ励行スルトモ各地ニ於ケル風潮ヲ取り鎮ヅムルニ差シ
テ効力無カルベシト云ヘルガ如キ不誠ナル口吻ヲ洩シタル
ニ付本使ハ之ニ対シ福州事件ハ目下両國協同調査進行中ニ
アルニ係ラズ同總長代理ガ既ニ日本側ニノミ落度有リト断
定シ居レルハ最モ其ノ意ヲ得ズ協同調査ニ対シ充分誠意有
ルモノトハ認メ難ク又軍艦ノ派遣ハ既ニ東京ニ於テ外務大
臣ヨリ支那代理公使ヘ充分説明有リシ通り我在留民全体保
護ノ為メニテ其ノ必要ナキニ及バ勿論召還セラルベク要
スルニ目下各地ニ在ツテ明カニ支那自國ノ法規ヲ破り又帝
國商民ノ通商居住ノ安全ニ対シ頻リニ迫害ヲ加ヘツツ有ル
学生団ノ不法亂暴ヲ取締ルハ目下ノ急務タルト共ニ支那政
府当然ナスベキ所ニテ我覺書ハ即チ之ヲ求メタル次第ナル
旨縷述シ尚右覺書ニ対シテハ書面ニテ回答有リ度シト附言

領事ヨリ支那地方官憲ニ対シ挨拶ノ都合モアルニ付引揚ゲ
詮議御決定次第其旨御電示ヲ請フ

一〇二五 十二月二十日 在中国小幡公使ヨリ 内田外務大臣宛

福州事件ニ閲聯シ一般排日運動取締方ニ付外

文部宛覺書写送付ノ件

附屬書 右覺書写

機密第五一七号 (十二月二十六日接受)

大正八年十二月二十日 在支那

特命全權公使 小幡西吉(印)

外務大臣子爵 内田康哉殿

貴電第一五二〇号御訓令ニ基キ本月十七日本使陳外交總長

代理往訪ノ顛末ハ大要往電第一五八〇号ヲ以テ及報告置候

処其ノ際同代理ニ手交セル覺書写茲許及送付候条御查閱相

成度此段申進候也

本信写送付先 上海、天津、漢口、廣東、福州、濟南、

南京

(附屬書)

一一一 福州ニ於テ日中両国人衝突一件 一〇二五

十二月十七日附在中国小幡公使ヨリ外交部宛第二六一號覺書写

第二六一號

覺書

今春日貨排斥運動勃發以采帝国政府ハ帝国公使又ハ当該領事官ヲ經テ支那政府又ハ地方官憲ニ対シ屢次切実ナル警告ヲ發シ排貨運動ノ取締ヲ請求シ來リタルニ拘ラス支那官憲ノ多クハ兎角有効ナル取締ノ方法ヲ講セス遂ニ福州ニ於ケル日支人争闘事件ノ突発ヲモ見ルニ到リタル次第ナルカ其結果之ヨリ先キ幾分鎮静ニ向ヒツツアルカ如クナリシ排日の運動俄然再燃シ爾來其ノ氣勢逐日各地ニ伝播シツツアルノミナラス其ノ手段方法亦漸次過激ニ赴カントスルノ情勢アリ例ヘハ十二月二日上海ニ於ケル学生団ノ示威運動ハ支那商人ニ対シ排貨誓約ヲ強要スルノ外引続キ日貨搜索強奪焼却等ノ暴行ヲ敢テスルニ至リ尋テ同七日北京ニ於ケル国民大会トナリ更ニ越エテ八日南京ニ於テモ学生団ノ暴行演出セラレ又本月五日以来北京ニ於テ日本小学校生徒通学ノ途上頭部背部面部等ヲ打タレ又ハ其他ノ惡戯ニ遇ヒタル者拾數名ノ多キニ及フ等学生等ノ暴状モ茲ニ至リテ極マレリト云フヘク其他各地ヨリノ報道ハ頻々トシテ不穏ノ情勢ヲ

伝ヘサルハナク此ノ勢ヲ以テセハ一般排日ノ氣勢ハ殆ト底止スル所ヲ知ラサルニ至ルヘシ右学生団ノ支那商人ニ対スル排貨誓約ノ強要日貨ノ搜索強奪燒棄等ハ我商取引ヲ阻害シ我在留民ノ居住及營業ヲ迫害スルノミナラス小学校生徒ノ如キ幼年兒童ニ対スル暴行ニ至リテハ人道上許容シ難キモノニシテ今ヤ帝国臣民ハ條約上保障セラレタル諸般ノ権利ヲ侵害セラレツツアルモノト謂フヘク而カモ其間一二地方ニ於テ当該官憲ノ適切厳密ナル取締方法ニ依リ幸ニ事態尚靜ナルヲ得ツツアルハ帝国政府ニ於テ認識セサルニ非スト雖モ是等ハ單ニ一局部ノコトニ過キス多数ノ地方ニ於テハ關係支那官憲ノ態度往々誠実ヲ欠キ甚シキハ学生団其他不逞ノ徒ノ為スカ儘ニ放任シツツアルカ如キ状態ニシテ彼等ヲシテ前述ノ如キ各種ノ暴行ヲ恣ニセシメツツアルハ一二官憲ノ取締仍ホ厳密徹底ヲ欠クモノアルニ起因スト云ハサルヘカラス從テ万一将来排日運動益々熾烈ノ度ヲ加へ各種暴行事件統發スルニ於テハ支那当局ノ責任益々重大ナルニ至ルヘク他面從来隱忍自重以テ冷静ナル態度ヲ持続シ来レル各地在留ノ日本人モ今後事態ノ發展如何ニ依リテハ其ノ忍耐力遂ニ消尽シ帝国官憲ニ於テハ素ヨリ極力彼等ノセリ

機密第一一五号 (大正九年一月六日接受)

大正八年十二月二十四日

在上海

總領事 山崎馨一 (印)

外務大臣子爵 内田康哉殿

福州事件ニ關聯シ當地排日學生運動狀況ニ關スル件

本件ニ關シ別紙ノ通り及御報告候ニ付御查閱相成度此段申進候 敬具

(別紙)

上海排日學生運動情況報告

山東問題ニ關聯シテ曩ニ起レル排日運動漸ク下火トナリタル後排日ノ暗流ハ尚熄マサリシカ這回端ナクモ福州ニ於ケル日支人衝突事件ニ關スル誇大ノ報道伝ハリタルヲ機会トシテ学生ノ運動再燃ヲ見ルニ至レリ

十一月二十三日午后二時當地學生團各界聯合團體ハ租界外西門外公共體育場ニ於テ聯合大會ヲ開催シ先ツ福建代表毛一豊ノ福州事件ニ關スル報告アリタル後日本攻擊ノ激烈ナル演説アリ而シテ最後ニ次ノ事項ヲ議決シテ事故ナク解散

ノ件

大正八年十二月十七日

一〇二六 十二月二十四日

在上海山崎總領事ヨリ
内田外務大臣宛

福州事件ニ關聯シ上海排日學生運動狀況報告

一一一 福州ニ於テ日中両国人衝突一件 一〇二六

一一一三

一一二四 一二一 福州ニ於テ日中両国人衝突一件 一〇二六

一、日本ニ対シ嚴重ナル交渉ヲ為ス様外交部ニ電請スルコト、及次ノ六条件ヲ外交委員会へ提出スルコト

(イ) 福州駐在日本領事ノ交迭

(ロ) 日本政府ヨリ支那政府ニ謝罪スルコト

死傷者ニ対シ慰恤ヲ為サシムルコト

(ハ) 日本人犯行者ノ処罰

(ヘ) 日本人ハ自今武器ヲ携帶セサルノ保障

(ヘ) 在福州日本領事館警察署長ノ処罰

附加二条件

(イ) 福州ニ於ケル日本領事裁判權ノ撤廃

(ロ) 日本軍艦並ニ軍隊ハ一定ノ期間ニ福建ヲ退去スルコト

二、各団体ハ隊伍ヲ組ミ日貨排斥ノ為メ講演ヲ励行スルコト

三、支那全國人民ニ対シ警告書ヲ發スルコト

前記ノ決議ハ各会大会ノ名ヲ以テ即日北京外交部ニ向テ電報セル趣ナリ

当日集マリタル各種団体左ノ如シ

滬西商業聯合會、中華全國工界協進會、中國體操學校、

旦大學、中華一進會、上海救國十人團聯合會總會、七浦路商業聯合會、法租界商業聯合會、上海留法勤工儉學會青年會、中學南洋路礎學校、上海商業救國恒心團、浦東大團、鎮救國團、友誼學校、愛克界義務夜校、英租界派克路百合里勵志愛國宣講團西武昌路尚賢學校、中華振興期成團、旅滬廈州同鄉會、上海競育童子部、東北城商業聯合會、少年宣講團邑廟像園、商業聯合會、育材公學、城內老縣西街廣濟義務學校、閩北商業公會、約翰青年會、大南門民立中學、華僑聯合會、閩北七路商界聯合會、東吳第二中學、吳淞路商會聯合會、全國各界聯合會、上海各界聯合會、福建商界、上海公學、大同學校、吳淞路學商徵吉會、北福建路工商聯合會、義務夜校、漢口路商界聯合會、梧州路嘉興路商界聯合會、程少泉上海臨時和平維持會、兩湖聯合會、詹炳炎童成章三江聯合會、減穢堂江蘇省立第一商業學校、上海民立地方自治講習所、中華工會總會、民醒日報、毛魯卿唐家弄聯合會、涵德學校、義務班、全國報界聯合會、慕爾堂益賽會、嘉興梧州路聯合會、滬浜英文學校、旅滬陝西學生十人團、少沙渡志成第一義務學校、曹家渡中醫學校、中華全國齒

恵中々學、北區公學、中國公學、中華美術專門學校、滬江大學、南洋醫學專校、惠先學校、少年救國演講團、第

二師範學校、中華工業專門學校、中華模範地方自治講習所、上海地方自治講習所、女青年會、體育師範學生分

會、聖瑪利亞女學圖畫美術學校、中城商業聯合會、愛群女校、愛國女校、十人團聯合會、旅滬広幫華洋雜貨商

會、商業救國恒心團、同德医学專門學校、職工公會、安徽協會、全國公民和平協助會、順直會館、浦東中學、聶

中丞公學、中國公學第一商校、同志團、五洲藥房、上海

學生會、義務學校、志成團、志成夜校、五馬路商界聯合

會、青年益實會、慕爾堂基督教布道團、海寧路商界聯合

會、上海女界聯合會、福建路商界聯合會、中華工業協

會、文監師路商業會、中法義務國民學校、市北公學、愛

克界三路工商聯合會、青年普益社、滬北五區商業聯合

會、青年永志會、北城工商聯合會、廣東旅滬全國工業協會自

由黨總部、敏求小學校、青年義務團、神州医業專校、博

文文學青年會、商業夜校青年會、國民義務學校、美租界

西畫永志會、北城工商聯合會、中華工業協會、上海麵粉公所、

唐家弄商業聯合會、紹興旅滬公學女界、愛國協進會、復

科醫学会、墨國華僑代表黃昂傑、北城工商聯合會、中華婦女生計會

其後上海學生聯合會各界聯合會等ノ各種団体ハ福州事件ニ關シ北京政府各省等ニ対シ通電ヲ發シ又集会ヲ催フシ排日運動方策ニ就キ擬議スル所アリタルカ十二月二日午後二時西門外体育场ニ於テ上海各校学生大会ヲ開催スルニ至レリ當日集リタル学生約五千余、均シク「抵制日貨」「敵愾同仇」「寧死毋辱」「寧為玉碎」「母踏高麗台灣覆轍」等ノ文字ヲ記セル小旗ヲ携ヘ隊ヲ組ミ入場セリ上海學生會々長程學倫開會ヲ宣シ福建代表毛一豐ノ報告ニ次テ学生ノ排日演說行ハレタル後前記小旗ヲ携ヘ学生團ハ租界外ヲ游行セリ途中沿道ノ各商店ニ対シ「陳列セル日貨ヲ撤セヨ然ラナレハ燒棄スヘシ」云々ト記セル伝單ヲ撒布シ數商店二入リ貨物ヲ奪取シ之ヲ体育场ニ搬シ至リ之ヲ燒却シ午後八時頃解散セリ當日租界官憲ハ嚴重警戒ヲ為シ殊ニ仮租界警察ハ租界境界ニ対シ巡捕ヲ増派シタル為メ学生團ノ游行及暴行ハ租界外ニ限ラレタリ

参加シタル学生團所属學校名左ノ如シ

同德專門學校、民國女子工芸學校、南洋中學、上海圖書

一二一 福州ニ於テ日中両国人衝突一件 一〇二六

学、愛群女学、晏摩氏女校、女子愛國義務学校

十二月一日午後四時半上海学生聯合会評議部ハ福州事件二

閔シ緊急會議ヲ開キ左記事項ヲ決議セリ

美術学校、江蘇省立第一商業学校、澄衷中学、上海中医専門学校、留法勤工儉學預備科、江蘇省立第二師範学校、同濟医工専門学校、中国公学、青年会商業学校、青年会学生分会義務学校、清心実業学校学生分会、中華職業学校、滬浜英文専門学校、南洋路礦学校、工業専門学校、神州医学専門学校、浦東中学、中国体操学校、民立地方自治講習所、大同学院、務本女子中学、民立中学、上海学生会第一義務学校、清心実業学校、兩江公學、復旦大学、東亞体育学校、清心女子中学、中法学生分会義務学校、聖約翰大学、育才公学出校学生分会、市北公学、裨文女学、上海女公学、南洋公学、英華書館、模範地方自治講習所、東吳大学法科、東吳第二中学、惠中々学、惠中義務夜校、惠中女学、育英義務学校、英文学院、博文女学、旅滬福建学生会、中華美術專門学校、文生氏英文高等学校、青年会中学、南洋学生分会、嶺南中学、女青年会体育師範科、民生女学、承天英華学校、友誼学校、南洋商業専門学校、中西女塾、江大學、中国女子体操学校、新民小学、振新学校、崇德女学、神州女学、滬江公学、励群公学、約翰青年会中成功ヲ観ス

セ学生聯合会事務所ニアル日貨抵制決議書ニ署名誓約セシムルコト

即チ是ナリ十二月三日ヨリ七日（日曜日）ニ至ル間罷校セル学生団ハ城内南市閘北等ニ於テ路上演説伝單撒布日貨検査ヲ為シ日貨ハ之ヲ奪略シテ西門外ニ携行シ焼却セルモノ少ナカラス租界内ニ於ケル支那商人ニ対スル強迫ハ余リニ成功ヲ観ス

十二月五日学生数名ハ西門外斜橋ニアル商務総会々頭朱葆三氏宅ノガラス窓ニ投石シ又南門外上海県商會々長顧馨一ハ大正米行ノ支配人ニシテ米ヲ日本ニ密輸出セリトノ廉ヲ以テ同シク学生等同邸ニ押シ寄セ十二月四日附ヲ以テ「堯國奸商顧馨一」「費尽天良南會長」ノ貼紙ヲ為シ更ニ一週間内ニ大正米行ヲ閉店セサレハ相当处分ニ附スヘシト威嚇セリ

十二月八日同盟罷校期間後ハ罷校ヲ継続スルヤ否ヤ問題トナリタルモノノ如キモ結局復校スルモノ多ク学生運動ノ氣勢稍緩和ノ觀アルモ路上演説伝單撒布誓約要日貨調査等ノ行為ハ其後尚引続キ行ハレ居リ當地漢字新聞ハ毎日学生團ノ調査ニ係ル日貨輸入表及排貨ヲ誓約シタル商人ノ人名

二、各分会ハ右休學期間中ニ童子軍ニ擬スル國民軍ヲ組織シ一總司令官之ヲ統率ス

学生団ハ前記決議ニ基キ十二月三日ヨリ同盟休校シ日貨排斥宣伝運動ヲ開始スルコトトナリタルカ租界官憲ノ取締厳重ナルタメ租界内ニ入ルコトヲ得ス止ムヲ得サル自然ノ結果トシテ運動ノ形式ニ様ニ分ルルコトナレリ

（一）租界外ニ於テハ日貨排斥路上演説ヲ為シ檄文伝單ノ撒布ヲナシ支那商店内ニアル日貨ヲ調査シ不售日貨ヲ強要スルコト

（二）租界内ニ於テハ支那商人ニ対シ通告ヲ發シ之ヲ呼寄

ヲ掲載シ居ルモ最近ニ於テハ漸次其氣勢鈍リツツアルノ傾向認メラル

這次學生運動ニ於テ指導的地位ニアルモノハ仏租界貝勒路ニ事務所ヲ有スル上海学生聯合会及各界聯合会等ニシテ又学生所屬學校ノ主要ナルモノハ復旦大学、東吳大学ニシテ復旦大学々生程学愈ノ如キハ上海學生會長トシテ其首動者タリ彼等學生中租界内ニ住居スルモノハ租界内ノ警戒嚴重ナル為メ孰レモ租界外ニ至リ演説掠奪等ノ所為ヲ行ヒ居レリ今次運動ノ形式ニ関シ注意スヘキ点ヲ挙クレハ

一、学生ノ運動ハ主トシテ租界外ニ限局セラレ居ルコト

二、主トシテ支那商店内ニアル日貨ニ対シ危害ヲ加ヘ日貨ヲ取扱フ支那商店ヲ威嚇シ先般ノ排日運動ノ際ニ於ケル力如キ日本人ニ対スル危害少ナキコト

三、市中各家ノ排日の白旗ノ掲揚、店舗ノ閉鎖等ノ行為ナク殊ニ租界内ハ外觀平常ト異ナラナリシコト等ニシテ換言スレハ運動ノ形式稍巧妙トナリタルモノノ如ク同時ニ運動ノ氣勢先般ノ排日運動ニ比シ昂ラサルノ觀ヲ呈セリ其原因ト目スヘキモノヲ挙クレハ

二、租界官憲ノ取締嚴重ナリシコト

三、運動ノ後援薄キコト

ノ諸点ナルカ如シ之ヲ詳説セシニ

(一) 学生団ハ租界外ニ於テハ日貨掠奪燒棄等ヲ為シ租界内ニ於テハ商人ニ対シ不售日貨決議書ナルモノニ署名ヲ命シ居レルモ支那商人ハ孰レモ学生暴行ヲ嫌忌セサルハナシ只支那官憲ノ取締緩慢ニシテ保護ヲ受クルコトヲ得サル為メ止ムヲ得ス学生ノ強求ニ応シ決議書ナルモノニ署名セシモノモアリ或ハ例之滬西商業聯合会ノ如キハ学生ノ强迫ニ依リ日貨抵制法トシテ不售日貨志願書ナルモノヲ作成セル由ナルモ之実ニ不願之願ニシテ一般支那商人ノ態度ハ排貨運動ニ対シ嫌忌ノ念ヲ有セリ

十二月十三日江蘇省教育会、上海県教育会、中華職業教育社、寰球中国学生会、華僑聯合会、上海款米同学会、上海基督教聯合会、上海救火聯合会ノ八団体ハ上海商務總会、南市商務總会、各路商界聯合会、商業公團聯合会ノ四団体ニ対シ日貨排斥ニ努力セシコトヲ勧告スルノ書面ヲ寄セタリ

之ニ対シ上海商務總会、南市商會、各路商界聯合会ハ何等

ラレ拘留ノ上銀五元ノ罰金ヲ課シ釈放セラレタリ而シテ仏

国租界警察ハ学生団ニ対シ彼等カ租界内ノ秩序ヲ乱ル行動アルニ於テハ同租界内ニアル其事務所ヲ閉鎖スヘシト申送リタル趣ナルカ十二月十一日同警察ハ支那官憲ノ要請ニ基キ同租界貝勒路ニアル上海学生聯合会及各界聯合会ニ対シ數日ノ猶予期間内ニ事務所ヲ閉鎖スヘキ旨命令ヲ下セシモ学生ハ激烈ニ抗議ヲナシツアリト云フ租界官憲ノ取締ノ嚴重ナルニ反シ支那官憲ノ甚々誠意ナキハ遺憾トセサルヘカラス十二月四日淞滬警察庁長徐國樑ハ各区署ノ巡捕探偵等ヲ召集シ左ノ如キ訓示ヲ与ヘタル趣ナリ

学生ハ隊ヲ組ミテ露天演説ト日貨検査ヲ行ヒツツアルカ之ハ熱心ナル愛國行為ナリ故ニ学生カ各商店ニ入りテ日貨ヲ押収セントシタルトキハ宜シク善言ヲ以テ之ヲ訓諭スヘシ該商店ノ日貨モ亦資本ヲ出しシテ仕入レタルモノナレハナリ然レトモ若シ学生聽カサルトキハ其為スママニシテ可ナリ最モ注意スヘキハ時節柄盜賊カ学生ニ混入シテ掠奪ヲ行フコトナリ学生ニ対シテハ溫和手段ヲ執レ云々

然ルニ本官ヨリ交渉使ニ為シタル嚴重ナル交渉ノ結果ナルニヤ十二月七日淞滬護軍使何豊林ハ淞滬警察庁長徐ニ大要

ノ回答ヲ与ヘサリシカ商業公團聯合会ハ十七日各幹事ヲ招待シ討議ヲ為シタル結果今更八団体ト一致行動ヲ採ル要ナシトノ意味ヲ以テ回答ヲ発セル趣ナリ

商務總会ハ学生団ヨリ日貨排斥ノ態度ヲ採ランコトノ要求ヲ受ケタルモ同總会ハ国貨提唱ヲ為スコトヲ得ヘシト雖モ同会ノ性質上特ニ日貨排斥ノ決議ヲ為スヲ得ストテ該要求ヲ拒絶セル由ナリ以テ有力ナル支那商人団体ノ態度ヲ察知スルニ足ルヘシ

(二) 当地仏国租界共同租界官憲ハ前回排日運動ノ際ニ於ケル失敗ニ顧ミ十二月二日学生聯合大会開始前ヨリ警戒ヲ嚴ニシ共同租界警察ハ学生団体ニ対シ苟クモ租界ノ秩序ヲ紊ルカ如キ所為ニ出テタルトキハ直チニ弾圧セサルヲ得サル旨ノ通告ヲ為シタル趣ニテ租界境界其他要所ニハ武装警察官ヲ増派シ支那商店ヲ襲ヒ路上演説ヲ為シ伝單ヲ配布スルカ如キ不法行為ヲ嚴重取締レリ又仏国租界警察ノ取締ニ附テハ十二月五日仏租界内ニ於テ支那商店ヨリ日貨排斥誓約書ヲ徵セントシタル民生女学校生徒二名ハ租界巡捕ニ捕へラレタリ又十二月三日徐家匯附近仏租界内ニ於テ支那商店ヨリ貨物ヲ奪取シタル学生中数名ハ仏租界巡捕ニ逮捕セ

一一三〇 一二 福州ニ於テ日中両国人衝突一件 一〇二七

受クヘシ万ー猥リニ人家ニ侵入シ他人ノ一草一木ト雖モ

之ヲ侵害スルカ如キ行動アルニ於テハ本府長ハ法律ニ照

シテ直ニ逮捕シ嚴重ナル処分ヲ為シ以テ商業取引ヲ保護

シ治安ノ維持ニ任スヘク少シモ仮借セサルヘシ云々

右布告アリタルニ拘ラス遺憾ナカラ支那警察巡捕ノ取締嚴

重トナリタリト認メ難シ

(三) 前回ノ排日運動ノ際ハ政党者流殊ニ馮國璋一派、一

部民党派ノ後援指導アリタルモノノ如ク英米商人(例之南

洋煙草会社ノ如キ)ノ後援アリタルモ這次ノ運動ハ政治家

外國商人等ノ後援ナキカ如シ殊ニ曩ニハ孫文、孫洪伊等カ

関係シ居リタル形跡アリタルカ如キモ今回ハ運動ノ原因福

州事件ニシテ該事件ニ関シテハ北京政府ハ日本政府ニ対シ

嚴重抗議ヲ提起シ居リ之ヲ以テ北京政府ヲ攻撃スルノ材料

ト為スニ足ラス彼此対比シテ政治關係多少ノ変遷アルニ由

ルモノト觀測セラル孰レニシテモ此種ノ後援ナキカ為メニ

学生ノ氣勢甚夕昂ラス且ツ又無賴漢ノ如キニ対シテモ金ヲ

投スル者ナキ為メ彼等ノ暴行ナク当地方ノ閔スル限り日本

人ニ対スル暴行之ナシ

要之這次排日運動ノ形式ヲ觀ルニ单ニ純然タル学生ノ妄動

貴電第一五二〇号ニ閔シ

我方提出ニ対スル外交部回答要領別電第一六〇五号ヲ以テ

電報ス右ハ反駁ノ余地有リト認メラルニ付御同感ナラバ

當方ヨリ右反駁案文電票スルモ差支ナシ何分ノ儀御回電ヲ

請フ

註 別電第一六〇五号省略ス十二月二十六日附外交部ヨリ小幡
公使宛回答覚書ニ付テハ次掲文書附屬書參看

部ノ回答覚書写送付ノ件

本件取締ニ閔シ御訓令ニ基キ十二月十七日附ヲ以テ本使親

シク我覚書ヲ陳外交總長代理ニ手交シ置タル次第ハ曩ニ拙

電第一五八〇号並ニ機密第五一七号拙信ヲ以テ及報告置候

處右覚書ニ対シ十二月廿六日附ヲ以テ同總長代理ヨリ覚書

ヲ以テ回答シ來リ候次第ハ住電第一六〇四号ノ通ニ有之茲

ニ別紙右覚書写及送付候間委曲右ニ依リ御閑悉相成度別紙

写相添此段申進候也

本信写送付先 上海、天津、濟南、漢口、南京、福州、

廣東、奉天

(附屬書)

十二月二十六日附外交部ヨリ小幡公使宛覚書写

一般排日運動取締ニ閔スル我覚書ニ対スル回答

節略

准

貴公使十七日面交節略内開等因業已閑悉所有本代理部長對

於此事個人看法曾於是日詳細面告查中日邦交向稱敦睦何以
人民忽有排斥貨物等風潮其原因所在

一般排日運動取締方ニ閔スル我覚書ニ対スル支那外交
外務大臣子爵 内田康哉殿

一般排日運動取締方ニ閔スル我覚書ニ対スル支那外交
外務大臣子爵 内田康哉殿

一一三一

一一二 福州ニ於テ日中両国人衝突一件 一〇二九

一一三一

方官嚴加注意不使稍有軼出範囲挙動數月以来内外一致苦心維持人民等不無激烈言動如天津蕪湖等處間有發生事端均經地方官隨時勸導和平了結以上情形早為

貴公使所深悉乃於排貨風潮將次結束之際不幸又有福州日本人民團殴中國學生之事發生重復挑動人民惡感因之有如

貴館節略所言漸次平靖之排貨風潮忽然再燃以致本國政府數月以來調停之功廢於一旦此本國政府所深可惜也現在福州事件已由彼此派員會查自應俟調查結果就事論事彼此和衷商酌相當之解決不必牽涉排貨問題以致輾轉溯源益難收束至於

排貨風潮以及類似此項宗旨之言論集會及散布申單等事本國政府始終異常重視而於此次福州事件發生以後國務院於未接

貴館來文之前業經嚴飭軍警妥為防範並迭電各地方長官約束人民勿使有軼出範圍挙動並對於日本人民生命財產加意保護故自福州事件發生以來京外各處人民雖極為激昂幸未發生意外事故其

貴館節略所稱日本人民被人殴打及惡戲各節業經行知警厅雖拋查明實無確據然本國政府亦甚看重

貴公使之意並本保護日本人民之宗旨於本月廿四日由本部會同國務院通電並行知地方官嚴申前禁總之消滅排貨之根本辦

法應由調融兩國人民感情入手至

貴館節略所稱使兩國々交迅速恢復一節以本國政府看法中日兩國々交素為敦睦即使人民少有誤會政府自應設法盡其開導

之責力求增進之方至於邦交上與前仍屬毫無不同之處

貴館節略所稱恢復二字似屬尚欠斟酌相應開誠布復即希

查照為荷

十二月廿六日

外交部啓

一〇二九 十二月二十七日

在福州森給領事代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

松岡ヨリ軍艦引揚方再度稟請及事件調査長引

見込報告ノ件

第一〇七号

松岡書記官ヨリ左ノ通り

第四号

往電第三号後段ニ閔シ若シ此ノ上引続キ嵯峨ヲ当地ニ碇泊セシムルニ於テハ何時迄モ兵員ノ上陸ヲ差止メ置クコト頗ル困難ナル可ク併モ兵員上陸セバ學生等ハ奇貨措ク可シトナシテ謠言蜚語ヲ放ツ可ク旁々前電ノ通り此ノ際至急軍艦

航待命スヘシ

別電第一、外務大臣ヨリ小幡公使宛第一一六〇号

松岡ヨリ軍艦引揚ケ方ニ閔シ請訓シ來リタルニ付篤ト詮議ノ上別電ノ通リ回訓シ度所存ナル處本件ニ付テハ貴官ヨリ支那側ニ対スル交渉ノ行札上右ニテ差支ナキニ於テ

ハ別電实行方本大臣ヨリノ訓令トシテ松岡ニ電報セラレ同時ニ貴官ヨリ支那政府ニ対シ福州ニ於ケルト同様通告並ニ申入方取計ハレタシ

別電第二、外務大臣ヨリ森領事宛第五一号(松岡書記官宛訓令)

貴電ニ閔シ政府ガ曩ニ貴地ヘ軍艦ヲ派遣シタルハ當時貴地ノ情況極メテ不穏ニシテ我居留民ノ保護ニ付テモ獨リ支那官憲ノ施措ニ信賴シ難キモノアルヲ恐レタルニ由ルモノナル處貴官ニ於テ領事及艦長トモ協議ヲ遂ケラレタル結果差当リ右ノ如キ懸念ナカルヘシトノ事ニ付政府ニ於テ篤ト考慮ノ上此ノ際一先ツ帝国軍艦全部引揚ノコトニ決定セリ御承知ノ通支那政府ヨリハ頻リニ軍艦引揚方

別電第一第二ノ通小幡公使並松岡書記官ヘ電訓サレタルニ付貴官ハ領事ト協議ノ上成ルヘク速ニ其地ヲ發シ馬公ニ回

一二 福州ニ於テ日中両国人衝突一件 一〇三〇

(別紙)

嵯峨艦長ヘノ電訓

外務大臣子爵 内田康哉殿

軍艦嵯峨行動ニ閔スル件

本件ニ閔シ別紙ノ通在馬尾嵯峨艦長ニ電訓致候

右通牒ス

大正八年十二月二十八日

官房機密第一六八一号 (十二月二十九日接受)

軍艦嵯峨ノ行動ニ閔シ同艦長宛電訓通牒ノ件

訓令)

海軍大臣 加藤友三郎(印)

外務大臣子爵

内田康哉殿

軍艦嵯峨行動ニ閔スル件

本件ニ閔シ別紙ノ通在馬尾嵯峨艦長ニ電訓致候

右通牒ス

(別紙)

嵯峨艦長ヘノ電訓

別電第一第二ノ通小幡公使並松岡書記官ヘ電訓サレタルニ付貴官ハ領事ト協議ノ上成ルヘク速ニ其地ヲ發シ馬公ニ回

一二 福州ニ於テ日中両国人衝突一件 一〇三〇

政府ノ請求ニ応シタル次第ニ付政府ニ於ケル秩序

一一三一 福州ニ於テ日中両国人衝突一件 一〇三一 一〇三二

一一三四

ノ維持ト我居留民ノ保護トハ支那側当然ノ責務ニ付同政府
並ニ地方政府憲ニ於テモ深ク此点ヲ顧念シ帝国臣民ニ対スル
利益迫害ノ繰返ヘサレ之カ為帝国政府ヲシテ再ヒ軍艦派遣

ヲ余儀ナクセシムルコトナキ様各般ノ予防的措置ニ出ツヘ
キコト勿論ノ義ニ付貴地支那官憲ニ対シ右軍艦引揚ニ決定
セル旨通告セラルト同時ニ前頭ノ次第委曲可然申入レラ
レ度尤モ本電ニ閔シ別電小幡公使ニ電訓シタルニ付本電實
行方ハ同公使ノ電報ヲ待チ着手セラレタシ

一〇三一 十二月二十九日 内田外務大臣ヨリ
在中国小幡公使宛（電報）

排日運動取締要請ニ対スル外交部覺書ヘノ反

駁案文電報方ノ件

第一五六五号

貴電第一六〇四号ニ閔シ反駁案文至急電報アリタシ

一〇三二 十二月二十九日 内田外務大臣ヨリ
在福州森總領事代理宛（電報）

軍艦引揚ニ閔スル公表文ニ付訓令ノ件

別電 同日内田外務大臣發森總領事代理宛電報第五五
号 右公表案

派遣シ居留民保護ノ任ニ当ラシメタルカ最近該地方ノ情況
次第二平穏ニ帰シ差当リ如上ノ懸念ナキ旨報告ニ接シタル

ヲ以テ政府ニ於テモ篤ト考量ヲ遂ケ此際一先ツ帝國軍艦全
部ヲ該地ヨリ引揚クルコトニ決定セリ是レ素ヨリ帝國政府

カ實際ノ情況ヲ考察シ自ラ進ソテ決行スル所ナルカ今後支
那官憲ニ於テモ充分各地ノ秩序維持ト我居留民ノ保護ニ一

層尽瘁シ以テ再ヒ帝國政府ヲシテ我居留民ノ利益ニ対スル
迫害ノ繰返ナルル為メ軍艦派遣ヲ余儀ナクセシムルカ如キ

事態ノ發生セサラムコトハ帝國政府ノ衷心希望シテ止マサ
ル所ナリ

一〇三三 十二月二十九日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

軍艦引揚何時ニテモ差支ナキ旨松岡書記官ヘ

電報ノ件

第一六〇八号

本使發福州宛電報第一〇五号

松岡書記官ヘ

外務大臣發福州宛電報第五一号何時ニテモ実行異存無シ

外務大臣ヘ転電セリ

一一三一 福州ニ於テ日中両国人衝突一件 一〇三一 一〇三二

第五四号

往電第五一号ニ閔シ松岡書記官ヘ左ノ通り

軍艦引揚ニ閔シ在支公使ニ於テモ異議無キ旨電報ニ接スル
ニ於テハ即時当地ニ於テ別電第五五号ノ通り公表スル筈ナ
ルニ付貴地ニ於テモ在支公使宛第一一五九号实行方同公使
ヨリ電報アリ次第直ニ大体同趣旨ノ「コムミニケ」ヲ發
表スル様取計ハレタク尤モ公表文ノ字句ニ就テハ貴地ニ於
ケル實際ノ事情ニ鑑ミ適宜修飾ヲ加ヘラレ差支無キモ本件
ニ閔シテハ支那側ニ於テモ何等力軍艦引揚ニ閔スル自己ニ
都合ヨキ評論解釈ヲ公表スルヤ難計ト思ハルルニ付機先
ヲ制シ可成速ニ發表スル様可然御配意アリタシ

在支公使ヘ転電シ北京ニ於テモ公表セシムルコトセリ
（別電）

十二月二十九日内田外務大臣發在福州森總領事代理宛電報第五
五号

軍艦引揚ニ閔スル公表案

第五五号 別電

帝国政府ハ曩ニ福州ニ於ケル事態ノ極メテ險惡ナルニ顧ミ
我居留民ニ対スル迫害ノ頻出ヲ恐レ止ムナク軍艦ヲ該地ニ
在支公使ヘ転電シ北京ニ於テモ公表セシムルコトセリ

（別電）

十二月二十九日附外交總長代理ヨリ小幡公使ヨリ

福州事件ニ閔スル外交總長代理回答公文等写
送付ノ件

附屬書一

十二月二十七日附外交總長代理ヨリ小幡公

使宛右公文写

二 十二月二日附福建交涉公署ヨリ森總領事代

理宛公文写

三 十二月十九日附福建交涉公署ヨリ森總領事

代理宛公文写

機密第五五六号 （大正九年一月八日接受）

大正八年十二月二十九日

在支那

特命全權公使 小幡西吉（印）

外務大臣子爵 内田康哉殿

福州ニ於ケル日支人間ノ争闘事件ニ閔スル外交部回答

写送付ノ件

本件ニ閔シテハ十二月十七日附機密第五一〇号拙信ヲ以テ
及報告置候處該信附屬十二月十六日附陳外交總長代理宛公
文第二六〇号ニ対シ同代理ヨリ別紙写ノ通り回答シ來リ候

一一三六 二付茲二及送付候間御查閱相成度右写相添此段申進候也

本信写送付先 福州、上海、廣東、天津

(附屬書一)

十二月二十七日附外交總長代理ヨリ小幡公使宛公文写

照会

外交次長代理部務陳為照會事關於福州事件准本月十六日照開等因業已閱悉此案既由雙方委員共同調查自應俟調查結束再由兩政府和商解決此時原無彼此論弁之必要惟細繹來照意義似欲將此次衝突完全責任帰之中國方面此則本國政府所斷難承認查來照所開各節

貴國駐福州森總領事曾兩次致本國福建特派員照會措辭與貴館來文略同當經特派員先後明白駁復並鈔稿前來茲特將該項照會稿二件鈔送

貴公使核閱當於責任所在不難明悉也除將來照寄閩交由地方官根拠事實報部再行備復外相應先行照復即希

查照為荷須至照會者

右 照 會

大日本國欽命駐華全權公使小幡

中華民國八年十一月二十七日

一一三七 二付茲三及送付候間御查閱相成度右写相添此段申進候也

本信写送付先 福州、上海、廣東、天津

(附屬書二)

十二月二日附福建交涉公署ヨリ森總領事代理宛公文写

照會以本月十六日南台大橋頭發生之事溯源肇因於歐洲講和會議其中之事件引起本國人民之憤激排斥

貴國商品且謂福建政府關於取締學生非無發出布告或用兵力因一旦逮捕旋即釀放以為取締不能澈底而無誠意此

貴總領事未會福建政府之苦心又不知重本輕末之作用須知民氣之來如水奔放苟善導之不難漸受範圍若激阻之則橫流氾濫不知紀極福建政府体中央與

貴國日求親善之意欲從根本和解故以

督軍兼省長之尊嚴政務之繁重不憚煩勞輒召各校學生入署親自講演勸導無非欲使其氣憤潛消和平肇見不然臨之以威束之以力貌雖從而心則違他日因消果存隱患更大豈為計之得迨自瑞順洋行事寔發生之後

貴總領事舉約章來相交涉福建政府遂転取嚴厲手段學生亦已

歛戢矣豈得謂福建政府為無誠意之取締乎乃於學生歛戢之時貴國人及貴國籍民竟無故發生十六日之重大案件而

瑞順洋行事寔發生之後

貴總領事謂其原因乃天田洋行運輸貨物為學生強欲奪取所致

若果將本署前函所述警廳之報告及被傷者之供詞接筭參觀安

有天田洋行輪貨為學生強欲奪毀之原因況大橋頭一帶通衢大道衆目昭彰豈無局外一人之間見此固理之至明者至当日流血之事其為

貴國人及貴國籍民造成之何以知之可即以來文証之來文所引

十一月初旬三井洋行輸送麥粉及十一月十二日天田洋行輸送

絹線二事(一事本署並未得貴總領事函知亦未得警廳報告今抵就來文所敘述者而言)謂皆有學生強欲奪毀經挑夫奔回報

告或洋行主或由洋行派員交涉即了可見学生平日對於

貴國人及貴國籍民並無用武滋事而是日的係

貴國人及貴國籍民等預先排布持械行兇演成流血為不可掩之事是

來文有謂中國官府未能徹底取締學生一節大凡交涉事件若貴總領事不滿本署之所為則宜報知

貴國公使向

北京外交部交涉此為正弁奈何舍正路而不由縱人民違法之過舉幸而福建政府趕派軍警保護有方而

貴國人皆完全無恙若憑

貴總領事所言以保護包罔則當日之情形何堪設想此理之至明

一二 福州二於テ日中両国人衝突一件 一〇三四

(附屬書三)

十二月十九日附福建交涉公署ヨリ森總領事代理宛公文写

一一三七

為照復事接准 (十二月十九日)

貴總領事第二三四号來文謂本署宇字第九十一号照復以十六日之事捏造事實努力嫁架責任於貴國人民

貴總領事斷難承認等語此案發生乃在通衢大道衆目昭彰且証據我政府各派專員會查必有水落石出之一日固無待

貴總領事承認与不承認也至以本省政府取締排斥日貨為無効果歷檢

貴總領事所交涉如駁船之裝載碼頭夫之挑運報紙之更正受罰揭帖之禁止本省政府無不次第弁到間有學生軋內拳動本省政府亦何能作法律外之压制想亦為

貴總領事所見諒計至肇事之日止

貴國商民所受損失亦不過瑞順洋行一案而已來文所稱十一月初旬三井洋行輸送麥粉及十一月十二日天田洋行輸送絹糸以

與十一月十二日瑞順洋行之燐寸一案類似故未照會避煩瑣也

查三井之事在前瑞順之事在後

貴總領事何由知三井之事之後當有瑞順之事發生避煩瑣而不言殊不可解本特派員疑此事為烏有理宜然矣流血字句僅於二零三号來函見之他函並無有此函來未數日而竟發生流血姑曰

在福州
外務大臣子爵 内田康哉殿 総領事代理 森 浩(印)

福州排日問題ニ閩スル支那官憲ヘノ交渉文写送付ノ件

及御送付候条御查閱相成度此段申進候 敬具

(別紙) (1)(2)
(3)
大正八年十二月二十八日 在福州
外務特派福建交涉員 王寿昌殿

拝啓陳者学生等ノ暴行取締方ニ閩シテハ迭次御照会ニ及ヒ

置キタル通リニシテ貴交渉員ニ於テモ屢々 責任ヲ以テ取締ヲ勵行相成ベキ旨声明セラレタルニ拘ラズ彼等ノ不法行為ハ依然改マルニ至ラズシテ日貨ヲ取扱フ貴國商人ヲ迫害シ本邦商ノ取引ヲ不能ナラシメツツアルハ今尚顯著ナル事実

ニ有之當方ノ調査ニ依レバ最近貴國商人ニシテ彼等ノ暴行

一一三九 一二 福州ニ於テ日中両国人衝突一件 一〇三五

此非 貴總領事所預知乃

貴總領事是無所卸其責任又附送診斷書五紙更堪詫異

貴總領事第二一二号公文不過於叙事内言及瓦片擲傷外山貴館員及通訊員之事縱有受傷其必極乎輕微故無指出傷痕及請

檢驗之事今乃事隔一月之久忽有五人受傷之照会(籍民李塗水受傷貴署即日請驗可為例証)是捏造事實努力嫁架恐必不

在本特派員而在貴總領事也傷單碍難承認至順記主人曾在警厅及本署親自供述一如其呈文日後自不難明其真相總之此案応帰雙方會查員

調查真確固無煩本特派員之斬斬為此照復即希

貴總領事查照為荷須至照復者

一〇三五 十二月三十日 在福州森總領事代理ヨリ

排日運動取締ニ閩スル中國官憲宛公文写送付

ノ件 公第一五四号 (大正九年一月十九日接受)

大正八年十二月三十日

二会ヒ其ノ貯藏ニ係ル日本製品ヲ破棄セラレ損害ヲ蒙レルモノ左ノ如クニ候

店氏名 場所 日 時

万宜樓蘇広告 塔子兜 十二月十六日午后七八時頃

興記雜貨店 中亭街 十二月二十一日午后二時頃

瑞來雜貨店 塔子兜 十二月二十五日午后七八時頃

王阿銀(雜貨商) 蒼霞洲 十二月二十七日午后四時頃

以上ハ何レモ貴國商人ニシテ彼等ノ被害ニ就テハ元ヨリ本

領事ノ閩知セザル所ニ有之候モ学生等ガ日貨ナルガ故ニ斯ル暴行ヲ敢テシ以テ間接ニ本邦商人ノ取引ヲ不能ナラシメ

ント努ムルハ之畢竟本邦商民ノ營業ニ対シ直接ニ妨害ヲ加

フルト何等選ブ所無之要スルニ帝國臣民ガ條約上確保セラ

タル通商ノ自由ヲ侵害セラルニ外ナラズ之本領事ノ到底黙シ能ハザル所ニ有之候条貴福建政府ニ於テハ之等学生等ノ暴行実況御精査ノ上切実ニ取締ヲ勵行セラレ貴國官憲ノ威嚴ヲ損セラルルガ如キコトナキ様御措置相成度此段

照会得貴意候 敬具

一二三〇号

一一一 福州ニ於テ日中両国人衝突一件 一〇三六

大正八年十二月二十九日

在福州

総領事代理 森 浩

外交部特派福建交渉員 王寿昌殿 在福州

在福州

一一四〇

在福州

総領事代理 森 浩

外交部特派福建交渉員 王寿昌殿 在福州

拝啓陳者福州三井洋行支店長鈴木政吉ノ呈称スル所ニ依レバ同洋行雇人劉十一ハ一昨二十七日午前十時頃同店へ出勤ノ途中中洲ニ於テ学生四名ノ為メ其乗用セル車ヨリ引き下サレ殴打セラレタル趣ナルガ殴打中巡警來リテ制止シタル為メ大難ニ至ラザリシモ該巡警ハ單ニ学生等ノ暴行ヲ制止シタル丈ニテ彼等ヲ取押ヘントスル模様モ見エザリシ由ニ有之候查スルニ近來学生等ノ暴行頻々トシテ頭ハレ来リタルハ迭次照会ニ及ヒ候通リニ有之貴國官憲ニ於テ若シ此儘二放任相成居候テハ又々如何ナル重大事件ノ発生ヲ保シ難ク誠ニ憂慮ニ堪ヘス候間貴福建政府ニ於テハ誠実ニ不法学生取締ヲ励行相成リ貴國官憲ノ威信ヲ損セラルル如キコト無之様御配慮相成度此段照会得貴意候 敬具

(三) 第二三一号 大正八年十二月二十九日

貴電第五四号ニ閑シ
御訓令ノ趣旨ニ基キ本日福建政府ニ通告スルト同時ニ「コミニニケー」ヲ公表スル筈ナルガ貴電第五五号中「帝国軍艦全部」トアルモ当地ニハ最初ヨリ軍艦嵯峨一隻丈ヶ来航シタルノミニ付貴方ニ於テ本件公表ノ節御訂正アリタシ北京へ電報セリ

第一〇八号

第一〇九号

第一一〇号

第一一一号

第一一二号

第一一三号

第一一四号

第一一五号

第一一六号

第一一七号

第一一八号

第一一九号

第一一〇号

第一一一号

第一一二号

第一一三号

第一一四号

第一一五号

第一一六号

第一一七号

第一一八号

第一一九号

第一一〇号

第一一一号

第一一二号

第一一三号

第一一四号

第一一五号

第一一六号

第一一七号

第一一八号

第一一九号

拝啓陳者當地在留本邦人坂元直宗ハ本月二十六日馬路通行中日本館附近ニ於テ学生数名ノ為ニ硫酸ヲ振り掛けラレタル趣別封日本服相添ヘ届出候查スルニ学生等ノ本邦人迫害取締方ニ就テハ貴交渉員ガ迭次声明相成居候所ナルニ拘尚此種惡戯ヲ敢テスルモノ有之候ハ遺憾ニ不堪若シ此種行為ニシテ嚴重取締ヲ加ヘラルニ非ラザレバ又々如何ナル事件ヲ惹起スルニ至ルヤモ計ラレズト存候条貴福建政府ニ於テハ犯人御捜査ノ上法ニ照ラシ処罰相成候様致度此段照会得貴意候 敬具

一〇三六 十二月三十日 在中国小幡公使ヨリ 内田外務大臣宛(電報)
軍艦引揚決定ノ旨外交部へ申入済ノ件

貴電第一五六〇号ニ閑シ
十二月二十九日外交部へ申入ヲ了セリ尚右申入ノ極大要ヲ主ナル在支各領事ノ承知ニ容レ置カルル方然ル可シト存ズ在支公使へ電報セリ

第一六一二号

貴電第一五六〇号ニ閑シ

十二月二十九日外交部へ申入ヲ了セリ尚右申入ノ極大要ヲ主ナル在支各領事ノ承知ニ容レ置カルル方然ル可シト存ズ在支公使へ電報セリ

第一六二三号 至急

貴電第一五六五号ニ閑シ

第一六二三号

一一四二 一二 福州ニ於テ日中両国人衝突一件 一〇三九

シテ廃シタルヲ深ク惜ムト云ヘルハ調停ノ語已ニ甚ダ輕キニ加フルニ言外恰モ貴国政府如何ニ嚴正適切ナル取締ヲ行フモ帝国臣民中斯クノ如キ拳ニ出ヅル者アルニ於テハ貴國終ニ其ノ責ニ任ズルニ由ナシトセラルニ似タリ右ハ畢竟貴国政府ガ福州事件ヲ以テ曲日本人ニアリト前提セラルニ基クモノニシテ即チ両国派員協同調査ニ対シ貴国政府ニ於テ重キヲ措カザルヲ自白セラルモノト云フベク是レ帝國政府ノ先ヅ以テ遺憾トセザルヲ得ザル所ナリ

抑十二月十七日帝國公使ノ提出シタル覚書ニ於テ帝国政府ノ貴国政府ニ望ミタル所ハ現ニ各地ニ於テ猖獗ヲ極メツツアル不法ナル排日運動ニ対シ各地警察官力往々ニシテ全ク傍観ノ態度ヲトリ或ハ少クトモ甚ダ微温の取締ヲ加ヘツツアルニ過ギザルノ事実ヲ看過スルコトナク通商條約上保障セラレタル帝国臣民居住營業生命財産ノ安全ヲ保護スルコトノ為メ各地ニ涉リ一層徹底的ニ取締ノ方法ヲ実行セラルベキコトノ一事ニ外ナラズ現ニ福州事件ノ依テ来ル所全ク貴国排日運動ニアルハ疑ナク貴部覺書ニ福州問題ニ關聯セシメテ以テ益々收束ニ難カラシムルニ及バズトナセルガ如キハ實際ニ於テ福州事件排日運動ニ対スル取締ノ不徹底

知ルニ苦シムト云ヘルモ決シテ故ナキニアラザルナリ若シ

貴国政府ニシテ貴国人民ノ帝國臣民ニ対スル暴状今日ノ如キモノアルモ国交尚毫モ影響ナク即チ両国ノ関係常態ニアルヲ以テ回復ノ余地ナシトセラルニ關シ貴部覺書中確拠ナシトセラレタルハ帝國政府ノ意外トスル所ナリ蓋シ右ハ何レモ帝國公使及領事官ノ責任アル報告ニ基キ帝國政府ノ之ニ言及セルモノ誠ニ已ムヲ得ザル（脱）ザルモ此故ヲ以テ帝國政府ノ所言ヲ看過セラレントスルガ如キ態度アルハ帝國政府ノ甚ダ貴国政府ノ為ニ取ラザル所ナリ之ヲ以テ帝國政府ハ茲ニ前覺書ノ要旨ヲ敷衍再説シ以テ貴国政府ノ一層切実ナル反省ヲ求メントス而シテ帝國政府ノ要求スル所ハ嚴肅ナル取締ノ實行其ノモノニシテ之ガ實行不徹底ニ對スル貴国政府ノ弁明ニアラズ冀クバ篤ト前覺書ト併セ查見ノ上速カニ断乎タル拳措ニ出デラレンコトヲ

一〇四〇 十二月三十一日 (曾田台灣軍參謀長ヨリ)
福田參謀次長宛 (電報)

雲南ニ於テ福州事件ニ關シ國民大会開催ノ件
陸同文 十二月三十一日

(大正九年一月六日外務省接受)

一一四三

ヨリ生ジタル争フベカラザル事実ヲ没却セルモノト云フ可ク帝國政府ノ決シテ承服シ能ハザル所ナリ而シテ右覺書中範囲ヲ逸出スルノ舉動アラシメズ云々トアルモ知ラズ貴國政府ハ何ヲ以テ範囲ヲ逸出セザルノ舉動トセラルヤ將タ帝國臣民ノ正当ナル業務ヲ妨害シ猥ニ日本貨物ノ運搬ヲ阻ミ或ハ故無ク之ヲ燒棄毀損スルガ如キ從來ノ各地ニ於テ貴國官憲ノ防遏ヲ見ザル貴國學生團等ノ飽クコトナキ暴行ハ果シテ皆範囲ヲ逸出スルモノト認メラレザルノ意ナリヤ將又両國人民一般感情ノ融和ハ元ヨリ帝國政府ノ夙ニ切望スルノ所タリ然レドモ先ツ帝國臣民ヲシテ此ノ迫害ヲ免レシメ此ノ危険ヨリ脱救セシムルニアラサレバ独リ感情ノ融和ヲ得ルコト期シテ望ムヘカラザルノミナラズ帝國臣民ノ忍耐力ニモ限リアルガ故ニ勢ノ赴ク処或ハ終ニ如何ナル不測ノ事変ヲ勃発スルヤモ計リ難ク之帝國政府ノ予メ大ニ憂ヘザルヲ得ザル所ナリ若シ依然貴國政府ノ威令行ハレズシテ学生団其ノ他ノ団体ノ歴然タル不法行為ニ対シ断然禁遏ヲ加フル能ハザルコト尚今日ノ如クンバ貴國政府ハ終ニ帝國政府ニ対シ貴國自ラ保障セル條約上ノ責務ヲ尽サザルモノト云フベク帝國政府ガ親交國トシテノ國交何レニアルカヲ

電報 十二月 二十九日午後二時二十分發
次長宛 台灣軍參謀長

山県電報ニ依レハ雲南ニ於テモ二十五日福州事件ニ關シ国民大会ヲ開キタリ会合者ノ多クハ学生ニシテ單ニ過激ナル排日演説ヲ為セルノミナリ右ニ關シ唐繼堯曰ク集会ヲ禁スルハ却テ反対ヲ起スノ虞アリ然レ共日本人ニ対シ暴行等断シテ為サシメサル如ク嚴重ニ警戒シアリト要スルニ右ハ学生等ノ一種ノ流行病トモ見ルヘク雲南ノ有力者及商人等ハ極メテ冷静ナル態度ヲ支持シ居レリト

次官、北京済